

2020年度 大学院政策創造研究科 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

修士課程_基本科目_必修【XW001】政策分析の基礎〔石山 恒貴、高尾 真紀子、梅溪 健児、増淵 敏之、真壁 昭夫、井上 善海、小方 信幸〕春学期前半/Spring(1st half)	1
修士課程_基本科目_必修【XW002】政策ワークショップ〔小方 信幸〕春学期後半/Spring(2nd half)	2
修士課程_基本科目_選択必修【XW003】調査法〔高尾 真紀子〕秋学期授業/Fall	2
修士課程_基本科目_選択必修【XW004】研究法〔上山 肇〕春学期前半/Spring(1st half)	4
修士課程_基本科目_選択必修【XW005】研究法〔上山 肇〕春学期後半/Spring(2nd half)	5
修士課程_基本科目_選択必修【XW006】研究法（中国語）〔鳥丸 知子〕春学期前半/Spring(1st half)	6
修士課程_基本科目_選択必修【XW007】質的研究法〔齋藤 弘通〕春学期後半/Spring(2nd half)	7
修士課程_基本科目_選択必修【XW008】日本経済論〔梅溪 健児〕秋学期前半/Fall(1st half)	8
修士課程_基本科目_選択必修【XW009】人的資源管理論〔石山 恒貴〕秋学期前半/Fall(1st half)	9
修士課程_基本科目_選択必修【XW010】地域活性化システム論〔高尾 真紀子〕秋学期前半/Fall(1st half)	10
修士課程_基本科目_選択必修【XW011】文化地理学〔増淵 敏之〕秋学期前半/Fall(1st half)	11
修士課程_基本科目_選択必修【XW012】都市空間論〔上山 肇〕春学期前半/Spring(1st half)	12
修士課程_基本科目_選択必修【XW013】観光社会学〔須藤 廣〕秋学期後半/Fall(2nd half)	13
修士課程_基本科目_選択必修【XW014】地域産業論〔真壁 昭夫〕春学期前半/Spring(1st half)	14
修士課程_基本科目_選択必修【XW015】中小企業論〔井上 善海〕春学期後半/Spring(2nd half)	15
修士課程_基本科目_選択必修【XW016】CSR 論〔小方 信幸〕春学期前半/Spring(1st half)	16
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW101】少子高齢化と社会保障〔高尾 真紀子〕秋学期後半/Fall(2nd half)	17
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW102】実証分析入門〔梅溪 健児〕春学期後半/Spring(2nd half)	18
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW103】雇用政策研究（マクロ）〔石山 恒貴〕春学期前半/Spring(1st half)	19
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW104】雇用政策研究（ミクロ）〔山田 亮〕春学期後半/Spring(2nd half)	20
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW105】キャリア政策研究〔小山 浩一〕秋学期前半/Fall(1st half)	21
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW106】地域雇用政策事例研究〔石山 恒貴〕秋学期後半/Fall(2nd half)	22
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW107】人材育成論〔石山 恒貴〕春学期後半/Spring(2nd half)	23
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW108】地域コミュニティ論〔中島 由紀〕秋学期後半/Fall(2nd half)	24
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW109】消費者政策・競争政策〔田口 義明〕秋学期前半/Fall(1st half)	25
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW110】生活政策論〔高尾 真紀子〕春学期後半/Spring(2nd half)	26
修士課程_プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW111】地域社会論〔上山 肇〕秋学期前半/Fall(1st half)	27
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW112】比較都市事例研究〔上山 肇〕春学期後半/Spring(2nd half)	28
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW113】文化基盤形成論〔増淵 敏之〕秋学期後半/Fall(2nd half)	28
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW114】コミュニティーメディア論〔北郷 裕美〕秋学期後半/Fall(2nd half)	30
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW115】都市文化論〔増淵 敏之〕春学期前半/Spring(1st half)	31
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW116】ニューツーリズム論〔須藤 廣〕秋学期前半/Fall(1st half)	32
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW117】文化社会学〔宮入 恭平〕秋学期前半/Fall(1st half)	33
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW118】地域ブランド論〔金子 和夫〕春学期前半/Spring(1st half)	33
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW119】コンテンツツーリズム論〔増淵 敏之〕春学期後半/Spring(2nd half)	35
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW120】観光開発論〔須藤 廣〕秋学期後半/Fall(2nd half)	36
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW121】フィールドワーク論〔須藤 廣〕春学期前半/Spring(1st half)	37
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW123】メディア産業論〔増田 弘道〕春学期授業/Spring	37

修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW124】 イベント・フェスティバル論 [山中 聡] 秋学期前半/Fall(1st half)	38
修士課程_プログラム科目_文化・都市・観光創造群 【XW125】 観光マーケティング論 [青木 洋高] 春学期集中/Intensive(Spring)	39
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW126】 行動経済学 [真壁 昭夫] 秋学期前半/Fall(1st half)	40
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW127】 応用行動経済学 [真壁 昭夫] 秋学期後半/Fall(2nd half)	41
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW128】 地域経営戦略論 [真壁 昭夫] 春学期後半/Spring(2nd half)	42
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW129】 ソーシャルキャピタル論 [黒田 英一] 秋学期後半/Fall(2nd half)	43
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW130】 非営利組織特論 [今瀬 政司] 秋学期前半/Fall(1st half)	44
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW131】 商店街活性化論 [井上 善海] 秋学期前半/Fall(1st half)	45
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW132】 新産業創出論 [井上 善海] 秋学期後半/Fall(2nd half)	46
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW133】 財務戦略論 [赤岩 茂] 秋学期後半/Fall(2nd half)	47
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW134】 事業承継論 [磯竹 克人] 春学期後半/Spring(2nd half)	48
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW135】 経営戦略論 [井上 善海] 春学期前半/Spring(1st half)	49
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW136】 ESG 投資と企業経営 [小方 信幸] 秋学期前半/Fall(1st half)	50
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW137】 SDGs と企業経営 [小方 信幸] 秋学期後半/Fall(2nd half)	50
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW138】 ダイバーシティ経営 [斎藤 悦子] 秋学期前半/Fall(1st half)	51
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW139】 コーポレートガバナンス [林 順一] 秋学期後半/Fall(2nd half)	52
修士課程_プログラム科目_地域産業・企業創造群 【XW140】 企業活動と社会 I [小方 信幸] 春学期後半/Spring(2nd half)	52
修士課程_関連科目 【XW141】 経済学 [梅溪 健児] 春学期前半/Spring(1st half)	54
修士課程_関連科目 【XW142】 社会学 [黒田 英一] 春学期前半/Spring(1st half)	55
修士課程_関連科目 【XW143】 レポートライティング [菅野 雅子] 春学期後半/Spring(2nd half)	56
修士課程_関連科目 【XW144】 英語論文文献講読 [梅溪 健児] 秋学期後半/Fall(2nd half)	57
修士課程_演習科目 【XW201】 プログラム演習 [梅溪 健児] 春学期授業/Spring	57
修士課程_演習科目 【XW202】 プログラム演習 [梅溪 健児] 秋学期授業/Fall	58
修士課程_演習科目 【XW203】 プログラム演習 [石山 恒貴] 春学期授業/Spring	59
修士課程_演習科目 【XW204】 プログラム演習 [石山 恒貴] 秋学期授業/Fall	60
修士課程_演習科目 【XW205】 プログラム演習 [高尾 真紀子] 春学期授業/Spring	61
修士課程_演習科目 【XW206】 プログラム演習 [高尾 真紀子] 秋学期授業/Fall	62
修士課程_演習科目 【XW207】 プログラム演習 [増淵 敏之] 春学期授業/Spring	63
修士課程_演習科目 【XW208】 プログラム演習 [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	63
修士課程_演習科目 【XW209】 プログラム演習 [上山 肇] 春学期授業/Spring	64
修士課程_演習科目 【XW210】 プログラム演習 [上山 肇] 秋学期授業/Fall	65
修士課程_演習科目 【XW211】 プログラム演習 [須藤 廣] 春学期授業/Spring	66
修士課程_演習科目 【XW212】 プログラム演習 [須藤 廣] 秋学期授業/Fall	66
修士課程_演習科目 【XW213】 プログラム演習 [真壁 昭夫] 春学期授業/Spring	67
修士課程_演習科目 【XW214】 プログラム演習 [真壁 昭夫] 秋学期授業/Fall	67
修士課程_演習科目 【XW215】 プログラム演習 [井上 善海] 春学期授業/Spring	68
修士課程_演習科目 【XW216】 プログラム演習 [井上 善海] 秋学期授業/Fall	68
修士課程_演習科目 【XW217】 プログラム演習 [小方 信幸] 春学期授業/Spring	69
修士課程_演習科目 【XW218】 プログラム演習 [小方 信幸] 秋学期授業/Fall	70
博士後期課程_基本科目_必修 【XW301】 研究法 [石山 恒貴、増淵 敏之、真壁 昭夫、上山 肇、井上 善海、高尾 真紀子、梅溪 健児] 春学期前半/Spring(1st half)	71
博士後期課程_基本科目_必修 【XW302】 外国語文献講読 [須藤 廣] 春学期後半/Spring(2nd half)	72
博士後期課程_基本科目_必修 【XW303】 合同ゼミ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	73
博士後期課程_研究指導科目 【XW315】 雇用政策特殊研究Ⅱ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses	73
博士後期課程_研究指導科目 【XW316】 雇用政策特殊研究Ⅲ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses	74
博士後期課程_研究指導科目 【XW317】 文化政策特殊研究Ⅰ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	74
博士後期課程_研究指導科目 【XW318】 文化政策特殊研究Ⅱ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	75
博士後期課程_研究指導科目 【XW319】 文化政策特殊研究Ⅲ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	75
博士後期課程_研究指導科目 【XW324】 産業政策特殊研究Ⅱ [真壁 昭夫]	76

博士後期課程_研究指導科目	【XW326】企業経営特殊研究Ⅰ [井上 善海] 集中・その他/intensive・other courses	77
博士後期課程_研究指導科目	【XW327】企業経営特殊研究Ⅱ [井上 善海] 集中・その他/intensive・other courses	78
博士後期課程_研究指導科目	【XW328】企業経営特殊研究Ⅲ [井上 善海]	79
博士後期課程_研究指導科目	【XW329】CSR 特殊研究Ⅰ [小方 信幸]	80
博士後期課程_研究指導科目	【XW330】CSR 特殊研究Ⅱ [小方 信幸] 集中・その他/intensive・other courses	80
博士後期課程_研究指導科目	【XW331】CSR 特殊研究Ⅲ [小方 信幸]	81
博士後期課程_研究指導科目	【XW332】地域社会政策特殊研究Ⅰ [高尾 真紀子]	81
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW351】経済政策特殊講義(日本経済論) [梅溪 健児] 秋学期前半/Fall(1st half)	82
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW352】経済政策特殊講義(実証分析入門) [梅溪 健児] 春学期後半/Spring(2nd half)	83
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW353】雇用政策特殊講義(雇用政策研究(マクロ)) [石山 恒貴] 春学期前半/Spring(1st half)	84
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW354】雇用政策特殊講義(人的資源管理論) [石山 恒貴] 秋学期前半/Fall(1st half)	85
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW355】雇用政策特殊講義(人材育成論) [石山 恒貴] 春学期後半/Spring(2nd half)	86
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW356】雇用政策特殊講義(地域雇用政策事例研究) [石山 恒貴] 秋学期後半/Fall(2nd half)	87
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW357】地域社会政策特殊講義(少子高齢化と社会保障) [高尾 真紀子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	88
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW358】地域社会政策特殊講義(地域活性化システム論) [高尾 真紀子] 秋学期前半/Fall(1st half)	89
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW359】地域社会政策特殊講義(生活政策論) [高尾 真紀子] 春学期後半/Spring(2nd half)	90
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW360】都市政策特殊講義(地域社会論) [上山 肇] 秋学期前半/Fall(1st half)	91
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW361】都市政策特殊講義(都市空間論) [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	92
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW362】都市政策特殊講義(比較都市事例研究) [上山 肇] 春学期後半/Spring(2nd half)	92
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW363】文化政策特殊講義(都市文化論) [増淵 敏之] 春学期前半/Spring(1st half)	93
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW364】文化政策特殊講義(コンテンツツーリズム論) [増淵 敏之] 春学期後半/Spring(2nd half)	93
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW365】文化政策特殊講義(文化地理学) [増淵 敏之] 秋学期前半/Fall(1st half)	94
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW366】文化政策特殊講義(文化基盤形成論) [増淵 敏之] 秋学期後半/Fall(2nd half)	95
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW367】観光政策特殊講義(ニューツーリズム論) [須藤 廣] 秋学期前半/Fall(1st half)	96
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW368】観光政策特殊講義(観光開発論) [須藤 廣] 秋学期後半/Fall(2nd half)	97
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW369】観光政策特殊講義(観光社会学) [須藤 廣] 秋学期後半/Fall(2nd half)	98
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW370】観光政策特殊講義(フィールドワーク論) [須藤 廣] 春学期前半/Spring(1st half)	99
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW371】産業政策特殊講義(地域産業論) [真壁 昭夫] 春学期前半/Spring(1st half)	99
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW372】産業政策特殊講義(地域経営戦略論) [真壁 昭夫] 春学期後半/Spring(2nd half)	100
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW373】産業政策特殊講義(行動経済学) [真壁 昭夫] 秋学期前半/Fall(1st half)	101
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW374】産業政策特殊講義(応用行動経済学) [真壁 昭夫] 秋学期後半/Fall(2nd half)	102
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW375】企業経営特殊講義(中小企業論) [井上 善海] 秋学期前半/Fall(1st half)	103
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW376】企業経営特殊講義(経営戦略論) [井上 善海] 春学期前半/Spring(1st half)	104
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW377】企業経営特殊講義(新産業創出論) [井上 善海] 秋学期後半/Fall(2nd half)	105
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW378】企業経営特殊講義(商店街活性化論) [井上 善海] 春学期後半/Spring(2nd half)	106
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW379】CSR 特殊講義(CSR 論) [小方 信幸] 春学期前半/Spring(1st half)	107
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW380】CSR 特殊講義(企業活動と社会Ⅰ) [小方 信幸] 春学期後半/Spring(2nd half)	108
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW381】CSR 特殊講義(ESG 投資と企業経営) [小方 信幸] 秋学期前半/Fall(1st half)	109
博士後期課程_(専門領域科目)	【XW382】CSR 特殊講義(SDGs と企業経営) [小方 信幸] 秋学期後半/Fall(2nd half)	109

BSP500R1

政策分析の基礎

石山 恒貴、高尾 真紀子、梅溪 健児、増淵 敏之、真壁 昭夫、井上 善海、小方 信幸

科目分類：基本科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策の分析や研究論文作成に必要な統計データの分析手法、社会調査における量的・質的データの収集と分析、フィールドワーク、政策及び企業の事例研究の手法等をその背景にある学術的根拠とともに学ぶ。

【到達目標】

修士論文の作成に必要な分析スキルを身に付け、自身の論文に適切な手法を選択し、活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当教員がテーマに沿って講義、グループディスカッション、レポート、プレゼンなどを交えた授業を行う。毎回何らかの課題（小レポート等）を課す。

オンライン授業を実施します。受講方法は学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	景気動向と経済政策との関係（真壁）	政府の経済政策を例にとって、そもそも、経済政策の必要性とその効果についての分析を行う。具体的に、今起きていることに興味を持って、グループディスカッションなどを含めて考察するものとする。
2	質的調査の方法と分析（石山）	質的調査の背景にある学術的根拠を理解したうえで、データを収集し、その分析を行う手法について学ぶ。さらに、分析結果を政策分析に反映する考え方について学ぶ。
3	量的調査の方法と分析（高尾）	量的調査の質問票の作成方法と基本的な分析手法について学び、目的に応じ、どのような分析手法を選択すべきかを検討する。
4	フィールドワーク（増淵）	地理学的なアプローチでのフィールドワークについて論じる。事例を挙げてわかりやすく説明することを念頭に置く。
5	企業事例研究（井上） CSR・SRI 定量分析（小方）	事例研究（ケース・スタディ）は、単一ないし少数の事例を対象に深く多面的な分析を行う研究アプローチで、「だれが」「なぜ」「どのように」といった質問に答える際に役立つ。本講義では、企業を対象とした事例研究の方法と分析手法について学ぶ。CSR・SRI 定量分析では、事前に配布する2つの定量分析の論文を読みつつ、論文の構成と重回帰分析の使い方について学ぶ。横断面データ（クロスセクション・データ）の分析に関する基本的な手法と、因果関係を導出する回帰分析の基礎を学ぶ。パソコン（エクセル使用）を持参してください。
6	政策分析と統計データ（梅溪）	戦前から戦後まで「観光政策」はどのように認知され、実際どのように行われたのかを講義し、参加者と討論する。
7	日本の観光政策の近代史（須藤）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ごとにテーマに対応した課題（小レポート等）を課す。
新聞やその他のメディアで、今起きていることを各自が把握して授業に参加するようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』2017年、ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

各回のレポート及び平常点（授業への貢献等）の総合点を合計して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の学びやすさを考慮し順序を変更した。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにオンライン授業の受講方法を掲示します。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to master methods and methodologies necessary for policy analysis and preparing master's thesis. Students learn about analysis of statistical data, collection and analysis of quantitative / qualitative data in social surveys, field work, case study.

BSP500R1

政策ワークショップ

小方 信幸

科目分類：基本科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では、受講生がワークショップを通じて、政策提言の疑似体験を行うことを目的とする。

【到達目標】

毎回講師が提示する政策提言に関するテーマ・論点に応じたワークショップ（共同作業）を運営することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回授業は6月13日（土）1・2限に行う。市ヶ谷キャンパス入構禁止が続くなどの場合はオンラインで授業を行う。当授業は、当研究科の教員が毎回交代で担当する。授業前半は教員が専門とするテーマで講義を行う。後半は、教員からのテーマに沿って、グループに分かれて討議を行い、討議内容を発表する。毎回の授業運営は受講生中心に行う。受講生は、全員が各回のファシリテーション・グループに割り振られ、授業の準備、当日の進行、授業後の報告書作成など担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス及びワークショップ準備	当科目の主旨及び内容説明。グループ分け。グループ毎に次週以降担当する回のワークショップ準備。
2	ワークショップ①	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
3	ワークショップ②	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
4	ワークショップ③	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
5	ワークショップ④	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
6	ワークショップ⑤	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
7	ワークショップ⑥	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する回のワークショップの準備、ならびに担当したワークショップの報告書の作成の時間が必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

【参考書】

「政策創造のすすめ」（政策創造研究科同窓会編）。前年度の「政策ワークショップ報告書」。その他、担当教員の講義内容に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 %、討議への参加 30 %、担当したワークショップ報告書 10 %。

【学生の意見等からの気づき】

限られた時間内で、一層効率的な議論・討論ができるようにするため、ファシリテーターの知識を共有するなど工夫をすること。

【Outline and objectives】

This course provides students with an opportunity to simulate policy proposals through workshops.

BSP510R1

調査法

高尾 真紀子

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策立案、政策創造の前提となる現状把握には客観的な数量分析が不可欠であり、修士論文においても、客観的なデータの分析を加えることによって、より説得性を増す。本講義では、統計データ及び質問紙調査を使った実証分析の方法を理解、習得し、修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【到達目標】

統計データの解析等の実証分析の方法を理解し、各自の修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に統計データを使用して計算ソフト（EXCEL）の分析方法を実習し、統計学を用いてその分析結果を正しく解釈するための能力を身につける。エクセルを使ったアンケート集計の方法についても解説する。統計学、数学的知識は必要としない。内容は以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、さまざまな調査手法と本講義で取り扱う範囲について学ぶ
第2回	経済統計の基礎	経済統計データの基礎知識を学び、統計データを加工する
第3回	社会調査の方法：質問票の作成	社会調査、特に質問紙調査の設計から実施までの方法と留意点を学び、質問票を作成する
第4回	調査結果の集計・分析	調査結果の集計、分析の手法を学び、エクセルを使った単純集計、クロス集計の方法を習得する
第5回	統計の基礎①	平均と分散、標準偏差、正規分布等の統計の基礎について学ぶ
第6回	統計の基礎②	カイ二乗検定、t検定、F検定など仮説検定の手法について、どのような場合に使うかを学び、実習を行う
第7回	相関分析	相関の概念について学び、散布図の作成や相関係数の求め方を実習する
第8回	回帰分析	単回帰分析の考え方を学び、分析手法を実習する
第9回	重回帰分析①	多変量解析の中でも様々な場面で活用範囲の広い重回帰分析について学ぶ
第10回	重回帰分析②	様々な重回帰分析を実際のデータを基に実習する
第11回	多変量解析	因子分析、主成分分析等の多変量解析の考え方とどのような場面で活用できるのかを学ぶ。
第12回	統計分析演習	1-11回で学習した手法を用いたデータ分析演習を行う。
第13回	課題発表	各自のテーマに基づき、学習した手法を用いてデータ分析を行った結果の発表を行う。
第14回	課題発表	各自のテーマに基づき、学習した手法を用いてデータ分析を行った結果の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excelの基本操作が出来るようにしておくこと。
授業中のデータをUSB等で保存し、授業中に出来なかったことは家で復習すること。

本講義で用いた手法等を用いて、各自の専門（修士論文）に関連したテーマを選び、現状分析を行い（データをさがし加工する）、レポートを作成（文章と図表で説明）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

○分析例
内閣府「経済財政白書」厚生労働省「労働経済白書」経済産業省「通商白書」等
○統計データ
総務省統計局「国勢調査」「家計調査」「全国消費実態調査」「社会生活基本調査」「労働力調査」「経済センサス」等 <http://www.stat.go.jp/>

内閣府「国民経済計算（GDP統計）」<http://www.esri.cao.go.jp/sna/menu.html>

財務省「貿易統計」<http://www.customs.go.jp/toukei/info/tsdl.htm>

日本銀行統計 <http://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/>

○その他

鮑戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社

伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書

中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』

森田果『実証分析入門』日本評論社

西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社

西内啓『統計学が日本を救う 少子高齢化、貧困、経済成長』中央公論新社

涌井良幸、涌井 貞美『Excel で学ぶ統計解析』

涌井良幸、涌井 貞美『図解 使える統計学』

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）、実習（30 %）、レポート（50 %）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のエクセル習熟度が異なるため、複数の演習課題を用意し、進捗の速い学生は、さらに進んだ演習に進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

各自が情報端末を使用（インターネットによるデータのダウンロードが行える）しながら受講できる教室を使用。

【その他の重要事項】

基礎的な内容なので、出来る限り早期（1 年目）に履修することが望ましい。
※講義概要は変更が起こりうる場合があります。

【Outline and objectives】

This course aims to understand and acquire the method of empirical analysis of data using statistical data and questionnaire survey and make it practically applicable for preparation of master thesis.

BSP510R1

研究法

上山 肇

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成手法の習得

【到達目標】

研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義 ②研究の内容 ③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。 また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに即した先行研究の調査・分析。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「まちづくり研究法」（三恵社）。その他、講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

BSP510R1

研究法

上山 肇

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成手法の習得

【到達目標】

研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義 ②研究の内容 ③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。 また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに即した先行研究の調査・分析。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「まちづくり研究法」（三恵社）。その他、講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

BSP510R1

研究法（中国語）

鳥丸 知子

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成手法の習得
 硕士论文的写作方法

【到達目標】

研究テーマ設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成
 选题与制定研究计划书

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義 ②研究の内容 ③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

按单元展开研究计划书的内容讲授。写作包含有①研究目的与意义②研究内容③预期结论（假设）的研究计划书。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1, 2	ガイダンス 導入	自己紹介。その後、本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明します。自我介绍。说明本课程的开展方法。并解释研究计划书。
3, 4	研究計画の見直し 研究计划的審査	現在の研究計画を発表し、問題点を検討します。 根据目前的研究计划，大家一起讨论其内容以及问题。
5, 6	研究計画の見直し 研究计划的審査	現在の研究計画を発表し、問題点を検討します。 根据目前的研究计划，大家一起讨论其内容以及问题。
7, 8	研究計画の立案と研究計画書の作成 研究计划的确定，研究计划书写作	最終的な論文のイメージを明確にし、研究計画書を作成します。 明确论文的内容，并写作研究计划书
9, 10	研究計画の立案と研究計画書の作成 研究计划的确定，研究计划书写作	最終的な論文のイメージを明確にし、研究計画書を作成します。 明确论文的内容，并写作研究计划书
11, 12	研究計画の立案と研究計画書の作成 研究计划的确定，研究计划书写作	最終的な論文のイメージを明確にし、研究計画書を作成します。 明确论文的内容，并写作研究计划书
13, 14	研究計画書の発表 阐述研究计划书	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。 口头阐述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに即した先行研究の調査・分析。
 根据确定的选题展开的前期调查与分析
 本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。
 预习和复习的时间为约 4 小时

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。
 没有指定的课本。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。
 根据需要在讲课时介绍。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート 50 %で行います。
 上课神态 60%、作业（报告书等）40%

【学生の意見等からの気づき】

学生各自の研究の進展に合わせた指導を行うことに留意する。
 指导以配合每位学生研究的进展情况。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire of master's thesis creation method.

BSP510R1

質的研究法

齋藤 弘通

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的研究法とは、事象の性質や特徴といった数値化しにくいデータを扱い、事象を質的に理解、説明、解釈しようとする研究方法であり、量的研究ではアプローチできない研究課題を解明する上で有用なものである。本科目ではこの質的研究法の特性や質的研究を行う際の流れを理解するとともに、質的研究で用いられる代表的な分析手法について理解、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ① 質的研究法の特性、研究プロセスが説明できる。
- ② インタビュー法や観察法を用いて質的データを収集することができる。
- ③ 収集した質的データを適切に分析・解釈することができる。
- ④ 質的研究を活用した研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ 授業は各回とも講義と演習を織り交ぜながら進めていく。
- ・ 演習は個人で行うものとチームで行うものがある。
- ・ 第 6 回・第 7 回ではチームでインタビュー調査を実施し、データの分析と調査結果の発表を行う。
- ・ 講義は質的研究法の初学者を念頭において行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	質的研究の特性と研究プロセス	量的研究との対比から、質的研究の持つ特性について詳しく理解する。また、質的研究の一般的な流れ（リサーチエスチョンの設定、調査対象の選定とデータの収集、テキストデータに対するコーディングとカテゴリ化、概念モデル・理論の生成）について理解する。
2	質的データ収集の技法① インタビュー法	質的データを収集するための技法であるインタビュー法の類型や特徴、インタビュー調査の際に準備すべきこと、インタビューの具体的な進め方について理解する。
3	質的データ収集の技法② 観察法	質的データを収集するための技法である観察法の類型や特徴、進め方について理解する。また、映像データを観察し、フィールドノーツを作成する手順を実際に体験する。
4	質的データの解釈・分析	収集した質的データに対して、コードを割り当て（コーディング）、カテゴリを生成していくプロセスについて理解する。また、カテゴリ間の関係性を図解し、分析結果をストーリーラインにまとめていく手順を把握する。
5	代表的な質的データ分析法	質的研究で用いられる代表的な分析法（GTA、M-GTA、SCAT、ドキュメント分析等）について理解する。また、M-GTA など、代表的な質的データ分析法を用いた研究論文を読み、分析手続きの仕方や結果のまとめ方を把握する。
6	質的データの収集・分析 演習	チームごとに、設定された調査課題に応じて実際にインタビュー調査を行い、質的データを収集するとともに、得られたデータを分析する演習を行う。
7	演習結果の発表・研究計画の検討	チームごとにインタビュー調査の結果を報告資料にまとめ、発表する。また、自身の研究において質的研究を用いる場合の研究計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 本授業の準備学習および復習のため、質的研究法に関する文献や論文を読み、要約をまとめる。（文献や論文は都度授業において配布する）
 - ② 授業内で行った演習に関する宿題に取り組む。（宿題の内容は随時指示する）
 - ③ チームで取り組むインタビュー調査演習において、授業外の時間を用いて、データの分析と調査報告資料の作成を行う。
 - ④ レポート課題に取り組む。（レポートのテーマは授業において指示する）
- ・ 本授業の準備学習および復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するレジュメ（パワーポイントにて作成）をテキストとして使用する。

【参考書】

ウヴェ・フリック著・小田博志監訳『新版 質的研究入門＜人間の科学＞のための方法論』春秋社,2011 年
 太田裕子『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ—研究計画から論文作成まで—』東京図書,2019 年
 大谷尚『質的研究の考え方 研究方法論から SCAT による分析まで』名古屋大学出版会,2019 年
 佐藤郁哉『フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社,2002 年
 佐藤郁哉『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社,2008 年
 サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編『質的研究法マッピング』新曜社,2019 年
 須田敏子『マネジメント研究への招待 研究方法の種類と選択』中央経済社,2019 年
 その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の配分により、成績評価を行う。

- ① 平常点（授業への参加、グループ演習への積極的参加） 20 %
- ② 文献・論文の要約および宿題への取り組み 20 %
- ③ インタビュー調査報告資料の作成（チームにて作成） 20 %
- ④ レポート課題への取り組み 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

少人数チームでのインタビュー調査演習（インタビュー調査の実施、データの分析、調査報告資料の作成）があることにご留意いただきたい。また当該演習において授業外の時間を活用する場合がある点もお含みおきいただきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces the qualitative research methods to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire an understanding the characteristics and process of qualitative research methods.

The goals of this course are to

- be able to explain the characteristics and process of qualitative research methods,
- be able to collect qualitative data using interview survey and observation method,
- be able to analyze and interpret the collected qualitative data properly,
- be able to make a research plan using qualitative research.

ECN510R1

日本経済論

梅溪 健児

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、平成 30 年間の経済社会動向と政策論議を振り返り、今後の日本経済の行方を考えるうえで重要な論点を体系的に理解できるようにすることを目的とする。論点は、人口動向、雇用、格差、社会保障、生産性、金融などから選択する。

【到達目標】

現代日本経済の現状と直面する課題について歴史的な位置づけを把握し、政策課題について論理的に発言できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、平成の 30 年を 4 つに区分し、それぞれに最も特徴的な経済社会の論点に関して政府の報告書や識者の評論から議論を整理する。また、講義で配布する教材に関して受講生が評論を作成することにより、書く力の養成を支援すると同時に討議を行う。経済学の予備知識、数学的素養は問わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代日本経済における平成 30 年の位置付け	バブル経済から失われた 20 年に至った平成時代を概観し主要な論点を理解する。
2	第 1 期：バブル経済の崩壊と縮小均衡へ	バブルの発生と経済の高揚を理解し、それへの政策対応とバブル崩壊の影響を学ぶ。
3	第 2 期：長期停滞と経済社会の変化	三つの過剰に対処する中で長期停滞が進行した要因を考察し、顕在化した金融システムの危機について学ぶ。
4	第 3 期：成長に向けた経済改革：分配と成長	失われた 20 年と呼ばれる長期停滞はどのような状況だったのかを理解し、景気回復とデフレ脱却に向けた政策を学ぶ。
5	第 4 期：規制改革の進展と政権交代	雇用の流動化、リーマンショック、国民生活重視、災害の頻発などを背景に取り組みされた政策体系を学ぶ。
6	少子化と人口減少の日本経済	グローバル化の中で深刻化する労働力不足の現状を理解し、人口構造の変化に対応する政府支出の負担のあり方を考える。
7	レポート発表と討議	自作の図表を持参し、レポートの発表と討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞、ニュース報道などを通じて日本経済の動きに注意し、エビデンスと政策のポイントを整理しておくことが望ましい。さらに、自身で経済社会データを検索し、図表化することを心がけてほしい。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義用及び小エッセイ作成用の教材を配布する。

【参考書】

小峰隆夫・村田啓子（2016）『最新日本経済入門（第 5 版）』日本評論社

小峰隆夫（2019）『平成の経済』日本経済新聞出版社

鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子（2019）『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

小エッセイ（3 回）45 %、レポート作成と発表 55 %

【学生の意見等からの気づき】

経済社会のデータに接し、それを議論に活用する習慣を身につけ、各自の研究を深める踏み台となることを期待する。トピックは幅広くなるが、自身の研究テーマの歴史的展開を考察していけば今後役立つと思われる。

昨年度の講義材料は受講生の関心事に即していたとのことなので、授業計画に変更はない。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成・発表は、図表（パワポ等で自身が作成したもの）を持参すること。

【Outline and objectives】

This course aims to build historical perspective on important matters that have shaped development of Japan by reviewing Japanese economy and policy management for three decades since late 1980s. Topics will be chosen from empirical researches on population trend, employment, rising income differentials in households, social security, productivity, and monetary issues.

MAN510R1

人的資源管理論

石山 恒貴

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本の雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本の雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
第 2 回	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
第 3 回	日本の雇用と職務	変化しつつある日本の雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。
第 4 回	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。
第 5 回	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
第 6 回	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
第 7 回	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけでなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的に読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

石山恒貴 『組織内専門人材のキャリアと学習』 生産性労働情報センター 2013 年
上林憲雄・三輪卓己編著『ケーススタディ 優良・成長企業の人事戦略』税務経理協会
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018 年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回あたり 5 点満点で計 35 点満点）、②受講者による事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な事例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなど PC を使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

ARSI510R1

地域活性化システム論

高尾 真紀子

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師（内閣府をはじめとした関係省庁の政策担当者、民間専門家）が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカッションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム（RESAS）を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している（2016 年：地域の“つながり”、2017 年度：多様な人材の活躍、2018 年度：世界とつながる、2019 年度：人を育てる）。2020 年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。参考までに、以下に 2019 年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義 受講生によるディスカッション 1	「地方創生の推進について」 内閣府地方創生推進室 参事官補佐 野村雅之氏
2	講義 受講生によるディスカッション 2	「地方創生と RESAS（地域経済分析システム）」株式会社価値総合研究所 パブリックコンサルティング第一事業部部長 主席研究員 鴨志田武史氏
3	講義 受講生によるディスカッション 3	「農業の魅力化と人づくり」 イオンアグリ創造株式会社 代表取締役社長 福永庸明氏
4	講義 受講生によるディスカッション 4	「地域の食文化の継承」 大正大学表現学部 客員教授 写真家・ジャーナリスト 森枝卓士氏
5	講義 受講生によるディスカッション 5	「『農福連携』と『ユニバーサル農業』」 明治大学客員教授 農業ジャーナリスト 榎田みどり氏
6	講義 受講生によるディスカッション 6	「日本ワインと地域の力」 信州大学特任教授 フード＆ワインジャーナリスト 鹿取みゆき氏
7	講義 受講生による発表	「学校魅力化による地域づくり」 鳥根県教育魅力化特命官/一般社団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 共同代表 岩本悠氏

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

前野隆司編著『システム × デザイン思考で世界を変える』日経 BP 社
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点（1/3）、授業への貢献（1/3）、発表の内容（1/3）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が少なかったため、早い段階で各界で活躍する講師とディスカッションできる講義の魅力を伝えるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

P C を接続して画面をスクリーンに表示できる設備

D V D の動画番組をスクリーンに表示できる設備

【その他の重要事項】

※講義概要は講師の都合等により変更が起これる場合がある。

【Outline and objectives】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

GEO510R1

文化地理学

増淵 敏之

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行っていく。

【到達目標】

到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的に進んでいる現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらしているのかを理解し、説明することができるまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主として進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1,2	人文地理学と現代社会/人文地理学と地域	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について
3,4	文化地理学入門 1/2	文化地理学のこれまでの流れを説明
5,6	食文化の地理学 1/2	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る
7,8	文化的地域差についての議論 1/2	テーマを設定し、学生間での議論を行う
9,10	ことばの地域性/景観の地域性	言語地理学について学び、その後、景観論に言及する
11,12	習慣の文化的差異/文化的差異を形成する要因	儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について
13,14	ポピュラーカルチャーの地理学 1/2	これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしていくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「文化地理学ガイダンス」中川 正、神田 孝治、森 正人、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことを心がける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：金 16 - 18 時

【Outline and objectives】

When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSx510R1

都市空間論

上山 肇

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】

都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	(1) 地域社会における都市空間 (2) 都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1) 「まちづくり」とは (2) 都市化と都市問題
2	(1) 都市空間の構成要素 (2) 都市空間を実現するための手段	(1) 建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2) 計画、ルール、事業 等
3	(1) 都市空間の形成プロセス (2) 都市空間の規制手法 1	(1) 市民参加と合意形成 等 (2) ゾーニングの歴史と理論
4	(1) 都市空間の規制手法 2 (2) 都市空間における景観	(1) ゾーニングと地区まちづくり (2) 景観コントロール
5	(1) 都市空間の開発手法 (2) 都市空間の再生	(1) 都市再開発の仕組み 等 (2) 中心市街地の活性化
6	(1) 都市空間の評価手法 (2) 事例研究 1（事業）	(1) 評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2) 土地区画整理事業、再開発事業、密集事業 等
7	(1) 事例研究 2（制度） (2) 事例研究 3（テーマ型）	(1) 地域地区、地区計画 等 (2) 水辺空間の再生（国内・海外事例）等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料を読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、事例紹介が学生にとって有効であったため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】

受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces the condition for the urban space to be formed(components, plans, rules and processes, etc.) and the ability to form the urban space to students taking this course.

TRS510R1

観光社会学

須藤 廣

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における観光のあり方、及び現代社会がいかに「観光的なるもの」によって成立しているのかを探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、観光が元来持っている文化の特徴と消費社会における現代文化の特徴の両者を把握しつつ、現代の「観光」について理解することを本講義では目的とする。

【到達目標】

現代社会における観光のあり方を、現代社会の特徴との関係において分析できる力を養う。現代社会において観光はサービス商品の一つであるとともに、それからはみ出す「余剰」としての「社会構築（連帯）的」部分を持っている。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者を養うことがこの授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義によって授業を進める。内容に区切りを設け、その都度学生に質問や意見を求め議論をする。2 回ほどリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、観光の基本構造	先ず、授業を概説し、その後で観光社会学の基本理論について概説する。近代社会と観光的なるものの変容について、ダニエル・ブーアスティン、ディーン・マッキヤーネル、ジョン・アーリ、ジョージ・リッツァーの理論を紹介し議論する。
第 2 回	起源としての巡礼と観光の近代化	最初に宗教的側面について、実例として、伊勢参りを取り上げる。日本以外の巡礼についてもビデオ等を見ながらその特徴を考える。また、ヨーロッパのグランツァーについても解説し議論する。
第 3 回	戦後の日本の観光（戦後から 1970 年代まで）	戦後、特に東京オリンピック以降、日本人の観光のあり方がどのように変わったかを見てゆく。観光は視覚化され、イメージ化され、さらに次第に人工的なものになってゆく。1970 年代の「ディスカバー・ジャパン」キャンペーンまでの日本の観光についても考える。
第 4 回	メディア消費化する観光（1980 年代以降）	1970 年代から急激に成長した日本人のハワイ観光について考える。また、1980 年代以降の日本人の観光客の個人化と観光消費の記号消費化について考える。特に 1983 年の東京ディズニーランドの開園は日本の観光のあり方を大きく変えた。ディズニーランドの意味についても議論する。
第 5 回	記号消費とポストモダンイズム、そして観光消費	ポストモダニズムの文化と観光消費の親和性について考える。成長と平等という「大きな物語」が消失した後、観光地住民にとっても、観光者にとっても、観光がアイデンティティ創出の重要な手段となってきた。下町散策等、生活圏の観光化も一つの潮流になりつつある。ノスタルジーやエキゾティシズムも含めた、日本の記号消費と観光のあり方について考える。

第 6 回	ポストモダン社会における観光と参加する観光地住民	1990 年以降、観光による社会的アイデンティティづくりを重要な手段とするまちづくり運動が各地で行われるようになった。このような運動は 1987 年に施行された「リゾート法」以降の日本の観光のあり方への批判とセットとなっている。こういった「観光まちづくり運動」とは何だったのかを問う。由布院の例を解説する。また、まんがアニメツーリズム、アートツーリズム、ダークツーリズムと観光地の表象について考える。
第 7 回	観光は人々を統合するの か、それとも分断する のか？ 現代観光の両義的側面について	これまでの講義の結論部分である。受講生と共に社会における観光の「可能性」や「限界」について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

観光地、観光的なるものについて、観光しているときに、あるいは街を歩いているときに批判的（批評的）に考える習慣を身につけて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

須藤廣『観光社会学 2.0』福村出版、2018 年

【参考書】

須藤廣、遠藤英樹『観光社会学—ツーリズム研究の冒険的試み』明石書店、2005 年
須藤廣『ツーリズムとポスト・モダン社会』明石書店、2012 年
D. マッキヤーネル（安村克己、須藤廣他訳）『ツーリスト—高度近代社会の構造分析』学文社、2012 年
その他、授業にて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 30 点、レポート 70 点。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート内容をよく見て改善する。

【Outline and objectives】

Tourism is an important resource of modern society. Sociology of Tourism is a part of sociology which considers the formation of modern society by investigating the role of tourism in modern society. This lecture depicts both the positive and the negative sides of tourism culture in modern or postmodern societies

MAN510R1

地域産業論

真壁 昭夫

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを目的とするために、どのような政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深めることを目指す。具体的には、ケーススタディなどのプレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、あるべき地域産業政策内容などを議論する。

【到達目標】

わが国地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

外部講師のほか、受講者からのプレゼンテーション報告を行う。報告内容を基に、グループディスカッションを行い、討議から得られた内容を発表する。講義に関しては、受講者の能動的かつ積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	受講者の関心、問題意識などを確認し、講義の進め方などを確認する。
第 2 回	日本経済の状況	受講者からのプレゼンテーションを基に、マクロの観点からわが国経済、産業動向などがどうなっているか、どのような政策が重視されているかを理解する。
第 3 回	地域経済の状況①	受講者からのプレゼンテーションを基に、各地域の経済動向、産業上の強みなどを理解する。その上で、政策の効果などを評価する。
第 4 回	地域経済の状況②	第 3 回の講義内容を基に、地域における産業育成、その強化に必要な取り組みに関するプレゼンテーション、およびグループディスカッションを行う。
第 5 回	地域産業に関する政策	受講者からのプレゼンテーションにより、政府、地方自治体が進める政策内容を確認する。どのような政策が必要と考えられるか、グループディスカッションを行う。
第 6 回	地域産業の動向	受講者からのプレゼンテーションにより、地域での企業の経営状況、業績動向などを把握する。地域における企業の育成、競争力向上などのためにどのような取り組みが必要か、グループディスカッションを行う。
第 7 回	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントを抑える。また、受講者からの発表などを通して、疑問点などを確認し、更なる理解を深める機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発表・ディスカッションへの参加等）（50％）、プレゼンテーション（50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【Outline and objectives】

"Lectures on Regional Industry" is designed to understand business activities in regions of Japan. Based on the discussions in the class (mainly, group discussion), students will be required to present policy proposals to economic development in the region.

MAN510R1

中小企業論

井上 善海

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

【到達目標】

- ①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
- ②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。
4	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上善海編著（2014）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300 円）

【参考書】

井上善海編（2009）『中小企業の戦略』同友館（2,800 円）

中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50%）、講義内で課すミニレポート（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、CSR を本業を通じ社会価値と経済価値を実現する CSV (Creating shared Value, 共通価値の創造) と定義する。授業の前半では講義を行い、後半はグループディスカッションを行う。講義とグループディスカッションを通じ、企業が CSV を実現する経路を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

受講生は、企業が本業を通じて社会価値と経済価値を創造する「共通価値の創造」について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回授業は4月27日（月）6・7時限に行う。授業はすべて Zoom を使用したオンライン授業となる。「学習支援システム」には授業資料に加え、オンライン授業への参加方法を掲載する。毎回、「学習支援システム」の事前確認を励行して頂きたい。

毎回、原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループディスカッションを行う。CSV を実践している企業のケースを通じて、企業が本業を通じて社会価値と経済価値を創造する経路を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) 講義：歴史から学ぶ CSR の概念
2	国際的規範 (1)	(1) 講義：国際連合のグローバル・コンパクト、責任投資原則 (2) ケース：「脱炭素社会」を考える。
3	国際的規範 (2)	(1) 講義：国際連合の持続可能な開発目標 (SDGs) (2) わが国の企業の対応
4	共通価値の創造 (CSV)	(1) 講義：CSV (2) ケース：ネスレと味の素グループ
5	サステナビリティ経営を考える	(1) 講義：CSV とサステナビリティ経営の関係 (2) ケース：ユニリーバと花王
6	CSR の概念整理	(1) 講義：CSR, CSV, ESG, SDGs などの概念整理 (2) ケース：コマツ
7	共通価値の創造 (CSV) 中小企業の事例	(1) 講義：環境保全を通じた地域活性化について考える (2) ケース：石坂産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 配布資料を事前に読んで、授業で発言できるように準備する。
(2) 授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・授業貢献 (40%)、期末レポート (60%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 学生発表の機会を今まで以上に増やすように努める。教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。
(2) 企業の CSR 部門の責任者をゲストスピーカーとして招聘したところ、受講生全員から CSR および CSV についての理解が深まったとの感想が寄せられた。2020 年度も授業の目的に合った方をゲストスピーカーとして招聘する考えである。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカーを招く場合は、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

In this course, CSR is defined as Creating Shared Value, CSV. The aim of this course is to help students acquire understanding of CSV. Students are expected to explain the essential concepts of CSV, discuss the specific subjects.

ECN520R1

少子高齢化と社会保障

高尾 真紀子

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／地域社会・介護福祉 | 経済・社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を得る。

【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、課題解決の方法について討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。
第 2 回	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
第 3 回	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。
第 4 回	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
第 5 回	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
第 6 回	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいか、議論する。
第 7 回	アジアの高齢化と日本の役割／課題発表	アジア各国で急速に進む高齢化に着目し、日本の経験をどのように生かせるか、議論する。各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

○政府の白書等
 内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」
 ○その他
 エスピン＝アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
 阿部彩『子どもの貧困』岩波新書
 池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫
 大竹文雄・平井啓（編著）『医療現場の行動経済学 すれちがう医者と患者』東洋経済新報社
 大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書
 小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
 河野稠果『人口学への招待』中公新書
 小峰隆夫『人口負担社会』日経プレミアシリーズ
 柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房

友原章典『移民の経済学』中公新書

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』中公新書

吉川洋『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

【Outline and objectives】

This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ECN520R1

実証分析入門

梅溪 健児

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／経済・社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを素早く把握するための読解力を養成することが目的である。人口、雇用、社会保障、貧困などの分野から論文を選択するので、受講生は研究の視野を広げていただきたい。

【到達目標】

1. 実証研究論文の構成と作法を理解し、数式や数量分析が出てきても抵抗なく論文を読みこなす実践力を身につけること、2. 計量経済学の手法による分析に慣れ、勘どころを理解すると同時に、分析結果から結論導出へのプロセスを体得すること（論文において自ら計量経済学の手法を用いることがなくても、先行研究の分析結果の読み方を習得すること）、3. より長期的には、各自が今後執筆する論文のイメージや調査分析の展望を形成すること、以上の3つが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

雑誌論文を事前に配布するので、受講生は目を通してから講義に臨む。授業においては、講師が用意するチェックシートの質問に受講生が答を記入し、論文ポイントの理解を確実にする。分析結果の読み方については、計量経済学の基礎的知識とあわせて講師が説明する。各講義の最後は、教材論文から受講生が学んだ内容を総括する。受講生が記入したシートは、次回講義において返却する。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	はじめに 人口移動と居住地選択	査読論文の意義を学ぶ。若年者の東京移動並びに外国人の居住地選択に関する研究を理解する。
2	出生率の低下	出生率の低下に関する最近の分析と約30年前の研究を比較し差異を理解する。
3	雇用の量的分析	非正社員から正社員への移行に関する分析と、仕事と介護の両立支援に関する研究を理解する。
4	医療に関する量的分析	医療費における医師の影響に関する分析と、患者の受診抑制に関する研究を理解する。
5	貧困の研究	失業と教育、子どもの貧困に関して都道府県データや個票データ（パネル）を用いた分析を理解する。
6	転勤・異動・定年に関する研究	転勤が従業員のパフォーマンスに与える効果分析、転勤や定年に伴う仕事満足度の研究を理解する。
7	復習テスト レポート発表と討議	講義の理解度を復習テストにより確認する。先行研究の整理に関する実践レポートを事前に作成し講義で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する論文を読んでから講義に出席するのが前提です。各自の研究分野に関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなく、教材を毎回配布する。

教材は、太田聰一氏、是川夕氏、中里透氏、玄田有史氏、武石恵美子氏、中川雅之氏、水落正明氏、小川一夫氏、鶴光太郎氏などの学術論文を予定している（昨年度の実例、今後の論文の公表状況に応じて追加変更がありえる）。

【参考書】

大湾秀雄（2017）『日本の人事を科学する』日本経済新聞出版社
 中室牧子、津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社
 森田果（2014）『実証分析入門』日本評論社
 山口慎太郎（2019）『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%（毎回チェックシートの記入と提出）
 復習テスト 30%
 レポート 10%（査読論文の読解）

【学生の意見等からの気づき】

査読論文がいかに有益なものであるかを是非とも体得してもらえるように工夫する。毎回2本の論文を読解するのが難しいとの意見があるので、受講準備の効率化と講義の重点化を行う予定。なるだけ多くの論文に接してもらいたいとの気持ちは変わらない。

【学生が準備すべき機器他】

学術雑誌にアクセスし論文検索ができるパソコン。

【その他の重要事項】

教材で取り上げる論文には、アンケート集計を行っているものがあるが、回帰分析、個票分析、プロビット分析などの量的分析手法を用いる場合が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline and objectives】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical researches on demographic changes, employment, social securities and poverty issues.

MAN520R1

雇用政策研究（マクロ）

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／経済・社会 | 雇用・人材育成・キャリア

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般（マクロ）について検討する。少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化のなかで、雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または、これらに興味のある人を念頭に、雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する。ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも、雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

zoom でリアルタイムのオンライン授業を行います。

雇用の歴史的背景、職業能力開発、キャリア形成支援、日本の雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義を進めたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。必要なコメントも最後に与える。なお、ゲストを招いての議論も検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	ーそもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前とされている雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探索する。
2	日本型雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか？
3	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？さらに、労働市場の基本構造を考える
4	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となにが違うのか？環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。

1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しないが、以下に掲げる 5 冊から 1 冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）。このほか別途に挙げる主な参考書、授業でその都度、必要に応じて紹介する文献などを参照していただく。また、毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定。

1. ビーター・キャベリ（若山由美訳）、2001 年、『雇用の未来』、日本経済新聞社
2. 清家篤、2013 年、『雇用再生』NHK 出版
3. 石山恒貴、2018 年、『越境の学習のメカニズム』、福村出版
4. 山田久、2016 年、『失業なき雇用流動化』慶應義塾大学出版会
5. 玄田有史、2018 年、『30 代の働く地図』岩波書店

【参考書】

1. 石山恒貴、2015 年、『パラレルキャリアを始めよう』ダイヤモンド社
2. 菅山真次、2011 年、『「就社」社会の誕生』、名古屋大学出版会
3. 菅野和夫、2004 年、『新・雇用社会の法』、有斐閣
4. 労働経済白書
5. 『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、② 2500 字以上の長さの科目レポートの得点（65 点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する。ただし、これ以外に、必須の小レポートとして、書評レポートを課す。終了時に提出を求める科目レポートは、授業内容を自分なりに消化し、できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】

zoom でリアルタイムのオンライン授業を行います。

PC またはスマホでの ZOOM 参加をお願いします。

授業ではパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.

MAN520R1

雇用政策研究（ミクロ）

山田 亮

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／雇用・人材育成・キャリア

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「働き方改革関連法」の順次施行など「雇用」を巡る政策・制度はいま大きく変化している。授業では、長く雇用政策の現場に身を置いてきた立場から、こうした一連の制度改革の内容や経緯等についてわかりやすく体系的に解説するとともに、こうした制度改革を含め、大きな雇用環境変化の中で企業やビジネスパーソンに求められている課題や対応の方向性について、院生間で互いの経験も交えて討論してもらう。

女性や高齢者、若者の活躍方策等についての政策提言や人事施策提言を目指す院生への有用な材料提供となることはもちろん、「雇用政策」という生きた題材を巡る討論を通じ、創造的課題解決能力の涵養に資する。また、授業で使用する豊富な客観的データ（1 講義で約 30～40 枚のシート）は修士論文作成のための基礎資料として有用と考える。

【到達目標】

「政策」とりわけ「雇用政策」は、政策決定にあたり、労使をはじめ関係者の利害対立構図となることが多い。この種の議論を前に進めるためには、誰もが否定し得ない客観データを駆使して現状分析を行い、共通認識の土台作りをすることが欠かせない。授業でもこの「客観データに基づく立論」には特に留意したいと考えているが、このことはあらゆる職業領域で、自説を展開し、実行しようとする際に、他者からの支持を得るうえで非常に重要なスキルであると考え。第一の目標は、この授業を通じ「いま自分が主張していることに統計データなどの客観的論拠はあるのか」を条件反射的に考えるようになることである。

しかし「政策」も他の実社会の多くの「仕事」と同様、単なる問題・課題の提起だけでは意味はなく、様々な制約条件を突破できる具体的方策を「当事者」として突き詰め、実行に移せるかが重要である。授業計画に掲げられている各回テーマに即して「どんな政策がとられてきたのか」の解説や、未解決課題への具体策についての院生間の熱心な議論を通じて、各人が抱える課題（研究課題を含め）に対する解決のヒントを得ることが第二の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

雇用政策が社会経済環境の変化に対応して、これまでどのような方向性をたどってきており、今後はいかなる方向を目指すのかを、各政策分野ごとに論じる。

各回のテーマについて、前半（6 時限）は講義、後半（7 時限）は院生間の討論を行う。前半の講義では後半の討論に資するため、各テーマについての背景・課題、およびこれらに対する雇用政策の考え方・実相について、できるだけ客観的データに基づき解説する。

なお、

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人口減少と雇用政策	急速な人口減少の下での雇用政策全体の課題を探る。ワークライフバランス、長時間労働の是正という政策課題についても考察する。
第 2 回	経済変動と雇用政策	経済変動が雇用・失業状況に反映されるメカニズム、これに応じた政策対応について考える。
第 3 回	雇用政策と高齢社会	年齢に関わりなく働くことのできる社会の実現に向けた課題や政策について考える。
第 4 回	若者・女性の雇用政策	若者、女性などの活躍をめぐる課題や政策について考える。
第 5 回	正規・非正規の雇用政策	非正規雇用の拡大など雇用多様化をめぐる課題や政策について考える。
第 6 回	雇用政策と地域雇用・能力開発	地域雇用創出や職業能力開発をめぐる課題や政策について考える。
第 7 回	グローバル化・技術革新と雇用政策、まとめ	外国人労働者問題やいわゆる空洞化問題などのグローバル化をめぐる課題や政策、また技術革新をめぐる課題や政策について考える。 後半は「まとめ」。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回終了後、各院生に対し、次回討論テーマへの問題意識を膨らませるのに役立つようなエッセイ、寄稿文など「肩の張らない」参考資料等をメールで送付する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業は毎回配布するパワポ資料を活用して行うので、教科書は使用しない。配布するパワポ資料については、授業支援システムにもアップする。

【参考書】

菅野和夫 『新・雇用社会の法』 有斐閣 2004 年
 浜口桂一郎『若者と労働－「入社」の仕組みから解きほぐす』
 中公新書ラクレ 2013 年
 山本勲 黒田祥子『労働時間の経済分析』日本経済新聞出版社
 2014 年

水町勇一郎 『「同一労働同一賃金」のすべて』 有斐閣 2018 年
 厚生労働省『労働経済白書』など政府が発行、発表する雇用政策に関する各種資料

『日本労働研究雑誌』『季刊労働法』『大原社会問題研究所雑誌』などの論文

【成績評価の方法と基準】

①授業での学習状況や参加度についての評価（35 点満点）、② 2500 字以上の長さの科目レポートについての評価（65 点満点）の合計点を、規定による評価基準に沿って評価する。

科目レポートは、授業内容をできるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートにおいて、「事前の関係する資料や事後の授業で出た質問の補足資料などのメール配信」に評価をいただいたので、このやり方を継続したい。

「豊富な資料」については評価いただいたので継続して心がけたい。授業で配布するパワポ資料については、授業支援システムにもアップする。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業後に設ける。

【Outline and objectives】

"Acts to Promote Work Style Reform" are now enforced one after another.

There come big changes around "the employment policy".

What is the background of these changes ?

This course,including such issues,introduces process of making and action for the employment policy(I've been working for "the employment policy"for a long time,as a member of Ministry of Health,labor and Welfare), and after that ,we discuss how the companies and business-persons should deal with, in these big changes in employment environment.

It will be helpful to the graduate students, not only who aim the policy or business proposal about how to activate women,youth,aged people,and so on, but also who want to improve their creative ability to solve not-easy problems.

And a lot of objective data (30～40sheets in every class) will be helpful when they write master's thesises.

MAN520R1

キャリア政策研究

小山 浩一

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／雇用・人材育成・キャリア

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、働く人のキャリア展開に影響を与える①国による雇用政策 ②企業における人事制度・政策 ③その他の要因（税制・公的年金制度・企業の退職給付制度・法定外福利厚生）④個人の意思決定・行動に関する理解を深めることを目的としている。

【到達目標】

自身のキャリアを社会動向の中で俯瞰的に位置づけた上で、キャリア政策（公助・共助・自助）について広い視点で自ら考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回とも講義と議論の併用により進める。講義については概念の理解とともに、各種の公開されたデータを活用し、実情を理解することを励行する。検討する各種資料については、講義時に輪読することがある。議論については、各回のテーマにもとづき、いくつかのグループに分かれグループディスカッションを行い、グループごとに、その結果を発表する。その発表内容について全体でディスカッションを行い、相互に理解を深める方式をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済社会の変化とキャリア政策	・キャリアの定義 ・キャリア理論の概要と位置付け ・働き方改革に見られるキャリア政策（国）上の課題とその実情
2	キャリア展開に影響を与える要因（税制・公的年金・企業の退職給付制度、家計）	職業キャリア上の意思決定に所得税制や公的年金制度のあり方が影響を与えている。これら公的制度とともに、企業の福利厚生や退職給付制度も公的制度と絡み合っており、キャリア展開の影響要因となっている。本授業ではこれらの個人を取り巻く外部環境要因に関する理解を深める。
3	キャリア権とキャリア政策	基底となる概念である「キャリア権」の意義を確認し、これまでのキャリア政策展開と今後の方向性を、ゲストスピーカーによる講義をもとに理解し、議論を通じて考察を深める。
4	経済社会の変化とキャリア政策に関わる企業の人事制度等	企業の人事制度・人事政策は当該企業のビジネスモデルにより相違する。これらの観点から企業の人事制度や人事政策を概観するとともに、そこでの従業員のキャリア展開への影響に関する考察を深める。

- | | | |
|---|-------------------------------|---|
| 5 | ケーススタディ
・女性管理職はどのように働いているか | 日本における女性就業については、いくつかの課題が指摘されている。この一つとして女性管理職の問題がある。本授業では、特定の企業の女性管理職（非人事部門）をゲストスピーカーとして、実情と方向性等を語ってもらう。その中から、女性管理職に関わる課題と解決策について議論し、考察を深める。 |
| 6 | 若年雇用と職業能力開発
中高年雇用と職業能力開発 | 本授業では若年者のキャリア展開についてデータ等をもとに実情を理解する。これと対比する形で中高年のキャリア展開について考察を深める。 |
| 7 | まとめ | グローバル化・知識社会・人口オーナス・AI等の進展の中でのキャリア政策のあり方をこれまでの授業を踏まえて総括的に議論し考察を深める |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の準備として事前に関連図書や配布資料等を読むことを指示することがある。なお、事前に学習したい場合には、課題図書（【参考書】欄参照）を選び、読んでおくことをお勧めする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しないが、課題図書を 1 冊選んで読み、A4・1 枚以上の書評レポートを提出する。

【参考書】

【課題図書】

江口匡太『キャリア・リスクの経済学』生産性出版 2010 年。
 大内伸哉『非正社員改革』中央経済社 2019 年
 大内伸哉『AI 時代の働き方と法』弘文堂 2017 年。
 川口大司『日本の労働市場』有斐閣 2017 年。
 リンダ・クラットン『ワークシフト』プレジデント社 2012 年。

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループ討議） 40 %
- ②書評レポート 10 %
- ③最終レポート 50 %

最終レポートとして、授業内容及び自らの研究等を踏まえて、キャリア政策に関わる 4000～8000 字程度のレポートを提出する。

【学生の意見等からの気づき】

各回の授業については考察を深めるために内容量を抑制する。キャリア政策全体像については第 1 回だけでなく第 7 回において補完的に取り上げる。政府統計に関わるデータ加工による把握について取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある。受講生に常時の PC 機器の使用を求めることはないが、授業メモのために PC を使うことは構わない。

【その他の重要事項】

書評レポート及び最終レポートは手書きでなくマイクロソフトワード（互換ソフト含む）により作成し、メールによる提出を求める。オフィスアワーは授業後に設ける。

【Outline and objectives】

This course deals with the following factors that affect the career development

- ・ Labor policy of Government
- ・ HR Policy of Enterprises
- ・ Other factors (public pension system , income tax system , retirement related benefits, welfare system)
- ・ Decision making and behavior of individuals

MAN520R1

地域雇用政策事例研究

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／雇用・人材育成・キャリア

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJ ターンを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3	地域のサードプレイスと関係人口	地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 3） 地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べる（その成果を授業中に発表していただく）
2. 地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

1. 松永桂子 『創造的地域社会』 新評論 2012 年
2. 伊藤実ほか 『地域における雇用創造』 雇用開発センター 2008 年
3. 玉沖仁美 『地域をプロデュースする仕事』 英治出版 2012 年
4. 石山恒貴『パラレルキャリアを始めよう』 ダイアモンド社 2015 年

5. 石山恒貴編『地域とゆるくつながろう－サードプレイスと関係人口の時代』 静岡新聞社 2019 年

【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65 点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジュメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.

MAN520R1

人材育成論

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／雇用・人材育成・キャリア

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ、日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4	実践共同体と越境的学习	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】

労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016 年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018 年
石山恒貴『パラレルキャリアを始めよう』ダイヤモンド社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が分担する事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

ARSI520R1

地域コミュニティ論

中島 由紀

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／地域社会・介護福祉
 群／プログラム：文化・都市・観光／都市空間・まちづくり

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域コミュニティは、かなり多様な方面で用いられる用語であり、その定義や理解も非常に多岐にわたる。本講義では、昨今使われている「地域コミュニティ」の本質を複数の観点から掘り下げていく。
 前半はコミュニティの理論の古典的概念とその変遷を整理していき、それらが日本社会でどのように扱われ、それによって社会生活の中でどのような位置づけで語られてきたかをみていく。
 後半は、今日の「地域コミュニティ」の課題に焦点を当て、具体的な事例や現象から「地域コミュニティ」の何が問題で、どう解決していくべきかを考えていく。

【到達目標】

自身の論文で「地域コミュニティ」を扱う場合に、どの観点で、コミュニティの何にアプローチし、どういった策を講じていくべきかといった論点が明確になることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式を中心に、各回のテーマに沿った参考文献、資料、論文を読んだり、映像（動画・DVD など）視聴や事例をみる。そこからグループでのディスカッション形式も取り入れる。
 ・また、講義資料と参考論文から、社会科学でよくでてくるアンケート調査の統計処理方法を提示する。ここから、論文作成に必要な基礎的な統計データの読み方（主にクロス集計、多変量解析）について学ぶ時間も設けるので、各自論文作成に役立ててもらいたい。
 ・事前に読んでおいて欲しい資料は適宜提示する。その場合は、次の講義で同資料の輪読を中心にディスカッションを行うため必読である。
 ・毎回、講義終了時にコメントシートを配布するので、授業で得た気づきや疑問、論点整理などを記載して提出してもらうが、これが出席カードの代わりとなるので留意して記入いただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	○イントロダクション ○コミュニティとは何か？—理論の系譜— ○近代から現代 日本の都市化から考えるコミュニティ (1)	R.M. マッキーバー、F. テンニエス、ジンメル、ワース、バージェスらの古典的コミュニティの概念を整理する。 その上で、日本でいかに「コミュニティ」が捉えられ、議論されてきたかの変遷をみる。
第 2 回	○近代から現代 日本の都市化から考えるコミュニティ (2) ○コミュニティの今日の課題	第1回に続き、日本のコミュニティ論の変遷を、戦後を中心にみていく。特に、都市化・郊外化・再都市化の都市の変容と合わせてコミュニティの変化を捉え、現代的日本の課題は何かをディスカッションする。
第 3 回	○コミュニティ政策の変遷 ○自治体における地域コミュニティ活性化への取り組み	1970 年代から始まった旧自治省のコミュニティ政策の変遷をたどり、政府が意図していたコミュニティの活性化と現実がどのように乖離したのか、なぜ乖離したのかを考えていく。本回は特に、町内会・自治会といった機能組織の側面からの変遷を捉えていく。
第 4 回	○日本社会の構造から考えるコミュニティ —ウチ／ソト— —タテ／ヨコ— —信頼と安心—	旧来型の日本の地縁型コミュニティの特性は何か、それ故に起きている、今日の地域コミュニティの変化の問題を考えていく。 日本社会の構造上の特徴から起きている現象をみていく。

第 5 回 ○「個」とつながりのコミュニティ
○「共同性」「公共性」の問題、日本の NPO の現状

日本の NPO の現状を概観し、どのような政策が進められてきたかを考える。
 その上で、人びとの「共同性」「公共性」について考える。人々の公共性はいかに醸成されるのか、行動にうつすにはどうしたらいいのか。今日的、コミュニティへの「参加」の問題を扱う。

第 6 回 ○「新しいコミュニティ」はどう変化してきたのか？
○ネット時代による人々の「つながり」
○自発的な参加をどう促すか

これまで日本の「コミュニティ」の変遷をみてきたが、そこから生じてきた今日の課題の行方、さらにこれからの「新しいコミュニティ」について考えていく。「コミュニティ」にどういった役割が求められているのか？ その「しくみ（機能）」は、どういったものか？ 前回に続き、どうしたら人々は「コミュニティ」に自発的に、積極的に参加するようになるのか？

第 7 回 ○コミュニティの行方
○ネット時代のコミュニティ
○ネットワーク分析

年々加速してきているネットワーク上のコミュニティ形成。地域活性化に活用され、期待される一方で、その問題点も浮上してきている。これからの日本社会における、新しい地域コミュニティの在り方を議論していく。
 特に、ネット上でのコミュニティの役割、地域内やコミュニティビジネスの視点での位置づけなどを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義で参考資料や論文を配布するので、それらを次回講義までに必ず読了しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 また、コミュニティの変遷など、時系列でその時代に扱われたコミュニティ問題を考えていくため、授業欠席者は資料を毎回配布するので、適宜キャッチアップして参加するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

●『安心社会から信頼社会へ』山岸俊男,1999（中公新書）
 ●『共同体の基礎理論』内山節,2010 年（農山漁村文化協会）
 『われらの子ども—米国における機会格差の拡大』ロバート・D・パットナム,2017（訳（創元社））
 『都市コミュニティ論』倉田和四生,1985（法律文化社）
 『タテ社会の人間関係』中根千枝,1967（講談社現代新書）
 『都市的共同性の社会学』中道實、神谷国弘,1997（ナカニシヤ出版）
 『都市コミュニティの社会学』中村八朗,1973（有斐閣双書）
 『コミュニティを問いなおす』広井良典,2009（ちくま新書）
 『集団と組織の社会学—集合的アイデンティティのダイナミクス』山田真茂留,2017（世界思想社）
 『生き心地の良い町』岡壇,2013（講談社）
 ※「●」の 2 点については授業内で深く触れるため、購入の上一読されるとより理解が深まるであろう。）

【成績評価の方法と基準】

授業の参加とコメントシートの提出（コメントの内容も加味する）（50 %）、最終レポート（25%）、冬休みの課題（20%）、講義内で行うグループワークへの参加状況や授業への取り組み姿勢（5%）

【学生の意見等からの気づき】

（1）統計的資料について
 漠然とした議論になりがちな「コミュニティ」というテーマであるが、それ故に統計資料やアンケート調査結果など、数値的根拠を示す資料を講義中に多数提示した。これらのデータの読み方、使い方についての講義が実践的で有益であったとの意見もあり、本年度はさらに体系立てた統計資料を提示させていく予定である。
 （2）今日的「コミュニティ問題」の扱い方について
 時代の変化が大変早い。タイムリーな事例は学生にとって非常に参考になる。しかしながらシラバス作成から半年以上先の講義であるため、特に後半は今日の課題を取り扱うが、シラバスとはやや異なる場合もある点、留意されたい。最新の情報・時代の変化を取り入れた授業を心がけているためである。

【Outline and objectives】

The first half organizes the classic concept of community theory and its transition.
 From there, we will look at how it was treated in Japanese society.
 The second half will focus on today's "community" subject. With reference to concrete examples and phenomena, we will consider how to solve the "community".
 By the end of the course, students should be able to do the following:
 ・ The point of discussion of the "community" will be clarified when preparing the paper.
 ・ To be clear what you are focusing on in the ambiguous "community".
 ・ Learn the basic knowledge of statistics used in questionnaire surveys.

ECN520R1

消費者政策・競争政策

田口 義明

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／地域社会・介護福祉 | 経済・社会
 群／プログラム：地域産業・企業／CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会で生活する消費者は、商品・サービスを購入・利用する消費生活において、多くのトラブルや被害に直面する。消費者がこうした被害に遭わずに安心・安全な消費生活を送れるようにするために消費者政策が実施されている。

本授業を受講することにより、学生は、消費者問題の実態に触れ、消費者政策の理念、法制、行政実施体制等を学ぶとともに、今日の課題と対応の方向を考察する。

併せて、市場経済の基本をなす競争政策について、その法的枠組みと現代的課題を学び考察する。

【到達目標】

講義の受講、議論、講義後の自習等を通じて、消費者政策や競争政策における現下の諸課題について考察を深め、学生が企業や行政当局等の実務の現場で効果的に生かすことができる企画力・立案力を磨いていくことを目指す。

より具体的には、学生が自ら選んだ政策課題について、根拠事実や問題点の把握を踏まえ、対応策の選択肢を検討・評価し、有効かつ実現可能な対応策の提示ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、我が国における消費者問題の変遷と消費者政策の歴史をレビューした上で、消費者の権利、消費者政策の体系と展開、競争政策の課題などについて、政策現場の運用実態も踏まえつつ学ぶ。

最近、新聞等で話題となった実際の消費者問題や競争政策上の問題を取り上げ、どのような制度設計をすれば実効性があるのか、様々な利害関係者が合意し得るのか等の観点から議論・検討を深める。

このような議論・検討を通じて、政策の企画・立案の現場を体験し、最終的に学生が自ら選んだ政策課題について、対応策を提示する道筋を体得することを目指す。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1・2 回	①消費者政策（総論） ②消費者問題の変遷と消費者政策の歴史	消費者政策の考え方を概観するとともに、消費者問題の変遷と消費者政策の歴史を振り返る。
第 3・4 回	③消費者の権利と消費者政策の体系：消費者基本法 ④消費者行政の体制と業務	消費者の権利と消費者政策の体系について、消費者基本法に基づき考察するとともに、国、地方を通じた消費者行政の体制と業務を概観する。
第 5・6 回	⑤欠陥商品による消費者被害の救済：製造物責任法 ⑥消費者の取引被害と消費者法	欠陥商品による消費者被害を救済する民事ルールである製造物責任法の考え方を学ぶとともに、消費者を取引被害から守る法ルールについて考察する。

第 7・8 回	⑦消費者契約における消費者保護：消費者契約法 ⑧消費者法の実効性確保：消費者団体訴訟制度と消費者裁判手続特例法	消費者・事業者間の契約に広く適用される消費者契約法の民事ルールとその実効性確保の仕組みを考察する。
第 9・10 回	⑨店舗外販売の適正化：特定商取引法 ⑩インターネット取引と消費者保護	特定商取引法の規制・ルールを概観するとともに、インターネット社会における消費者保護のあり方を考察する。
第 11・12 回	⑪競争政策と消費者：独占禁止法 ⑫独占禁止法のエンフォースメント	市場経済における競争政策の基本ルールである独占禁止法の体系を学ぶとともに、そのエンフォースメントの仕組みや課題を考察する。
第 13・14 回	⑬不当表示や誇大広告の規制：景品表示法 ⑭個人情報の保護と利用：個人情報保護法	消費者の適切な選択を確保するための景品表示法と個人情報の保護と利用の両立を目指す個人情報保護法に関し、その体系、規制ルールの変遷、現在の課題と対応の方向等について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、現実の消費者政策や競争政策の企画・立案を体験すべく、講義の際に配布する参考資料に目を通し、背後にある問題等を把握するなどにより、講義においても積極的に発言できるよう準備することが望まれる。

また、復習として、学生は、講義で示された文献等を読んで、自分なりに理解をさらに深めていくことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の講義で、議論の材料となり得る資料を配布する。

【参考書】

『消費者事件 歴史の証言』（及川昭伍・田口義明、民事法研究会）
 『ハンドブック消費者 2014』（消費者庁編、全国官報販売協同組合）
 『基本講義 消費者法（第 3 版）』（中田邦博・鹿野菜穂子編、日本評論社）
 『はじめて学ぶ 独占禁止法』（菅久修一編著、商事法務）
 『くらしの豆知識 2020』（国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題：70 %、平常点：30 %、

毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価するとともに、レポート課題では、自らが選んだ政策課題に関する考察等をまとめてもらい、これを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際に生起している消費者政策・競争政策上の諸問題について、できるだけ具体的かつ分かりやすく提起し、学生が現実感を持って考察しうよう努める。

【その他の重要事項】

現在発生している消費者政策や競争政策上の諸問題に関する新聞記事等に目を通すようにすると、講義の中での発言が容易になると思われる。

授業後に質問等を受け付ける。

【Outline and objectives】

Consumers often face troubles related to goods and services in their lives. Consumer policy aims to prevent those troubles and to enable consumers' safe and sound lives.

In this course, you study facts of consumer affairs, basic principles of policy, main consumer laws and the system of central & local consumer administration. Based on them, you consider current policy issues and measures to cope with them. You also study and consider legal framework and current issues of competition policy which provides a basis of market economy.

ARSI520R1

生活政策論

高尾 真紀子

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／地域社会・介護福祉 | 経済・社会
群／プログラム：地域産業・企業／CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、人々の生活に大きな影響を及ぼす諸政策を「生活政策」と位置づけ、社会政策等の生活に深く関係する諸政策について、その背景及び現状を把握し、課題解決の方法を議論する。

【到達目標】

社会政策等の生活に関する諸政策についての経済学的視点からのデータに基づく分析や議論を通じて、課題やメカニズムを理解し、政策立案・遂行等に必要の視点を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

生活に関する諸政策についてテーマごとに背景、現状、現状の課題について経済学的な観点から分析を行う。講義に加え、受講生によるディスカッションによって課題解決の方法を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業で取り扱う政策の範囲及び政策の背景となる経済社会情勢、生活政策が重要度を増している背景について議論する。
第 2 回	幸福度と格差	近年注目されている格差や幸福度の観点から、生活の質、格差、貧困等の社会の問題について議論する。
第 3 回	子育て支援・教育政策	少子化の現状と背景、経済社会への影響を把握するとともに、子育て支援策、教育政策について議論する。
第 4 回	社会保障・再分配	社会保障の考え方、日本の社会保障制度の特徴、特に年金制度について諸外国の制度と比較しつつ、議論する。
第 5 回	医療・介護	高齢社会において重要度を増している医療・介護の問題について、その背景及び制度、財政状況を検討し、技術及び地域コミュニティでの解決方法等について議論する。
第 6 回	男女共同参画	男女共同参画とワークライフバランス、男性・女性の働き方について、諸外国と比較しつつ議論する。
第 7 回	持続可能な社会 課題発表	経済と環境がトレードオフでなく、経済、社会、環境が統合的に向上する持続可能な社会に向けての政策について議論する。 各自が関心を持つテーマについて発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。
「生活に関する政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し、発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

○政府の白書等
内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」「青少年白書」「男女共同参画白書」「経済財政白書」厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」OECD「幸福度白書」
○その他
エスビナー・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』岩波新書
池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂『社会政策 福祉と労働の経済学』有斐閣

柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房

橋本俊昭『日本の経済格差』岩波新書

筒井淳也『仕事と家族』中公新書

中野円佳『「育休世代」のジレンマ 女性活用はなぜ失敗するのか?』光文社新書

中室牧子『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン

濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書

広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書

宮本太郎『生活保障 排除しない社会へ』岩波新書

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加度 (30 %)、各回の宿題 (20%)、最終レポート (50 %)を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のディスカッションの時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

P C を接続して画面をスクリーンに表示できる設備

【Outline and objectives】

This course deal with policies such as child care, education and welfare that affect our lives. Students learn the policies, their backgrounds and current situation, understand the mechanisms of current problems and discuss ways to solve problems.

ARSx520R1

地域社会論

上山 肇

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／地域社会・介護福祉
 群／プログラム：文化・都市・観光／都市空間・まちづくり

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

【到達目標】

地域社会を形成している諸要素（計画、ルール、コミュニティ、住民参加等）を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論（理論と方法）について話します。
2.	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における「混住地域」などをテーマに授業を進めます。事例研究 (1)
3.	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについて、「サステイナブル・シティ」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (2)
4.	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から「地域社会とまちづくり」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (3)
5.	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究を行い、同時に「地方分権権」や「参加」、「ルール」等について考えます。事例研究 (4)
6.	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に「再開発」や「福祉のまちづくり」といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (5)
7.	土地と環境	論点幅広い「土地と環境」の中でも、特に「都市計画」や「景観」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (6)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料を読んでおくこと。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、発言 20%、レポート 30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。また、受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces local community and community development to students taking this course.

ARSk520R1

比較都市事例研究

上山 肇

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市空間・まちづくり

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の都市（地域、地区）を取り上げ、相互比較しながら都市の現状と都市が抱えるさまざまな課題等について考察します。

【到達目標】

都市分析の多角的な視点を獲得すると同時に、比較研究の基本を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回事例研究を行うとともに、学生による発表を行います。その後、特定テーマに関してディカッションを全員で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと講義	都市比較の要点
第 2 回	事例研究 1：事例紹介と作業（対象地域に関する資料収集）	事例紹介、質疑応答とディスカッション、対象地域に関する資料収集
第 3 回	事例研究 2：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品作成
第 4 回	中間発表	作成途中の作品について学生による中間発表、質疑応答、ディスカッション
第 5 回	事例研究 3：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品作成
第 6 回	事例研究 4：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品作成
第 7 回	最終発表	学生による完成作品の発表、質疑応答、ディスカッション、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自発表に伴う準備と作品（あるいはレポート）の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%。授業への参加姿勢（発表・討議など）30%。作品・レポート等 20%。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces the present condition and issues of cities by comparing cities (regions and districts).

ARSI520R1

文化基盤形成論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要があるだろう。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひとつひとつのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

【到達目標】

学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1/2	文化基盤とは何か？ / 歴史地理学的なアプローチの検討	文化基盤の説明/時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成
3/4	文士村/芸術家村、学者村	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成について/池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について
5/6	サロンという場/ストリートという場	サロンの形成、その事例紹介/ストリートにおけるコミュニケーション
7/8	札幌における文化基盤形成のプロセス 1/2	札幌農学校を軸にした文化基盤形成/産業創出への展開
10/11	福岡における文化基盤形成のプロセス/大連における文化基盤形成のプロセス	ポップミュージックを軸にした文化基盤形成/戦前期大連における日本人の文化ネットワーク
11/12	海外での文化基盤形成の事例 1/2	ロンドン・チェルシー、ニューヨーク・グリニッジビレッジ、ミュンヘン・シュワビング等の紹介
13/14	履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表 1/2	履修学生の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。13/14 回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】

今橋映子『異都憧憬 日本人のバリ』平凡社
増淵敏之『湘南の誕生 音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

【成績評価の方法と基準】

平常点（発表含む）30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味の持てる内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】

新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。

【Outline and objectives】

Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

ARSI520R1

コミュニティメディア論

北郷 裕美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する環境も生まれてきた。そこで市民社会（特に地域社会）の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティメディア、市民のメディアを捉えるべきか、を考える。

【到達目標】

本講義はテーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル（規範モデル）を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義はパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式を取る。必要に応じて板書、音声や画像、You tube、DVD 動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を毎回講義に反映したQ & Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在（失われた空間の意味するところ）	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する
第 2 回	マス・メディアの発展と限界	高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
第 3 回	市民メディアの種類と歴史	多様なコミュニティメディアの役割を時系列で総論的に扱う
第 4 回	パブリックアクセスを学ぶ	市民メディアのキーワードである、パブリックアクセスについて考える
第 5 回	映画視聴①	米国映画 (Public Access) を視聴する
第 6 回	ディスカッションと解説	米国映画 (Public Access) についての意見交換と解説
第 7 回	映画視聴②	邦画（コミュニティ放送前夜の時代を描いた作品）を視聴する
第 8 回	ディスカッションと解説	日本のコミュニティ・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説
第 9 回	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る	日本のコミュニティ FM 放送を取材した NHK ドキュメンタリーほか視聴
第 10 回	コミュニティ放送の概要と機能 公共性指標	北海道のコミュニティ FM 放送調査を事例に解説
第 11 回	コミュニティ放送の運営課題	日本のコミュニティ FM 放送の組織経営の在り方と課題について
第 12 回	コミュニティ放送と防災	様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面 リスク最大値からの教訓を考える
第 13 回	動画視聴講義 テロ事件をテーマとしたメディアリテラシー	映像をまじえてメディアリテラシー全般について考える
第 14 回	ネット社会とコミュニティメディア	コミュニティメディアとしてのインターネット空間の広がりにおける可能性と将来的な課題を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧願う。

【テキスト（教科書）】

コミュニティ FM の可能性：公共性・地域・コミュニケーション
—（北郷裕美著 青弓社）

【参考書】

日本のコミュニティ放送-理想と現実の間で—（共著 見洋書房）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、授業中の討議参加 20 %、レポート試験 60 %を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講生のコメントや質問からピックアップした内容を具体的な事例を中心に講義内で扱っていく。

【学生が準備すべき機器他】

講義は原則として、毎回 PC 機器、視聴覚機器（DVD 等）を使ったプレゼンテーション型の講義を PPT で行う。受講生が PC を用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【その他の重要事項】

授業後に質問等を受け付けるが、時間の関係で毎回のコメントシートに記していただくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local,regional community).

ARSI520R1

都市文化論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：文化・都市・観光／都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】

都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では 1960 年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは 1980 年代以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテキスト分析型の都市論、そして 1990 年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンス/都市論の系譜	都市文化に関する基礎知識
3,4	近代における都市形成/博覧会の果たした役割	都市形成とイベント
5,6	「考現学入門」解説/カフェ論	フィールドワークの事例紹介、都市文化装置としてのカフェ
7,8	百貨店論/東京への文化的装置の集中①	都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程
9,10	東京への文化的装置の集中②/①映画や小説の中の東京	文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容
11,12	アジアの諸都市①/アジアの諸都市②	アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ
13,14	都市と異文化受容/都市というメディア	異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用

【参考書】

授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVD の使用もある。

【その他の重要事項】

多少、内容等が変わる可能性もある。

【Outline and objectives】

Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinarily, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

TRS520R1

ニューツーリズム論

須藤 廣

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市空間 | 都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における観光の様態、変動の方向について確かな視点を持つことを先ずこの授業の目標とする。そこから観光のあり方の変容の背後に存在する、国家のレジャー政策、観光産業、文化産業の戦略等を多方面から学修する。観光におけるマストゥーリズムからニューツーリズムへの道筋を批判的に捉える力を身につける。

【到達目標】

先進国における観光のあり方はマストゥーリズムからニューツーリズム（ポスト・マストゥーリズム）へと変化したのであるが、戦後の歴史を見れば、このことはフォーディズム型観光からポストフォーディズム型観光への変化として捉えることができる。そのなかで現代観光の特徴は観光対象が「名所」「旧跡」「名勝」といった固定的なものから、観光客や地元住民が「参加」しつつ、創作するものへと変化してきたことである。また、現代における観光資源の創造は、近代化遺産のような歴史や文化の保護・保全といったものと、テーマパークやコンテンツ・ツーリズム等人工的なものの創造（捏造）の2つのタイプに分けられる。しかし、この2つは融合しつつ様々なパターンを形成しつつある。これらがどのような意味を持つものなのかを、現代における観光の様々な形態から解き明かしてゆく。また学生には、現代における国内外の「観光政策」の文脈を捉えつつ、それらが正負の価値を持つものとして「両義的」なものとして見る視座を創り上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各授業は1回目は講義のみ、2回目からは各講義の前半部分は講義型を中心に、後半においては学生の発表も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション マストゥーリズムから ニューツーリズム（ポスト・マストゥーリズム）へ の変化の背景	授業の全容の紹介及び、 フォーディズム体制における国家とレ ジャーについて、そしてポストフォー ディズム体制における観光の変容につ いて講義。
第2回	英国の近代とレジャーの 発生、及び観光政策、観 光産業発展史	観光のフォーディズムとポストフォー ディズム、前半：マストゥーリズム、 ニューツーリズムの発生についての 講義 後半：老川慶喜『鉄道と観光の近現代 史』を読む。
第3回	戦前の日本における近代 観光の発展と国家の観光 政策	前半：明治から第2次大戦までの観光 政策と観光産業の歴史を講義。 後半：平山昇『鉄道が変えた社寺参詣 ―初詣は鉄道とともに生まれ育った』 を読む。
第4回	戦後の日本における大衆 消費型マストゥーリズムの 形成	前半：東京オリンピック、大阪万博以 降、特に「ディズカバージャパン」政 策について講義 後半：森彰英『ディズカバージャパン の時代―新しい旅を創造した、史上最 大のキャンペーン』を読む。
第5回	リゾート（総合保養地域 整備）法と観光バブル 観光における虚構の進展	前半：1980年代～1990年代までリ ゾート法が作った観光バブルとその反 省について、及び全国総合開発計画 （全総）と観光との関係について講義。 後半：佐藤誠『リゾート列島』、能登 路雅子『ディズニーランドという聖 地』を読む。
第6回	ポストモダン社会におけ る観光が向かう方向につ いて	アートツーリズム、ダークツーリス ム、リアリティツーリズム、まんがア ニメツーリズムの可能性と限界について 考える
第7回	ポスト・マストゥーリズム 時代における、観光文化 が社会に対して持つ変革 可能性とその限界につ いて	映画「僕たちは世界を変えることがで きない」から、観光がどの程度コスモ ポリタンな連帯や自己変革に寄与でき るかを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず講義後半で扱う書籍、論文を読んで参加すること

【テキスト（教科書）】

イントロダクションで、受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

須藤廣（2012）『ツーリズムとポストモダン社会―後期近代における観光の両義性』明石書店

その他、授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・ディスカッション等平常点（50%）、レポート（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回授業で解説すると同時に、履修者の希望等をヒアリングする。そのため、初回授業は要出席。講義内容は、受講者の関心等に沿って変更することも可能とする。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is for the students to have a clear view point to the changing mode of contemporary tourism. Then students investigate the policies of leisure, tourism, and culture made by national and regional government. This lecture depicts the critical or alternative ways of the tourism which changes from mass-tourism to new-tourism or post mass-tourism.

SOC520R1

文化社会学

宮入 恭平

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化社会学は、経済学、哲学や政治学からメディア研究やカルチュラル・スタディーズにいたるまで、さまざまな領域を横断する学問分野です。したがって、学際的な視座が必要になります。この授業では、基本的な理論を理解しながら、社会科学の文脈から文化を分析するための方法を学びます。

【到達目標】

修士論文を書くために必須となる、論理的かつ批判的な視座からの思考を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の章に沿って授業を進めます。1 回の授業（1 コマ分）で教科書の 1 ～ 2 章分ずつ説明します。授業の前半では各章の内容に関連する最新の話題について、動画などを盛り込みながら紹介します。授業の後半では、紹介した話題を教科書の内容と関連づけながら説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-2	イントロダクション／「対面、傍観、覗き」、「アイデンティティ」	この授業について／教科書 Part 1 より
3-4	「自己と他者」、「行為と演技」、「羨望と嫉妬」	教科書 Part 1、Part 2 より
5-6	「楽しみと退屈」、「病と死」、「笑い泣き」	教科書 Part 2 より
7-8	「日本人の人間関係」、「コミュニティ」、「群衆、公衆、大衆」	教科書 Part 3 より
9-10	「場と集まり」、「仕事と生活」、「異文化コミュニケーション」	教科書 Part 3 より
11-12	「メディア」、「ネット社会」、「音楽と場」	教科書 Part 4 より
13-14	「消費とコミュニケーション」、「ステレオタイプ」／まとめ	教科書 Part 4 より／全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配布資料やノートを使って、授業内容の確認をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺潤（監修）『コミュニケーション・スタディーズ』世界思想社、2010 年

【参考書】

渡辺潤、宮入恭平（編著）『「文化系」学生のレポート・卒論術』青弓社、2013 年ほか、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

質問など学生からの声に耳をかたむけ、建設的に反映させます。

【Outline and objectives】

Sociology of culture is a discipline which includes many different fields from economics, philosophy and politics to media studies and cultural studies. Therefore, an interdisciplinary perspective will be needed. In this course, we will discuss about the relationship between culture and society while understanding the basic theories. The aim of this course is to help students acquire how to analyze “culture” in the context of social science.

ARSI520R1

地域ブランド論

金子 和夫

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域ブランドとは、経済のグローバル化が進展して、世界がひとつの市場に統合されていく中で、地域が自らの個性や強みなどローカル特性に徹底的にこだわり、地域でしかできないことを明確にして、世界に対して発信していく取り組みと考える。具体的には、農林水産業、食品産業、伝統工芸産業、観光サービス業、商業などの分野で幅広い展開が行われている。地域再生の取り組みにおいて、地域のイメージと商品・サービスのブランド化を行い、国内外の市場において、競合する地域との競争優位を確保する手法が地域ブランドである。本授業では地域ブランドの理論、手法、実践例、活用方法を学ぶ。

【到達目標】

自己の取り上げた地域資源をもとに、地域ブランディング手法を活用した地域ブランド事業計画を作成して、国や自治体の公的な各種支援制度に申請して採択されるレベルを目指す。そのため、地域課題の発見、解決方策の検討、ブランディング手法を用いた事業計画の策定、計画を実行できる推進体制づくりまでのスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、地域ブランドを実践しているコンサルタントが講師を担当し、理論編、手法編、実践事例の討議、事業計画書の作成の 4 部で構成する。また、校外実習として、講師が実践した事例（江東区亀戸梅屋敷、深川めし等）の現地調査を実施する。授業成果のまとめとして、各自がテーマを設定して、地域ブランド手法を用いた事業計画書を授業で討議するとともに、作成して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	理論編「マーケティングの基礎」と「地域ブランドとは何か」	ブランディングを検討する前提となるマーケティングの理論について学ぶ。マーケティング・コンセプト、マーケティング・ミックス、競争戦略などを概観する。また地域ブランドの定義、構成要素、取組手順、課題などを検討する。
第 2 回	手法編①「地域ブランドのプロデュース手法」	地域資源の発掘と再評価から、現状評価、ブランド戦略策定、地域商社などの推進体制づくりまで検討する。またブランドのコンセプト、ロゴマークデザイン、キャラクターの制作などのブランド化の手法を紹介する。
第 3 回	手法編②「地域ブランドのプロデュース手法」	商品の開発について、既存商品の改良、新規商品の開発など、さまざまな手法を紹介するとともに、販路開拓の手法を検討する。
第 4 回	実践編①「農水産物と食品の地域ブランディング」	農水産物の地域ブランド化の要素として、ものの価値、地域の物語、マーケティング、ブランド管理の 4 つの要素から検討する。また売れる加工食品の商品企画について検討する。事例として、山口県の長州黒かわ、愛媛県の日本酒を取り上げる。
第 5 回	実践編②「伝統工芸の地域ブランディング」	地域の伝統産業に新たなデザインの魅力を加えて、世界に輸出する取り組みを紹介しながら、デザイン、物語など、ブランド価値の向上策について検討する。事例として、JAPAN ブランドの事例、高知県馬路村の monacca などを取り上げる。
第 6 回	実践編③「商店街の地域ブランディング」	商店街の活性化方向としてブランディングを取り上げて、観光客をターゲットに設定し、物語、シンボル、ネーミング、特色ある商品、サービスなどを企画する。事例として江東区亀戸香取勝運商店街を取り上げる。

- 第7回 実践編④「都市のブランディング」
- 持続可能な都市づくりを推進するために、観光客や移住者をターゲットと想定して、都市の物語、ブランド、キャッチフレーズ、キャラクター、戦略プロジェクトをつくり、行政と市民が協力して都市のプロモーションに取り組む。事例として徳島市、大崎市を取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業資料と検討課題を事前に配布するので、事前に通読して、課題に対する回答を用意して、授業にのぞむ。また、授業全体を通して、特定地域の地域資源を取り上げて、現状を分析し、地域ブランド化の事業計画を作成してレポートとして取り纏めるので、自分の関心のある地域または商品を選んで授業にのぞむ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、講師が作成した教材および実践事例（power point）を教科書として使用する。また、事例の商品やリーフレットなどを紹介する。

【参考書】

講師のサイト、<http://kanekok.com/> に掲載されたレポート、記事などを参考文献として活用する。その他、参考となる文献は授業中に適宜、紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の小テストおよび発言内容と、最終レポートの合計で実施する。授業毎の小テストは、授業の理解度を把握するために授業の終了時に記入して提出する。授業の発言内容は、授業中の討議において、発言の回数および内容を評価する。授業毎の小テストが全体の21%（3点×7回）、授業における発言内容が21%（3点×7回）で合計42%である。レポート課題の事業計画の評価は58%である。

【学生の意見等からの気づき】

事前に資料と検討課題を配布して、学生は予習をして授業にのぞむこととし、授業においては、学生参加型のディスカッションやワークショップ手法を導入して、学生の思考力を高める。

【学生が準備すべき機器他】

当日、機器を準備する必要はない。毎回の教材と課題を事前に大学のサイトに掲示するので、ダウンロードして、学習しておくこと。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、E-mail で受け付ける。アドレスは kanekok@ja2.sonet.ne.jp である。オフィスアワーは授業後に設ける。

【Outline and objectives】

While the globalization has been integrating the world economy into one huge market, what does “local brand” really mean? It would be regarded as a series of efforts to define what the uniqueness of a specific region is and to communicate it to the world, thoroughly valuing its regional characteristics and strengths. In fact, there have been a variety of branding activities in the industries such as agriculture, forestry, fishery, food, traditional craft, trade and tourism. Through the branding process, the image of the region, as well as its products and services, could be raised, bringing differentiation and competitiveness to the local brand in both domestic and overseas markets. This course provides an overview of theories, methods and best practices relating to the establishment of local brand.

TRS520R1

コンテンツツーリズム論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来のといえば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンス/コンテンツ・ツーリズムとは何か？	ガイダンス/コンテンツツーリズムの説明
3,4	コンテンツ・ツーリズムの歴史/『北の国から』の魅力	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/テレビドラマによる観光創出の事例紹介
5,6	大河ドラマの魅力/韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力	テレビドラマによる観光創出の事例紹介/韓流ブーム
7,8	「水木しげるロード」ができた理由/『らき☆すた』現象	マンガ、アニメによる観光創出/アニメツーリズム
9,10	司馬遼太郎と藤沢周平/コンテンツがつくるイメージ	歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介/イメージの形成について
11,12	ご当地ソング考/村上春樹を歩く	ご当地ソングによる観光創出/小説のツーリズム具体例
13,14	新海誠作品を巡る/長井龍雪作品を巡る	現在のアニメツーリズムの動向/インバウンド観光への影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之、彩流社
「物語を旅するひとびと 2」増淵敏之、彩流社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】

多少、内容が変わることもある。

【Outline and objectives】

Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be to be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

TR520R1

観光開発論

須藤 廣

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市空間 | 都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の観光化について考察する授業である。観光は生活文化主体の地域文化を、観光という視点から再構成する。その際、視覚的に目立たず分かりにくい生活文化の多くは排除され、観光客が視覚的に受け入れやすく手短に理解できる部分のみ選別され、分かりやすいものに作りかえられる。文化とは社会的条件によって作りかえられるものであるが、観光文化は文化に特殊な枠付け方を施すことは否めない。以上のことから、観光化された地域は従来の生活文化と観光によってもたらされた観光文化との対立を孕むことになる。前半のテーマは観光地の対立の図式についてである。しかしながら、観光を生業とせざるを得ない地域の人々においては、観光文化への適応が急務となる。この時間問題となるのが自立か依存かの問題である。この授業では経済的自立よりも社会的、文化的自立の問題、あるいはアイデンティティにおける自立の問題に焦点を当てる。さらにこの問題を最終的には政治的ヘゲモニーの問題と結びつけて考える

【到達目標】

この授業では、観光がもたらす社会問題に目を向け、それを観光地住民のヘゲモニーのもと、彼ら自身の文化を創り上げるなかで解決することについて考える。最終的には、観光文化の持つ人工性をネガティブなものからポジティブなものへと転換し、観光地住民の手で観光を創造するにはどのような方法があり得るのか、あるいはどのように支援することができるのかを学修し、観光開発に関する課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半の講義は、主にアジアの少数民族の観光化を例にとり、観光のまなざしの両義性について進めて行く。後半は地域住民の社会的、文化的自立のために、観光のアイデンティティ創造力を「利用」する方法について考える。このために、講義が中心であるが、参加者が議論に参加するように促したい。また、都内の下町観光という「観光開発」について、簡単なフィールドワークを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと問題提起	簡単に授業を概説し、「観光の罫」について議論をした後、映画『ザ・ビーチ』を部分的に見て議論をする。
第 2 回	観光の文化と生活の文化、オリエンタリズム、観光のまなざし、観光の文脈と生活の文脈について	映画『ザ・ビーチ』を「生活文化と観光文化の対立」、欧米人のアジア観とオリエンタリズム（エドワード・W・サイード）、ロマン主義的まなざし（ジョン・アーリ）の理論を使って読み込み、そこからアジアにおける観光開発の是非について考える。
第 3 回	少数民族の観光化 1 + 2（タイのカヤン首長族 + 中国雲南省ナシ族、チベット族、ハニ族）	タイ、メーホンソーンに住む難民としてのカヤン首長族の観光化、及び中国雲南省の麗江、シャングリラ、元陽における少数民族観光地の問題点を探る。ここでは、観光文化が生活文化を駆逐してしまう例を見る。
第 4 回	少数民族の観光化 3 + 4（北部ベトナムの山岳民族、及びハワイのネイティブハワイアン）	ベトナム北部中国国境付近に住むモン族、ザオ族、ザイ族の観光化適応の是非について考える。観光化に反対しつつ、自らの観光を創造してゆくネイティブハワイアンの文化復興運動にも目を向ける。ここから、観光化に自ら乗るという戦略はどのような条件の下で可能か考える。
第 5 回	観光における鎖国か開国か（ブータン、ラオス、ミャンマーの観光戦略を比較する）及び日本におけるインバウンド観光政策の変遷	外国人の一般観光客の自由な往来を拒否するブータンと歓迎するラオス等を比較し、観光がもたらす弊害とはなにかを考え、それを軽減する方策と観光地住民の自立について考える。また、オリエンタリズムと日本の観光の歴史と今日の日本の自己オリエンタリズムについて考え、日本政府がインバウンド・ツーリズムに関連してどのような政策をもっていたのか歴史的に分析する。

第 6 回 日本における観光開発の問題点

リゾート法と湯沢温泉、由布院温泉、由布院の観光開発反対運動と観光化の問題点、門司港の観光開発における地元住民の不満について考察する。また、宮崎シーガイアの例、佐世保ハウステンボスの例、北九州スペースワールド等、リゾート法で生まれたテーマ観光地の問題点を分析する。日本における観光地住民のまちづくり参加を「自立」という側面から考える。住民参加による街歩きガイド、B1グランプリ等食によるまちづくり等、新しい「観光まちづくり運動」が住民の自立につながるのか議論する。また、グリーン・ツーリズム等サステイナブル・ツーリズムと自立の問題についても、実例から分析する。都内の町歩き観光についてのフィールドワークを行う。

第 7 回 日本の観光地と地元の自立について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が観光地の社会・文化運動について、「観光の罫」（リスク）を心に留めながら、批判的にフィールドワークをしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

須藤廣『ツーリズムとポストモダン社会』明石書店、2012 年

【参考書】

佐藤誠『リゾート列島』岩波書店、1990 年

E・W・サイード、今沢紀子訳『オリエンタリズム上・下』平凡社、1993 年
 ジョン・アーリ、加太宏邦訳『観光のまなざし—現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版、1995 年

須藤廣、遠藤英樹『観光社会学 2.0 — 拡がりゆくツーリズム研究』明石書店、2018 年

須藤廣『観光化する社会—観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版、2008 年
 その他、授業にて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30 点、レポート 70 点

【学生の意見等からの気づき】

アンケート内容にもとづき改善してゆく。

【Outline and objectives】

This lecture considers the culture which is made by the tourism developments. Tourism reconstructs the local culture of the daily life from the viewpoint of tourists. In tourism, complexed objects difficult to understand in a short time are transformed into visually conspicuous objects easy to understand. This lecture depicts the identity changes and the social, cultural problems accompanied by tourism developments.

BSP520R1

フィールドワーク論

須藤 廣

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市空間 | 都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、フィールドワーク（現地調査）の考え方と基本技術を身に付けることを目的とする。基本的に質的調査に軸足を置く。

【到達目標】

フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれをどう生かすかについて学んでもらう。前半は講師のこれまでの研究実績を基にして、座学にて行い、後半は各自の研究テーマに沿った形で実際にフィールドワークを行ってもらい報告してもらい。また合同でフィールドワークも実践する。初回授業は4月24日である。zoom を使い遠隔授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンスフィールドワークの基本	授業の目的 フィールドワークを資料を用いて理解してもらい理解
2 回目	質的調査と量的調査の考え方と方法	社会調査の事例をみながら、質的と量的調査の基礎的な考え方と位置づけ、それぞれの分析手法を理解する。その上で、調査の全体構成の中で、量的と質的をどのように位置づけていくかにについて学ぶ
3 回目	質的調査の実践	質的調査の手順と手法
4 回目	参与観察とは何か 調査の事前準備	参与観察の実例から学ぶ 各自調査の事前準備状況を報告
5 回目	調査論文の実例から学ぶ	調査論文、報告書の書き方を身につける 特に、観光関係の書籍、論文から、調査の実践について学ぶ
6 回目	各自調査の発表	それぞれが調査結果についてプレゼンテーションを行う
7 回目	振り返り	調査の困難な点、問題点について討議をし、解決法を見いだす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者に座学及び実践を通じてフィールドワークの考え方及び技術を習得してもらうことを目的にするため、事前準備の重要性が極めて重要であることから、授業時間以外に様々な知識や情報を得る努力をしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜紹介する。

【参考書】

佐藤郁也 (2008)『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社
 須藤廣 (2008)『観光化する社会—観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、レポート 70%

【学生の意見等からの気づき】

担当者変更につき、本年度は学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【学生が準備すべき機器他】

タブレットやノート PC などインターネットに接続できるものを持っていることが望ましい

【その他の重要事項】

とくになし。

【Outline and objectives】

In this lecture, we aim to acquire the concept and basic skills of field work (field survey). Basically we focus on qualitative research.

ARSI520R1

メディア産業論

増田 弘道

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本を代表するポップカルチャーとなったアニメとはどのようなものであるのかについて正確な認識を持つ。アニメが古くから絵画、物語など日本の伝統文化と深く関わっていることを把握し、国際化する社会の中で日本の産業・文化としてどのように位置づけられるのかについて考える。また未来産業としてのアニメについても言及する。

【到達目標】

アニメについての正確に語れるようになること。日本のみならず、アメリカやその他の諸国、また近年存在感を増している中国などで、アニメがどのような状況になるのかについて正確に知り、伝えられるようになる。世界の共通言語となりつつあるアニメをコミュニケーションツールとして使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 映像等を見ながら国内外のアニメーションの歴史やその文化的位置付けを把握する
- 2) アニメ産業の基礎知識（産業構造、収益手段（ウィンドウ）、ディズニーやピクサー他日米主要スタジオ、人材育成、著作権）を得る
- 3) アニメがどのようにつくられているのかを知る（企画から制作、回収、分配までの工程。プロデューサーの役割など）
- 4) アニメ作品の鑑賞とその解説
- 5) アニメを考える上で有効と思われるその時々トピックを取り上げて解説する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アニメ概論 introduction	自己紹介、推薦図書、推薦映画、映画産業についてなど
2	アニメ概論	前回の続き
3	中国アニメの実態について	躍進著しい中国アニメの実態について
4	アニメ概論イメージパワー	マンガ、アニメが持つ意義、イメージパワーの創価力
5	アメリカンアニメーション	アメリカのアニメーションの実力について。世界一を誇るハリウッドのアニメーション産業、ディズニーやピクサー、イルミネーションといったスタジオについて迫る
6	アメリカンアニメーション2	アメリカのアニメーションの実力について。世界一を誇るハリウッドのアニメーション産業、ディズニーやピクサー、イルミネーションといったスタジオについて迫る
7	ファンタジー化する映画	日米のみならず、世界中でファンタジー化が進むその現象に迫る
8	アニメはどのように創られるのか	アニメは実際どのようにつくられているのかについての解説。アニメの定義など
9	アニメはどのように創られるのか2	アニメはどのように創られるのかアニメづくりの前に日本のアニメ産業の実態を探る1 産業数値など
10	アニメはどのように創られるのか3	アニメづくりの前に日本のアニメ産業の実態を探る2 産業構造
11	アニメはどのように創られるのか4	アニメをつくる1 アニメの企画から回収までの製作フロー
12	アニメはどのように創られるのか5	アニメをつくる2 企画書のつくり方。企画主旨、原作、スタッフ、予算、回収方法、分配、著作権など
13	アニメ作品鑑賞	世の中に余り知られていないが、アニメ史的に価値のある作品を観る
14	アニメ作品鑑賞2	世の中に余り知られていないが、アニメ史的に価値のある作品を観る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディズニーや東映アニメーションのクラシック映画作品をなるべく見ておくこと。また興味のあるアニメ作品や監督などがあれば自分なりに調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『製作委員会は悪なのか』（テキスト、増田弘道／星海社新書）
『デジタルが変えるアニメビジネス』（参考書、増田弘道、NTT 出版、2016 年）
『もっとわかるアニメビジネス』（参考書、増田弘道、NTT 出版、2012 年）
『アニメビジネスがわかる』（参考書、増田弘道、NTT 出版、2007 年）

【参考書】

『アニメを仕事に！トリガー流アニメ制作進行読本（星海社新書）』
『新版 アニメーション学入門（平凡社新書）』

【成績評価の方法と基準】

平常点や授業への参加意欲 40 %、レポート（2 ～ 3 回予定）60 %。

【学生の意見等からの気づき】

情報量が多く、授業時間ギリギリまで講義を続けるケースが多いので、なるべく質問や対話を増やそうと心がける。

【Outline and objectives】

Anime has become Japan's leading pop culture, so we have an accurate understanding of it in this class. We have to understand that anime has been deeply related to Japanese traditional culture such as paintings and stories since ancient times, and to consider how it is positioned as a Japanese industry and culture in an internationalized society. We also mentions animation as a future industry.

ARSI520R1

イベント・フェスティバル論

山中 聡

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エンターテインメントとしてのイベント・フェスティバルから地域活性化や地球温暖化防止など問題を啓蒙、啓発を目的としたイベント・フェスティバルなどを多角的に検証する。音楽業界からの視点で、それらイベント、フェスティバルを作り上げるプロセスやメディアの現状と今後を具体的に考察しつつ、様々な行政との関わりなども視野に入れた実践的に考察。また、海外観光客で賑わう日本国内での集客イベントを具体的に検証して自ら企画を試みる。

【到達目標】

授業の到達目標は自らイベント、フェスティバルを企画、運営するための基礎知識を習得する事です。独創的な企画と実行へのプロセスを共に考えることで、新たなスキルを身につけます。集客につなげる音楽コンテンツとその他のポップ・カルチャーを世代別の目線で再確認していくことや SNS など新たなコミュニケーション・ツールを介して拡散させる具体的なシュミレーションを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化コンテンツ（音楽や映画など）をテーマとしたイベントのマネジメントを様々な視点から検証したり、地域活性化をテーマとしたイベント・フェスティバルをいくつか具体的に検証しながら、様々な目的を持ったイベントの制作とマネジメント、メディア MIX での具体的なプロモーションを事例をおって考察していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	音楽、その時代背景と昨今ロックフェス、多様化した様々な文化系イベントを考える。	ウッドストックからフジロックなど時代とともに進化していく、自然共存型や都市型の様々なフェスや文化コンテンツによるイベントを検証する。
2	マーケティングとプロモーション。	メディアの現在、過去、未来を俯瞰しつつ、イベント・フェスティバルでの有効なメディアの使い方を考察する。
3	イベントにおけるマネジメントを俯瞰する。	イベント目的に応じた企画、制作と著作権やマーチャндаイジングなど具体的な現場でのマネジメントを学ぶ。
4	少子高齢化、町興し、インバウンドを考える。	少子化と高齢化、過疎化の進む日本での今後のイベントのあり方とテーマ。海外観光客によるインバウンドによる地域創生、活性化させる具体論を検証し考える。
5	ポップ・カルチャーをテーマにしたイベント考察。	1970 年代、1980 年代など世代共有による横軸と音楽や映画などポップ・カルチャーの共有による縦軸をテーマにイベントを創る。
6	パブリックな意図を持った行政との連携による公園や街中でのイベント、フェスティバル考察。	地球温暖化や防災などを視野に入れた、代々木公園や上野公園、街中などでの都市型野外イベント・フェスティバルを企画する。
7	イベント、フェスティバル論総括。	様々の目的を明確にした、イベント、フェスティバルを自らプロデュースしたら。講義で得たノウハウを具体化し、プランニングする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとのまとめをお願いします。
毎回、様々な時代の音楽や映画などポップ・カルチャーを紹介します。
好奇心ありきの授業です。
最終的にイベントでのプロデュースすべき留意点を学びましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の中で、参考となる書籍、音楽、映画など随時紹介します。

【参考書】

テキスト同様、授業内で随時紹介、配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、授業中の討議参加 20 %、レポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

海外からの留学生にも理解出来る内容を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、PC を使用する事もある。

【Outline and objectives】

The goal of the class is to acquire the basic knowledge to plan and manage events and festivals on their own. By thinking together about the process of creative planning and execution, you will acquire new skills. Experience specific simulations that reconfirm music content and other pop culture that connect to attract customers from a generational perspective and spread them through new communication tools such as SNS.

TRS520R1

観光マーケティング論

青木 洋高

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：文化・都市・観光／観光メディア | 都市空間 | 都市文化

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「観光」は不況、人口減少、高齢化など厳しい環境下におかれた我が国にとっての救世主として注目されている領域である。とりわけ疲弊した地方都市の「活性化」という側面ではその期待も大きい。

一方で、旅行者のニーズは多様化し、さらにインターネットの普及で旅行者個人による情報収集や手配が可能になり旧来の旅行代理店の優位性が崩れつつあるほか、地域の実態に即した「持続可能な観光」形態が求められてきたことなど、時代の変化による様々な要因を背景にその観光スタイルも変化しつつある。これら多種多様な旅行者のニーズを的確に捉え、旅行者の満足を最大化し、「持続可能な観光」を維持、発展させるためには「マーケティング」の発想が欠かせない。この授業では、「マーケティング」についての基礎的な理論を把握したうえで、観光産業における具体的な事例を交えながら、そのプロセスを学習していく。

【到達目標】

観光マーケティングの基礎的な理論を習得し、その役割や重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

観光マーケティングの理論を考察する。観光産業における具体的な事例を積極的に紹介し、ケーススタディを交えながら進めていく。共通テーマでのディスカッションなどを取り入れた双方向な授業を目指す。

講義のなかで複数回、実務者のゲスト講師を迎えて講義・討議を行う（詳細は初回講義時に説明。そのため授業計画の順序は変更になる場合がある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-2	ガイダンス、授業の進め方	観光マーケティングとは何か、観光の「いま」を知る。
3-4	デステイネーションにおけるマーケティング戦略①	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。
5-6	航空会社におけるマーケティング戦略	激動の航空業界の現況を理解する。LCCとFSA、プライシング戦略など。
7-8	鉄道会社におけるマーケティング戦略	観光需要の創造、地域振興に対する鉄道会社の取り組みを把握する。
9-10	旅行会社におけるマーケティング戦略	旅行会社のプロモーション戦略、旅行商品の流通、これからの旅行業界の姿などを学ぶ。
11-12	宿泊施設におけるマーケティング戦略	多様化するホテル、旅館業界について学ぶ。宿泊施設の収益モデル、外資系ホテルの参入など。
13-14	デステイネーションにおけるマーケティング戦略②	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り扱った内容を各自の研究テーマとリンクさせながら復習し、次の講義に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

講義の中で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %。

【学生の意見等からの気づき】

各回の冒頭で理解の確認を図るための振り返りの時間を確保したい。

【Outline and objectives】

“Tourism” is a field currently gaining a significant attention as a savior of Japan in the tough environments such as economic depression, population decline, and aging. In particular, it has particularly large expectations for the aspect of “Revitalization” in exhausted local cities. On the other hand, needs of tourists become diversified and traditional travel agencies have been losing their advantageous grounds due to information collection and travel arrangement by each individual tourist himself through the wide spread of the Internet while the tourism style itself has also been changing on the background of various factors with the change of the times such as requiring a form of “Sustainable tourism” in harmony with actual local conditions. It will absolutely need a concept or idea of “Marketing” when accurately comprehending a large variety of tourist needs, maximizing the tourist satisfaction, and then developing “Sustainable tourism”. In this class, on the basis of understanding the basic theory of “Marketing”, you will learn the process of tourism industry by examining particular cases in the industry.

ECN520R1

行動経済学

真壁 昭夫

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／経済・社会
 群／プログラム：地域産業・企業／地域産業・行動経済

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、世界的に注目を集めている心理学をツールとした新しい経済学である行動経済の基礎について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

具体的目標としては、行動経済学の概要を理解すること、そして実際の経済活動を行動経済学の考え方に基づき解析し、自分なりのロジックを構築することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

行動経済学に関する文献、論文等を講読する。受講者は、実際の経済活動の中で関心のある事象を選んで、行動経済学的な見地からの分析を行い、発表することによって新しい経済学のフレームワークへの理解を深める。また、グループディスカッションを行うことで、より深い知識の習得を目指す。

実際の内容については、受講者の人数や希望に応じてフレキシブルに対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参考図書や文献等によって行動経済学の概要を学ぶ。
第 2 回	行動経済学の主要理論	参考図書等によって行動経済学の主要理論を学ぶ。
第 3 回	伝統的経済学の理論と行動経済学の理論の比較	新古典派などの伝統的な経済学に比べ、行動経済学にはどのような特徴があるかを参考文献などをもとにして、発表、議論する。
第 4 回	行動経済学の最新理論とその応用①プロスペクト理論	行動経済学の中核的理論であるプロスペクト理論を紹介する。実際に、その理論が日常生活の中で応用できるケースなどをグループワークなどを通して確認する。
第 5 回	行動経済学の最新理論とその応用②ヒューリスティック	ヒューリスティックに関する理論を確認する。また、生活の中でヒューリスティックに影響されているケースなどを受講者間で確認し、行動経済学が個人の行動様式を見直すことに役立つことなどを考える。
第 6 回	行動経済学と金融市場の動き	行動経済学の長所は、バブルの発生過程を客観的に説明可能なことである。バブルの歴史を受講者間で確認し、行動経済学の理論を用いてどのように金融市場を分析するかを議論する。
第 7 回	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、行動経済学のポイントを抑える。また、受講者からの発表などを通して、疑問点などを確認し、更なる理解を深める機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それを行動経済学的な知見に基づいてより深く検討すること。すべての履修者は、そうした検討に基づいてディスカッションを展開する準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

イントロダクションで、受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。拙著「行動経済学入門」（ダイヤモンド社）は有効な選択肢と考える。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発表・ディスカッションへの参加等）（50％）、プレゼンテーション（50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回授業で解説すると同時に、履修者の希望等をヒアリングする。そのため、初回授業は要出席。講義内容は、受講者の関心等に沿って変更することも可能とする。

【Outline and objectives】

This lecture aims to understand the basic theories of behavioral economics.

ECN520R1

応用行動経済学

真壁 昭夫

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：経済・社会・雇用／経済・社会

群／プログラム：地域産業・企業／地域産業・行動経済

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、心理学を基礎的ツールとした新しい分野の経済学である行動経済学を用いて、経済、政策運営等に関する施行方法、その政策効果について分析力を習得することを目的とする。

【到達目標】

具体的目標としては、行動経済学の概要を理解したうえで、実際の経済活動（金融市場の動向や企業の経営戦略など）を行動経済学の考え方にに基づき解析し、自分なりのロジックを構築することを重視する。特に、行動経済学理論を応用し、実際に各国で運営されている政策を行動経済学の観点から分析することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

行動経済学に関する文献、論文等を講読する。受講者は、実際の経済活動の中で関心のある事象を選んで、行動経済学的な見地からの分析を行い、発表することによって新しい経済学のフレームワークへの理解を深め、それをもとに実際に起きている経済現象や政策運営の在り方を考察する。また、グループディスカッション等を行うことで、より深い知識の習得を目指す。

実際の内容については、受講者の人数や希望に応じてフレキシブルに対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参考図書や文献等によって行動経済学の概要を学ぶ。
第 2 回	行動経済学の主要理論の確認	参考図書等によって行動経済学の主要理論を学ぶ。
第 3 回	行動経済学を用いた経済・政策分析	受講者各自の関心に基づいて、日常の経済事象、各種政策に関する分析を行い、発表・討議する
第 4 回	行動経済学を用いた政策分析	第 3 回目の講義をベースに、近年、世界的に関心を集めているナッジの理論に関する理解を深める。受講者によるナッジの理論を応用した政策分析などの発表を行う。
第 5 回	行動経済学を用いた政策分析②	2017 年ノーベル経済学賞を受賞したリチャード・セイラー教授の論文などを参考にしつつ、ナッジの理論を用いた最先端の研究内容についてグループワークなどを行う。
第 6 回	行動経済学を用いた地方創生の検証	地方の創意工夫を引き出しつつ、持続的かつ各地方が独立した形で産業振興などを進めるためにはどのような発想が必要か。行動経済学の理論をもとにグループディスカッションなどを行う。
第 7 回	総括	一連の講義を通して、行動経済学の理論を用いた政策立案、その評価等の可能性を受講者間で議論する。また、行動経済学に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際の経済現象（景気動向、金融市場の動向、経済環境と企業の経営戦略など）や、金融・財政政策をはじめとする各種政策の運営について各人の関心を高め、それを行動経済学的な知見に基づいてより深く検討すること。すべての履修者は、そうした検討に基づいてディスカッションを展開する準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

イントロダクションで、受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。拙著「最新 行動経済学入門」（朝日新書）は有効な選択肢と考える。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発表・ディスカッションへの参加等）（50％）、プレゼンテーション（50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとした。

【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回授業で解説すると同時に、履修者の希望等をヒアリングする。そのため、初回授業は要出席。講義内容は、受講者の関心等に沿って変更することも可能とする。

【Outline and objectives】

This class focuses on the advanced studies of the behavioral economics, especially empirical studies on the economic activities and policy design and management using the latest research and related articles.

MAN520R1

地域経営戦略論

真壁 昭夫

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：地域産業・企業／地域産業・行動経済 | 企業経営革新 | CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方経済再生に必要な取り組みを経済政策、企業経営などの側面から多面的に考え、その内容を実務（政策立案・運営、企業戦略など）に活かすことを目指す。

【到達目標】

具体的に、わが国経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地方経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は、実際の経済活動の中で関心のある事象を選び、地方経済再生との関係に基づいて分析を行い、発表を行う。また、グループディスカッションを行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。実際の内容については、受講者の人数や希望に応じてフレキシブルに対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	受講者の関心などを確認し、どのような観点か地方創生などに関する取り組みを議論すべきか、ディスカッションを行う。
第 2 回	地方経営と政策	受講者からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）を確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解を深めるために、グループディスカッションを行う。
第 3 回	地方経営のケーススタディ①	プレゼンテーションを基に、比較的成功していると考えられる地方創生のケーススタディーを行う。その上で、グループディスカッションを行い、企業経営や地方自治体の采井に必要な取り組みなどを議論する。
第 4 回	地方経営のケーススタディ②	プレゼンテーションを通して、企業経営に焦点を当て、地方に本拠地を置く企業がどのような状況にあるか、その中でどのような産業、企業が競争力を発揮していると考えられるかを確認する。また、グループディスカッションを行う。
第 5 回	地方経営と観光	プレゼンテーションより、近年わが国の地方経済に無視できない影響を与えている観光ビジネスの動向を理解する。さらに、グループディスカッションを行い、どのような取り組みが必要か、理解を深める。
第 6 回	政策提言	経済政策の視点から、どのような政策プログラムが地方経営に必要と考えられるか、プレゼンテーションとグループディスカッションを行う。
第 7 回	まとめ	一連の講義を通して、地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地方経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の発表・ディスカッションへの参加等) (50%)、プレゼンテーション (50%) とする。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション、グループディスカッションへの積極的参加が重要

【その他の重要事項】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【Outline and objectives】

"Regional Management and Strategy" focuses on the analysis on economic policies and management strategies for enterprises in the regions of Japan. Then, aims to design effective policy or management strategies for the economic development.

SOC520R1

ソーシャルキャピタル論

黒田 英一

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2 単位

群／プログラム：地域産業・企業／地域産業・行動経済 | 企業経営革新 | CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ソーシャルキャピタル」とは社会における信頼関係、規範、ネットワークなどの様々な人と人との「つながり」をさし、「社会関係資本」「社会資本」とも呼ばれる。

本授業では、福祉、治安、教育、政治、企業家精神などに影響をおよぼすと指摘されているソーシャルキャピタルの概念を、国際比較の視点から、これまでの理論的・実証的成果を踏まえて、社会現象を読み解くための重要な分析ツールとして理解する。

【到達目標】

ソーシャルキャピタルの概念を活用し、いろいろな社会現象を読み解く力を身につける。なぜ、ソーシャルキャピタルが形成されると、健康で長生きできる地域が生まれるのか。また治安が良くなり、犯罪が少ない町になれるのか。地域力が学校と結びついて、子供の学力を向上させることにもつながるのか。こうした社会現象を、深く理解する力を身につけることを目標とする。

あわせて、どう学術論文を書いたらいいのかわからない初学者を念頭におき、学術論文の研究の問い、先行研究サーヴェイ、論文の構成、調査方法、参考文献リスト作成などを理解し、学術論文を書くために必要な論理的に考える力 (ロジカルシンキング) を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は前半と後半に分かれる。

前半の授業では、ソーシャルキャピタルの概念を解説する。

後半の授業では、前半で学んだソーシャルキャピタルの概念を踏まえた上で、先行研究の論文を読んだり、実際の社会調査で使われた調査票を読み解く。また、時間があればグループ討論・発表を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと基礎編 1 ガイダンスと講義「社会科学のバースペクティブ」	授業内容、レポート提出などについて、簡単なガイダンスを行う。その後社会学、経済学など社会科学全般のものの見方と各学問の社会の捉え方の違いについて解説する。
2	基礎編 2 講義「研究の進め方と論文の書き方」	学術論文を書くために、研究の問い、先行研究、仮説設定、調査方法そして目次構成、参考文献リスト作成などについて解説する。あわせて、書評論文とのかかわりについても解説する。
3	理論編 1 講義「ソーシャルキャピタル論概論」「ネットワーク分析アプローチ」と論文を読む	社会科学で頻繁に取り上げられるソーシャルキャピタルについて、その萌芽、理論的系譜などについて概説する。また、グラノベッター、西口・安田のネットワーク分析アプローチの理論を解説する。その後、ネットワーク分析の論文を読む。
4	理論編 2 講義「個人財アプローチ」と調査票を読み解く	ブルデュー、ナン・リンの個人財アプローチの理論を解説する。その後、社会調査で実際に使用された調査票を材料に、仮説や集計方法を読み解く。
5	理論編 3 講義「集合財アプローチ」と調査票を読み解く	コールマン、パットナムの集合財アプローチについて解説する。その後、社会調査で実際に使用された調査票を材料に、仮説や集計方法を読み解く。
6	理論編 4 講義「日本の村落社会とソーシャルキャピタル」と調査票を読み解く 講義「小論文の書き方」	日本の村落社会のソーシャルキャピタルについて解説する。その後、社会調査で実際に使用された調査票を材料に、仮説や集計方法を読み解く。あわせて、小論文を書く際の注意すべき点を解説する。
7	理論編 5 とまとめ 講義「ソーシャルキャピタル批判」と「ソーシャルキャピタル論のまとめ」	これまで、ソーシャルキャピタル論に寄せられた経済学、社会学、開発援助、歴史学からの多くの批判をとりまとめて解説する。最後に、ソーシャルキャピタル論のまとめとして、今後のソーシャルキャピタル論を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかでもいくつかの参考書を紹介するので、数冊選び授業準備や復習のために読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はまとまったものが未だないため、使用しない。

【参考書】

教科書のかわりに、次の参考書のなかから数冊選び、読んでおくこと。
稲葉陽二『ソーシャルキャピタル入門－孤立から絆へ』中公新書、2011 年
稲葉陽二他編『ソーシャルキャピタルのフロンティア－その到達点と可能性』ミネルヴァ書房、2011 年
(この本が網羅的だが比較的まとまっているで、ソーシャルキャピタル論の概要を知るのに最適)

David Halpern “Social Capital” Polity Press ,2005

ロバート・パットナム『哲学する民主主義－伝統と改革の市民的構造』NTT 出版、2001 年

ロバート・パットナム『孤独なボウリング－米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房、2006 年

ナン・リン『ソーシャル・キャピタル－社会構造と行為の理論』ミネルヴァ書房、2008 年

中根千枝『タテ社会の人間関係－単一社会の理論』講談社現代新書、1967 年

三隅一人『社会関係資本－理論統合の挑戦』ミネルヴァ書房、2013 年

辻竜平・佐藤嘉倫編『ソーシャル・キャピタルと格差社会－幸福の計量社会学』東大出版会、2014 年

安田雪『ネットワーク分析－何が行為を決定するか』新曜社、1997 年

安田雪『実践ネットワーク分析－関係を解く理論と技法』新曜社、2001 年

渡辺深『転職の社会学－人と仕事のソーシャル・ネットワーク』ミネルヴァ書房、2014 年

西口敏宏・辻田素子『コミュニティ・キャピタル－中国・温州企業家ネットワークの繁栄と限界』有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（6 割）と、発表・討論への参加や学習状況（4 割）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケート調査では、学術論文の書き方が身についたとの評価があったので、今年度も修士論文につなげられるように論文の書き方をさらにわかりやすく解説する予定である。

【その他の重要事項】

第 1、2、3 回目の授業においてソーシャルキャピタルを理解するために必要な基礎的な項目について解説する。

なお、オフィスアワーは授業後に設ける。また、不明の点、学習の進め方などわからない点は、メールで自由に問い合わせること。

なお、ソーシャルキャピタルは学際的な学問のため、導入科目「社会学」「経済学」、選択必修科目「研究法」「調査・データ分析の基礎」や「フィールドワーク論」などの科目をあわせて履修しておくことと理解しやすい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of social capital to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- (1) understand major terms and basic concepts in social capital,
- (2) evaluate major studies in terms of their methods, conclusions and implications,
- (3) analyze the behaviors of individuals, groups and organizations.

Contents:

- (1) Introduction: What is Social Capital?
- (2) Academic Research and Academic Writing
- (3) Social Network Analysis Approach
- (4) Individual Goods Approach
- (5) Collective Goods Approach
- (6) Social Capital in Japan
- (7) Critical Studies on Social Capital and Review

MAN520R1

非営利組織特論

今瀬 政司

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：単位

群／プログラム：地域産業・企業／地域産業・行動経済 | 企業経営革新 | CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会貢献を第一に考え、ボランティア活動あるいはビジネス・経済活動を行う「民間非営利組織」（NPO）を理論的かつ実践的に学ぶ。民間非営利組織には、NPO 法人（特定非営利活動法人、主に学習）のほか、公益法人、社会福祉法人、学校法人等がある。「社会貢献とビジネスを両立する働き方」を目指して、NPO 法人で就職や起業する人も増えている。こうした NPO について、全国各地の多数の具体的な事例も交えて理解するとともに、NPO 法人を具体的に設立するための実践的ノウハウも学ぶ。NPO と行政、企業等の協働事業や地域づくり、ならびに地縁型非営利組織による新たな地域自治システムについても学ぶ。

【到達目標】

民間非営利組織（NPO 法人・公益法人等）の「非営利」の概念・特徴や企業との違い、活動や政策の歴史的な経緯、現場の実態や課題などを理解すると共に、その公益・公共性の高い社会的役割と、ベンチャー以上のベンチャーとしてソーシャルビジネスや新たな産業・市場を創出する経済的役割を理論的かつ実践的に理解する。また、NPO 法人を具体的に設立・運営したり、政策的な対応などを行う上での実践的な考え方や知識・ノウハウを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストや参考文献等を使いながら知識・ノウハウを学ぶ講義を進めるとともに、受講者による質疑応答や自由な討論、レポート発表・助言等にもできる限り時間をかける。具体的な活動事例や日々の社会的な出来事についても積極的に話題として取り上げ、現場の NPO 等の視点からそれらの本質について議論する機会も設ける。また、受講者の問題意識、研究テーマ、日々の取組みに関連した内容についても、必要に応じて取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと非営利組織の概論	受講者の問題意識・研究テーマ等の確認と授業の進め方などの説明を行う。その上で非営利組織の概論を学ぶ。
2	NPO の特徴と活動史・政策史	「非営利」の意味や NPO の組織運営形態、特徴、企業との違いなどを学ぶ。また、1980 年代後半から市民が切り拓いてきた NPO の活動と政策の歴史を学ぶ。
3	狭義と広義の非営利組織	NPO 法人、ボランティア団体、市民公益活動団体、公益社団法人、公益財団法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人等の様々な民間非営利組織について学ぶ。
4	公益と経済の担い手としての NPO	公益・公共概念の変化を踏まえた上で、NPO の「公益の担い手」としての社会的役割と実態・課題を学ぶ。また、「経済主体」としてソーシャルビジネスや新たな産業・市場を創出する役割と実態・課題を学ぶ。
5	NPO 法人の概要と設立・運営ノウハウ、法人設立の演習	NPO 法人（特定非営利活動法人）について、その組織運営形態、設立要件、法人化の長所・短所などを学ぶ。また、NPO 法人を具体的に設立し運営するための必要書類や手続き等のノウハウを学ぶ。さらに、法人設立の演習を実践的に行う。
6	「協働」の活動と政策のあり方	NPO と行政の「協働」の概念と実態・課題について、従来の政策や地域づくり等のあり方との違いを踏まえながら学ぶ。また、NPO と企業の「協働」、企業の CSR などの実態と課題を学ぶ。
7	地縁型非営利組織による地域自治	市町村合併の影響や地域自治システムの再編などに伴って変わる住民自治と、「地縁型非営利組織」としての住民組織・地域自治組織やその関連政策の実態と課題を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者はテキストを事前に読んでおくこと。テーマに関連した参考文献や実践的な活動情報等（必要に応じて紹介する）についても予習・復習等すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『地域主権時代の新しい公共 希望を拓く NPO と自治・協働改革』今瀬政司 著、学芸出版社、2011 年刊、ISBN978-4-7615-2525-5、定価 2,300 円（税別）

【参考書】

テーマに関連した参考文献や実践的な活動情報等を必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（70％）＋平常点（30％）

【学生の意見等からの気づき】

テキストや参考資料等をより有効に活用しながら授業を進める。また、受講者のニーズに応じて、知識・ノウハウの理解と共に、より実践的な学習にも重点をおいて進める。

【その他の重要事項】

質問等は授業中の他、授業後や E-mail 等でも柔軟に受け付ける。担当教員は、民間非営利組織 10 団体以上での実務経験（専任職員、代表、役員、委員等）を持っていることから、実際の具体的経験を紹介することで、リアリティを持って実践イメージを持ち、実務ノウハウを持てるようにする。

【Outline and objectives】

In this lesson, you will learn about "Private Non-Profit Organizations" (NPOs) that conduct volunteer activities or business activities, theoretically and practically, with social contribution first. Private non-profit organizations include NPOs (Specified Nonprofit Corporations, mainly learning), public interest corporations, social welfare corporations, school corporations, and the like. The number of people who find employment or start a business at an NPO is increasing with the aim of "work style that balances social contribution and business." Understand these NPOs with a lot of specific examples from all over the country. You will also learn practical know-how for establishing an "Specified Nonprofit Corporation". You will also learn about collaborative projects and regional development/vitalization between NPOs and governments and companies, as well as new regional autonomous systems by community-based non-profit organizations.

MAN520R1

商店街活性化論

井上 善海

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：地域産業・企業／地域産業・行動経済 | 企業経営革新

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人口減少、大型店の郊外進出、コンビニの出現・増加、ネット通販の拡大等、商店街を取り巻く経営環境は、それぞれの時代において大きく変化してきました。それに対し、政府は各種の中心市街地政策や商店街政策を講じてきましたが、これらの政策が目に見える効果を上げてきたかどうかは議論が分かれるところです。

本講義では、商店街が今後も地域コミュニティの担い手として期待される役割を發揮していくためには、どのような政策や取り組みが必要かについて考察していきます。

【到達目標】

- ①地域経済における商店街の役割について説明できる。
- ②ショッピングセンター等の商業集積とは異なった商店街の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、存続・成長を続けていくための商店街活性化策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	流通革命と中小小売業	消費者サイドが市場を定義する主役となる第三次流通革命の進展と中小小売業の対応について。
2	商店街の現状と歴史	小売立地の構造的変化と商店街の衰退、規制緩和と競争激化、業種から業態への変化、ネットワーク化への対応といった中小小売業の経営危機について。
3	商業集積としての商店街	自然発生的な日本の商店街と計画形成的な米国発祥のショッピングセンターとの経営特性の違いについて。
4	地域経済における商店街の役割	地域コミュニティの核となる商店街の果たすべき社会的、公共的役割の向上を通じて、商店街に賑わいを創出し活性化を図ることについて。
5	商店街活性化政策①「商店街活性化計画」	商店街のもつ限られた経営資源を効率良く活用するための「商店街活性化計画」について。
6	商店街活性化政策②「空き店舗対策・個店の魅力アップ」	商店街は個店の集積であり、魅力ある個店が増えることで商店街が活性化することについて。
7	商店街活性化政策③「後継者育成」	若手・後継者などの内部人材を商店街の新たな担い手として発掘・育成することについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50％）、講義内で課すミニレポート（50％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The business environment surrounding shopping districts has changed dramatically in each era, such as population decrease, the expansion of large stores in the suburbs, the appearance and increase of convenience stores, and the expansion of online mail order. On the other hand, the government has taken various central city policies and shopping street policies, but it is a matter of argument whether these policies have made visible effects. In this lecture, we will consider what policies and initiatives are necessary for the shopping district to continue to demonstrate the role expected as a carrier of the local community.

MAN520R1

新産業創出論

井上 善海

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：経済・社会・雇用／雇用・人材育成・キャリア

群／プログラム：地域産業・企業／地域産業・行動経済 | 企業経営革新 | CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第 4 次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。第 4 次産業革命は、大企業だけでなく中小企業や地域経済へも大きな影響を与えています。

本講義では、第 4 次産業革命に対応した地域経済の発展と中小企業に焦点を当て、地域の産業資源を最大限に活用した新産業創出のあり方やそれを支援する政策について考察を行います。

【到達目標】

①第 4 次産業革命の地域経済や中小企業への影響について説明できる。

②新産業創出の外発的、内発的な政策について説明できる。

③新産業創出のための支援機関や自治体の独自政策の必要性について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 4 次産業革命と地域経済、中小企業	第 4 次産業革命が地域経済や中小企業に及ぼす影響について。
2	国際競争力を高める中小企業によるイノベーション	イノベーションを加速化するためのオープンイノベーションシステムについて。
3	外発的な誘致企業による新産業創出政策	企業誘致の促進と誘致企業の流出防止について。
4	内発的な地元企業による新産業創出政策	地域の産業資源を最大限に活用した地元企業による新産業創出について。
5	産学連携による新産業創出政策	大学研究室と地域中小企業との連携による様々な製品開発や実用化研究について。
6	新産業創出支援機関の役割	成長分野における新規事業の開拓や新技術を活用した既存事業の高度化、新たなビジネスモデルによる事業展開等を支援する機関について。
7	自治体独自の新産業創出政策の必要性	迅速かつ柔軟な新産業創出を可能とする制度・環境整備について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50%）、講義内で課すミニレポート（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The 4th industrial revolution where new industries are born by IoT, big data, artificial intelligence (AI), technological innovation typified by robot is progressing with unexpected speed and impact. The Fourth Industrial Revolution has great influence not only on large enterprises but also on SMEs and regional economies. In this lecture, we focus on the development of regional economies that respond to the Fourth Industrial Revolution and focus on small and medium enterprises and consider how to create new industries that maximally utilize local industrial resources and policies that support them.

MAN520R1

財務戦略論

赤岩 茂

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位

群／プログラム：地域産業・企業／企業経営革新 | CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中小企業の財務は一般的に弱いと言われているが、その原因はどこにあるのか。資金の調達及び運用の方法の理解を通じて、中小企業でも実践的に活用できる財務戦略、経営財務について学ぶ。

【到達目標】

資金調達の方法及び運用方法、財務知識を企業経営に活かす方法を理解する。
会計の知識があることが望ましいが、ない場合でも理解できるよう授業はすすめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、中小企業経営者、財務管理者、税理士・公認会計士等の支援者が、財務戦略を立案し実行するためのスキルを身につけることを目的としている。このため、前半では、財務から経営を見る目を養うことを目的として、実際に経営分析数値を計算する場面があるので電卓も持参すること。後半は、基礎的理解をベースに、資金の運用と調達について制度面、実際面から説明していく。また、利益の約 40%を占める法人税や中小企業ではオーナー間での所得税・相続税等も重要であるのでそのコントロールについても言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中小企業の地位、財務の概要	各種統計等に基づき、我が国経済に占める中小企業の地位及び財務の概要を学ぶ
2	企業経営を財務から理解する（財務分析 1）	収益性分析の概要を学ぶ
3	企業経営を財務から理解する（財務分析 2）	安全性、生産性分析の概要を学ぶ
4	資金表から見た経営の改善	各種資金表の内容と経営改善の糸口の発見方法を学ぶ
5	資金の調達（借入金）	資金の調達方法としての借入金の概要、金融機関の格付けについて学ぶ
6	資金の調達（社債、増資）	資金の調達方法としての社債、増資、株式公開の概要を学ぶ
7	資金の運用 税務戦略まとめ	資金の運用としての運転資本管理、設備投資の意思決定について学ぶ 法人税務の概要とタックスマネジメントについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布したレジュメを学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、事前にレジュメを配布する。

【参考書】

特に指定はせず、必要に応じ講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発表、討議等）60%、レポート課題 40% レポート課題は 1 回出題する。また、3 回以上の欠席は不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問の時間を取るとともに、メールでの質問も受け付ける。

【学生が準備すべき機器他】

（説明用に P P T を使用）

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業後に設ける。

【Outline and objectives】

It is generally said that the finances of SMEs are weak. Where is the cause? Through understanding how to raise and operate funds, learn about financial strategies and business finance that can be used practically by small and medium-sized businesses.

MAN520R1

事業承継論

磯竹 克人

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：地域産業・企業／企業経営革新 | CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの社長が辞めるに際して願うことは、①自分が育てた会社がさらに成長する、②息子が後継者としてふさわしい人材に育つ、③身内に後継者がいなくても安心できる、④親族間、株主間の争いが起こらない、といった事である。今では、これらを実現するための選択肢や手順もずいぶん広がっているが、その分、知恵も戦略の必要性も増している。

本講義は、ケーススタディを通して、中堅・中小企業の事業承継に関する有益な知見と幅広い視点を得られることや将来の業務に役立てることを目的とする。受講対象者は、①後継者、②経営者（または経営者補佐）で後継社長を育成すべき方、③将来、外部から事業承継のアドバイスを行いたいと考える方を対象に、事業承継にかかわる際の参考となるような講義としたい。

【到達目標】

中堅・中小企業の事業承継に関する有益な知見と幅広い視点を得る、また将来の業務に役立てられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ケーススタディを交えながら講義を中心に行う。また、適宜、演習により理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.2	事業承継の全体像	・事業承継における3つの選択肢 ・事業承継に対する経営者の正しい取り組み方 ・事業承継に対する後継者の正しい考え方
3.4	承継スキームと後継者育成	・承継スキームのポイントと重要課題 ・後継者育成のポイント
5.6	後継者による経営革新	・「会社力」の3大要素 ・後継者にとって重要な経営の仕組み ・成功事例で見る「後継者による経営革新」
7.8	M & A スキームのポイント	・M & A (MBO) スキームの概要 ・M & A (MBO) のプロセスと留意点
9.10	自社株と経営権	・株主の権利と自社株問題 ・自社株承継策の概要 ・成功事例で見る「経営権の確保法」
11.12	自社株対策のポイント	・税法評価の概要 ・自社株の株価対策のポイント
13.14	事業承継のまとめと事業承継計画	・事業承継のまとめ ・「事業承継計画」の立て方 ・「事業承継計画」の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演者に係る情報や資料については、可能な場合は予め告知するので、事前に目を通しておくこと。

演習が授業内で終了しない場合には、授業外での自主学習を行ったうえ、提出となる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材は授業内で適宜配布する。

【参考書】

アタックスグループ 『社長の幸せな辞め方』 かんき出版 2007 年 3,150 円

アタックスグループ 『後継社長という人生』 かんき出版 2008 年 2,310 円

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

最終回ではパソコンでエクセルを使う予定である。

【その他の重要事項】

トピックスや日程は予定であり、変更される場合がある。

授業後に質問等を受け付ける。

【Outline and objectives】

When many presidents quit, they want to:① The company raised by the president will grow further. ② President's son grows up to be a successor. ③ President can be relieved even if there is no successor in the president's relatives.

④ No conflicts between relatives or shareholders. Nowadays, the options and procedures for realizing these methods have expanded considerably, but the need for wisdom and strategy has also increased. The purpose of this seminar is to gain useful knowledge and broad perspectives on business strategies of SMEs and to use them in future operations through case studies. Participants are as follows. ① Successor. ② Those who should train the successor president as a manager or assistant manager. ③ Those who want to give advice on business succession from outside in the future. We would like to give a lecture to these people as a reference when involved in business succession

MAN520R1

経営戦略論

井上 善海

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：地域産業・企業／地域産業・行動経済 | 企業経営革新 | CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経営戦略に関するこれまでの論点と研究成果を体系的に提示するとともに、その理論的枠組みを考察していくことをねらいとしています。このため、経営戦略の中でも事業戦略に焦点を当て、その策定・実行・評価のプロセスに従い、戦略の基礎理論とケーススタディを組み合わせ講義を進めます。これにより、伝統的理論からどのようにして現代の新しい戦略論が抽出・形成されてきたのかを理解していただきます。

【到達目標】

- ①経営戦略論の史変遷を説明できる。
- ②経営戦略の策定・実行・評価のプロセスを説明できる。
- ③経営戦略の理論を实践（ケーススタディ）で検証できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経営戦略とは ミッション	企業経営における経営戦略の役割と企業活動レベルごとの戦略の広がりや深さについて。 ミッションの明確化が戦略策定の最初の段階に位置付けられ、最も重要な戦略要素となることについて。
2	ドメイン 環境・資源分析	ドメインにコア・コンピタンスの考え方が深くかかわっていることについて。 経営環境と経営資源をマトリックスで分析することについて。
3	成長ベクトル 多角化	製品と市場の組み合わせにより、企業の成長戦略を4つに分類できることについて。 成長戦略のなかでもリスクの高い多角化について。
4	製品ポートフォリオ・マネジメント	2次元マトリックスによる複数の事業や製品に対する資源配分決定について。 グローバル戦略、戦略提携について。
5	成長戦略の展開 業界の構造分析 競争の基本戦略	5つの競争要因分析について。 競争の基本戦略の役割と競争地位ごとに採用する戦略の違いについて。
6	バリューチェーン 競争戦略の展開	バリューチェーンの構成とコーペティション戦略について。 タイムベース戦略、デファクトスタンダード戦略、ブルーオーシャン戦略について。
7	経営戦略の実行と評価	戦略は計画的に策定され、創発的に形成されなければならないことについて。 戦略評価について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上・大杉・森（2015）『経営戦略入門』中央経済社（2,200 円）

【参考書】

井上善海・佐久間信夫編（2008）『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房（2,500 円）
 その他、各回の講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50%）、講義内で課すミニレポート（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

This lecture aims to systematically present past issues and research results on management strategy and to examine its theoretical framework. For this reason, we will focus on business strategy among management strategies, and pursue a lecture that combines the basic theory of strategy and case study according to the process of formulation, execution and evaluation. By doing this, you understand how the modern new strategy theory has been extracted and formed from traditional theory.

MAN520R1

ESG 投資と企業経営

小方 信幸

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：地域産業・企業／CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、長期投資家である ESG 投資家と企業経営者が建設的対話を行うことにより、持続可能な社会が実現する仕組みを理解する。

【到達目標】

(1) 投資の意思決定の際に、環境 (Environment, E)、社会 (Social, S)、ガバナンス (Governance, G) の3つの非財務要因 (ESG 要因) を考慮する ESG 投資と、ESG 投資市場について理解できる。
 (2) ESG 投資が生まれた歴史的背景を理解できる。
 (3) ESG 投資家と企業経営者が ESG 要因について建設的な対話を行うことにより、持続可能な社会を実現できる論理を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では理論と事例についての講義を行い、後半では講義の内容に沿った内容でグループディスカッションを行う。講義とグループディスカッションを通じ、ESG 投資と企業経営の関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) 講義の進め方 (2) 講義：ESG 投資の概要と歴史
2	ESG 投資市場の参加者	(1) 講義：ESG 投資市場の参加者 (2) ケース：わが国の年金基金の問題点
3	ESG 投資を支援する制度	(1) 講義：スチュワードシップ・コードとコーポレートガバナンス・コード (2) 討論：2つのコードの目的
4	ESG 投資における投資の意思決定とリターン	(1) 講義：財務要因と非財務要因の評価 (2) ESG 投資のリターンは高いか？～先行研究からの示唆～
5	環境 (Environment, E) 要因とサステナビリティ経営	(1) 講義：企業を取り巻く環境問題 (2) ケース：JAL と ANA
6	社会 (Social, S) 要因とサステナビリティー経営	(1) 講義：ダイバーシティ経営 (2) ケース：ロレアルと資生堂
7	インパクト投資	(1) 講義：インパクト投資の概要 (2) 米国の成功事例とわが国における普及の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 配布資料を事前に読んで、授業で発言できるよう準備する。
 (2) 授業を振り返り、論点を整理する。
 本授業の準備学習および復習の時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

小方信幸（2016）『社会的責任投資の投資哲学とパフォーマンスー ESG 投資の本質を歴史からたどるー』同文館出版
 アムンディ・ジャパン（2018）『社会を変える投資 ESG 入門』日本経済新聞出版
 その他の参考書は都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業貢献 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目につき該当事項なし。ただし、学生の要望には柔軟に対応する。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。その際、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students to understand the engagement by ESG investors with corporate managers, which could realize a sustainable society.

MAN520R1

SDGs と企業経営

小方 信幸

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：地域産業・企業／CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、国連が持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals, SDGs) を制定した歴史的背景を理解することを最初の目的とする。つぎに、SDGs の 17 目標について理解し、さらに、SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解することを目的とする。

【到達目標】

(1) 国連が持続可能な開発目標 (SDGs) を制定した歴史的背景を理解できる。
 (2) SDGs の 17 の目標を理解できる。
 (3) SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループディスカッションを行う。講義とグループディスカッションを通じて、SDGs と企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) SDGs 誕生の歴史的背景 (2) 17 目標の全体像
2	SDGs の概念整理	(1) SDGs を5つのPで理解する。 (2) SDGs と CSV, CSR, ESG 投資との関係。
3	SDGs の人々 (People) に関する目標 (1)	貧困、飢餓、健康と福祉に関する目標 (SDGs Goal 1,2,3) と企業経営。
4	SDGs の人々 (People) に関する目標 (2)	教育、ジェンダー平等、安全な水とトイレに関する目標 (SDGs Goal 4,5,6) と企業経営。
5	SDGs の繁栄 (Prosperity) に関する目標 (1)	クリーンエネルギー、働きがい、技術革新に関する目標 (SDGs Goal 7,8,9) と企業経営
6	SDGs の繁栄 (Prosperity) に関する目標 (2)	人や国の不平等、街づくりに関する目標 (SDGs Goal 10,11) と企業経営
7	SDGs の地球 (Planet) に関する目標	つくる責任つかう責任、気候変動、海の豊かさ、陸の豊かさに関する目標 (SDGs Goal 12,13,14,15) と企業経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業貢献 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のため該当事項なし。ただし、学生からの要望には柔軟に対応する。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を変更することもある。

【Outline and objectives】

The aim of this course, at first, is to help students acquire understanding the historical background of the United Nations' Sustainable Development Goals (SDGs). The second is to understand the 17 goals of the SDGs. Third is to understand the relationship between the SDGs and corporate sustainability.

MAN520R1

ダイバーシティ経営

斎藤 悦子

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：地域産業・企業／CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化による労働力人口の減少、人々の労働観の変化、消費者の多様化、グローバルな社会環境における企業競争の激化といった現象が、日本企業にダイバーシティ経営を求めている。本講義では、企業の社会的責任論の立場からダイバーシティ経営の必要性を ISO26000 の中核主題（特に人権、労働慣行、消費者課題、コミュニティへの参画・発展）に基づき検討し、議論する。

【到達目標】

ダイバーシティ経営の概念、最新の動向を理解し、経営戦略を超えた企業の社会的責任として、それが企業のみならず個人の生活や地域の持続可能性にどのように作用するかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、前半は講義を行い、後半はグループディスカッション、報告、全体討論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（１）授業の進め方（２）ダイバーシティ経営の概要と本授業でとりあげる ISO26000 について
2	日本社会とダイバーシティ	（１）講義 日本社会の現状（２）討議：日本社会の現状と多様性について考える
3	生活におけるダイバーシティ	（１）講義：生活時間から見たダイバーシティ（２）討議：生活のダイバーシティに企業はどうかかわるのか
4	ISO26000 を用いて一中核課題（人権・労働慣行）	（１）講義：CSR の基準としての ISO26000（２）討議：人権・労働慣行とダイバーシティ
5	ISO26000 を用いて一中核課題（消費者課題）	（１）講義：現在の日本における消費者課題（２）討議：消費者課題とダイバーシティ
6	ISO26000 を用いて一中核課題（コミュニティへの参画・発展）	（１）講義：グローバルとグローバル（２）討議：企業は地域コミュニティにいかに関わるのか
7	ダイバーシティ&インクルージョン	（１）講義：ダイバーシティ&インクルージョンとは（２）討議：企業、地域、個人がサステナブルに存在するために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に国内外企業のダイバーシティ経営や CSR 活動に関心をもつように心掛けてください。毎回とりあげるテーマについて、準備学習として企業の事例を 1 社ほど持参してください。また、復習として討議により得られた知見をまとめてください。（各 2 時間程度）

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布する。

【参考書】

山口一男著『ダイバーシティ（豊かな個性は価値創出の泉）—生きる力を学ぶ物語』東洋経済新報社、2008 年
 関正雄『ISO26000 を読む』日科技連、2011 年
 E.H. シャイン『企業文化 改訂版：ダイバーシティと文化の仕組み』白桃書房、2016 年
 尾崎俊哉著『ダイバーシティ・マネジメント入門 | 経営戦略としての多様性』ナカニシヤ出版、2017 年

【成績評価の方法と基準】

授業での報告と討論 50%、期末レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline and objectives】

Japanese society is facing the declining workforce, changing people's value to work, diversifying consumption and intensifying corporate competition. Under the circumstances, diversity management is required for Japanese companies. This course deal with diversity management from the theory of social responsibility and ISO26000.

MAN520R1

コーポレートガバナンス

林 順一

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：地域産業・企業／CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、コーポレートガバナンスの基礎と最新の動向について学習します。学習に際して、グローバルな視点や実務の観点を取り入れ、また事例を用いて理解を深めます。

【到達目標】

コーポレートガバナンスとは何か、どのような論点があるのかについて、具体的に理解し、自らの考えがまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では、講師作成のレジメに基づいた講義を行い、後半では、グループディスカッションなどの参加型授業を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) 授業の進め方の説明とその確認 (2) 最近のコーポレートガバナンスに関するトピックスに関する議論
2	英国のコーポレートガバナンス	(1) 伝統的な英国のコーポレートガバナンスの仕組み（機関投資家の役割の重視など）(2) 最近の動き（コーポレートガバナンス・コードの改訂とその意義など）
3	米国のコーポレートガバナンス	(1) 米国のコーポレートガバナンスの変遷（1930年代から現在まで、事例を含む）(2) 最近の動き（ビジネス・ラウンド・テーブルの「会社の目的」の変更とその意味など）
4	わが国のコーポレートガバナンス	(1) 外国人機関投資家の圧力と日本企業の対応の歴史 (2) アベノミクスのガバナンス改革の概要と現在の課題
5	ESG 投資と SDGs、気候変動	(1) ESG 投資の歴史とその意味 (2) SDGs 制定までの経緯と企業がSDGsに対応する理由 (3) 気候変動を巡る議論（TCFDでの議論など）
6	企業不祥事	(1) 不祥事の実例分析 (2) 内部通報制度 (3) 司法取引 (4) ハラスメント
7	コンプライアンスとリスク管理	(1) コンプライアンスとは何か (2) 危機管理とリスク管理 (3) コンダクトリスク (4) 汚職・贈収賄防止

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 (1) 事前配布資料がある場合には、事前に読んで、授業で発言できるように準備してください。(2) 授業を振り返り、論点を整理してください。(3) 期末レポートの作成があります。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。

【参考書】

都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業での討議と授業貢献（50％）、期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目につき該当事項はありません。ただし、学生の要望には柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

該当ありません。

【その他の重要事項】

※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
 実務家教員（非常勤）。銀行・証券業界 28 年、不動産・資産運用会社 10 年の実務経験（コーポレートガバナンス関連の実務経験を含む）を活かして、実務家の視点を踏まえた授業を行います。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundation of and recent trends in corporate governance to students. In order to better understand the global and practical perspectives, a case study will be introduced.

MAN520R1

企業活動と社会 I

小方 信幸

サブタイトル：

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2 単位
 群／プログラム：地域産業・企業／企業経営革新 | CSV・サステナビリティ経営

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動において法令遵守は最低限の企業の社会的責任という。しかし、国内外を問わず非倫理的行為である企業不祥事は後を絶たない。そこで、当授業では、ケースメソッドを用い、企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき企業倫理のフレームワークを理解する。授業の前半は主に講義を行う。後半はケース・メソッドで授業を進め、さらにグループディスカッションを行う。

【到達目標】

- (1) 企業倫理のフレームワークを理解できる。
- (2) 現実のビジネスで企業が非倫理的行為を行う原因を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回授業は 6 月 15 日（月）6・7 時限に行う。市ヶ谷キャンパス入構禁止が続くなどの場合は、オンラインで授業を行う。当科目では最初に規範倫理学の基礎理論を学ぶ。そのうえで、ケースメソッドを用い、企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき企業倫理のフレームワークを理解する。授業前半は主に講義を行い、後半はケース・メソッドで授業を進める。グループディスカッション、報告、全体討論を通じて、企業倫理についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 企業倫理の理論 功利主義と現代社会	(1) 講義：倫理的利己主義と功利主義 (2) ケース：フォード・ピントのケース
2	企業倫理の理論 カント「義務論」	(1) 講義：カント「義務論」 (2) ケース：プレント・スパーの処理を巡るケース
3	企業倫理の理論 ロールズ「正義論」	(1) 講義：ロールズ「正義論」 (2) ケース：貧富の差について考える
4	企業倫理の実践 顧客関連の倫理	(1) 講義 (2) ケース：シアーズ自動車センター
5	企業倫理の実践 国際経営の倫理	(1) 講義：児童労働 (2) ケース：バングラデシュにおけるリーヴァイス社のケース
6	企業倫理の支援制度 粉飾決算と内部統制	(1) 講義：不正防止のためのコーポレートガバナンス (2) ケース：オリンパスの「飛ばし」
7	企業倫理と企業利益のジレンマ	(1) 講義：企業倫理を改めて考える (2) ケース：技術者倫理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 配布資料を事前に読み、授業で発言できるように準備する。
- (2) 授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

梅津光弘（2002）『ビジネスの倫理学』丸善出版、1,900 円＋税
 井上泉（2015）『企業不祥事の研究』文真堂、2,200 円＋税
 マイケル・サンデル（訳）鬼澤忍（2011）『これからの「正義」の話をしよう』早川書房（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）、900 円＋税
 その他の参考書は都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業貢献・討論 40％、期末レポート 60％を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生から企業のコンプライアンス担当者などのゲストスピーカー招聘の希望があった。当授業の目的に合致した方の招聘を検討する。

【その他の重要事項】

ゲスト・スピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を一部変更することもある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire understanding of business activity and ethics. Participants are expected to explain the essential concepts of business and ethics, and to discuss the specific subjects.

ECN500R1

経済学

梅溪 健児

科目分類：導入科目（選択） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで経済学を履修したことのない学生が経済学の基本的な考え方を習得することが目的である。本研究科で研究を行うにあたって必須となる基本用語や経済社会における実例を取り上げ、討議を交えながら理解を深める。

【到達目標】

経済学の基本概念を現実の経済社会の中で理解し、経済学の手法が問題解決や政策立案に役立っていることを理解する。そして、経済学の分析を用いた専門論文が読み解けるようになることが目標である。数学の素養は求めない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

(追加：4月20日) Google Classroom のクラスコードは **asxeatg** である。

(追加:4月16日) 授業開始日は4月22日です。当面はオンライン授業となります。学習支援システムに受講方法、講義資料を掲載します。当初の授業計画どおりに進めることを目指します。

(オリジナル) 経済学の入門テキストに基づいて講義を行う。受講生の理解を促すため、討議用の教材を配布しながら質疑応答と意見交換を行う。また、復習テストを行い、理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学の枠組みと問題意識	GDP、物価、失業等から経済循環を把握する。需要と供給による市場の均衡を理解する。
2	消費者行動	需要曲線、選好、効用の最大化、消費者余剰、将来と現在の選択、期待形成などを学ぶ。
3	企業行動	供給曲線、利潤の最大化、生産関数、限界費用、生産者余剰、余剰分析、労働需要などを学ぶ。
4	市場の均衡と市場の失敗	部分均衡と一般均衡、競争による資源配分の最適化、外部経済効果、規模の経済、公共財などを学ぶ。
5	情報の経済学とゲームの理論	情報の非対称性、モラルハザード、逆選択、シグナリング、囚人のディレンマなどを学ぶ。
6	マクロ経済分析	経済成長、成長会計、人口減少、資本蓄積、生産性向上、イノベーションなどを学ぶ。
7	活用事例の復習 レポート発表・討議	経済学の政策活用事例を学ぶ。各自レポートを発表し討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済に関する新聞記事、ニュースなどに接し、経済学の理論が問題解明や政策立案にどのように貢献しているのか読み取る習慣を身につけることを勧めます。とくに、チケットのダイナミック・プライシング、交通渋滞に対処するピークロード・プライシングなどが実施されつつあり、経済学の応用が進んでいます。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学（第4版）』日本評論社

【参考書】

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社
 坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書
 塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日経文庫
 田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

(変更：4月16日) 講義の内容に関する復習クイズ6回（60%）、レポート（40%）の合計による。

(オリジナル) 講義の内容に関する復習テスト3回（60%）、レポート（40%）の合計による。

【学生の意見等からの気づき】

数学的手法は必要最小限とし、経済学の基礎的概念がどのように政策創造に活かされているのかを理解できるように講義内容を工夫する。

事例の紹介は理解に役立ち、復習テストは知識を身に付けるのに効果があつたとの意見があつたので継続します。他方、講義後半が駆け足になったこと、討議時間が不足したことについては、改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

(追加：4月16日) 学習支援システムにアクセスできるパソコンが必要。また **Zoom** が利用できる通信環境にあることが望ましい。
 (オリジナル) レポート作成・発表のために図表を各自作成してください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course of economics aiming to encourage students who have not studied economics at university to acquire basic principles of economics.

SOC500R1

社会学

黒田 英一

科目分類：導入科目（選択） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会現象や社会病理を分析し、政策を立案するうえで、必要不可欠な社会学の基礎概念を理解する。

あわせて、研究の進め方、その集大成としての論文をどうまとめあげるのかについても、基礎的なスキルを身につける。

本授業は、大学の学部で社会学概論、社会調査実習を履修されていない方を主な対象としている。

【到達目標】

社会学の基礎概念である、規範、制度、サンクション、逸脱、顕在的機能、潜在的機能、社会集団、社会階層などを理解する。

これら基礎概念を活用し、現代日本社会の家庭内暴力、経済格差、貧困のスパイラル、ネットワークの脆い絆、民族的差別、セクハラ、パワハラなどの諸課題を読み解く能力を身につける。

あわせて、論文を書くための、リサーチクエストの立て方、先行研究サーヴェイ、仮説構築、仮説検証のための質的・量的調査などの、ロジカルシンキングの考え方も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、前半と後半に分かれる。

前半の授業では社会学でよく使われる基礎概念をとりあげて解説する。

後半の授業では、前半の授業で学んだ基礎概念をふまえて、各種論文を読み解いたり、数学モデルについてあわせて解説する。また時間に余裕があれば、社会現象や社会病理、社会問題などの課題をグループごとに分析し、グループ発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義 1	ガイダンス、講義「社会学のバースペクティブ」	授業内容、授業の進め方について概略を案内する。そして、社会学のものの見方、バースペクティブについて解説する。あわせて、他の学問（「経済学」など）のものの見方と比較することで、社会学の特徴を紹介する。
講義 2	講義「研究の進め方と論文の書き方」	学術論文を執筆する際のロジカルシンキングをもとに、リサーチクエスト、先行研究、仮説設定、仮説検証などについて解説する。
講義 3	講義「社会と文化・規範」と「経済学による犯罪モデルとの比較」	社会学の基礎概念（文化・規範、逸脱、サンクション）について解説する。また、ネット上のイジメ、ヤクザ集団、性的マイノリティなどについて、解説する。その後、経済学のアプローチによる犯罪モデルと比較する。
講義 4	講義「社会とジェンダー」と「ゲーム理論による男女不平等分析」	社会学の基礎概念（男性優位文化、男らしさ・女らしさ）を解説する。また、職業・仕事上の性別役割分業、感情の商品化とジェンダーなどについて、説明する。その後、経済学ゲーム理論を使った男女の働き方の不平等などについてもあわせて説明する。
講義 5	講義「社会と社会階層」と「社会的機会不平等モデル」	社会学の基礎概念（社会階層、社会移動）を解説する。また、日本の経済格差、学歴・学校歴格差、教育と所得格差などについて、解説する。その後、数理社会学のモデルである、ブードンの社会的機会不平等モデル（ISO）について説明する。
講義 6	講義「社会とエスニシティ」と「社会的距離尺度による偏見測定」 講義「小論文の書き方」	社会学の基礎概念（民族的少数派、偏見差別）を解説する。また、日本社会を対象に移民・難民、エスニシティの街などについて、解説する。その後、社会的距離尺度（SDS）について説明する。あわせて、小論文を書く際の注意すべき点を解説する。

講義 7 講義「社会と宗教」と「社会学のまとめ」

社会学の基礎概念（世俗内禁欲、ゼクト、カルト、カリスマ、アニミズム）を解説する。また、経済倫理と宗教、宗教と政治行動、他宗教・他民族への偏見などについて、紹介する。最後に、社会学のまとめとして、今後の社会学の展望を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかでも参考書をいくつか紹介するので、これらの参考書のなかから数冊選び、授業準備や復習のために読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はこれといって使用しない。授業ごとに資料を配布する予定。

【参考書】

教科書のかわりに、次の参考書のなかから数冊を選び、読んでおくこと。
宇都宮京子編『よくわかる社会学第 2 版』ミネルヴァ書房、2009 年
富永健一『社会学講義一人と社会の学』中公新書、1995 年
アンソニー・ギデンズ、松尾精文他訳『社会学第 5 版』而立書房、2009 年
また、あわせて次の参考書もできるだけ数冊読むことを推奨する。
エミール・デュルケム、井伊玄太郎訳『社会分業論（上）（下）』講談社学術文庫、1989 年
マックス・ヴェーバー、大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波書店、1988 年
ルース・ベネディクト、長谷川松治訳『菊と刀ー日本文化の型』講談社学術文庫、2005 年
大澤真幸『社会学史』講談社現代新書、2019 年
社会学はいかなる特徴を持つ学問かを理解し、分析手法を深く身に着けたい場合には、次の参考書を読まれることを推奨する。
金子勇『叢書現代社会学 1 社会分析』ミネルヴァ書房、2009 年
中級レベルの社会学として数理社会学によるモデルや数式を使用した社会学の紹介は、次の参考書が詳しい。
数理社会学会監修『社会をくモデル>でみるー数理社会学への招待』勁草書房、2004 年
数理社会学会監修『社会の見方、測り方ー計量社会学への招待』勁草書房、2006 年
数理社会学会監修『計量社会学入門ー社会をデータでよむ』世界思想社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（6 割）と、発表・討論の参加や学習状況（4 割）で評価する。

また、本授業の履修後、さらに社会的理解を深めるために「調査法」「調査・データ分析の基礎」「フィールドワーク論」「観光社会学」、導入科目「経済学」等の履修を推奨する。

【学生の意見等からの気づき】

以前の授業アンケート調査では、抽象的な社会学概念の理解がなかなかむずかしかったとの声があったので、今年度は社会学の基礎概念を丁寧にわかりやすく解説する。また、数学モデルについても理解しにくとの声があったので、高校レベルの基礎的な数学モデルをつかい、高校数学の復習もあわせて行い、わかりやすく紹介する予定である。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業後に設ける。また、不明の点、学習の進め方などわからない点は、メールで自由に問い合わせること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of sociology and the fundamentals of academic research to students taking this course. It also enhances the development of students' skill in academic writing.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- (1) recognize major terms and basic concepts in sociology,
 - (2) evaluate major studies in terms of their methods, conclusions, and implications,
 - (3) apply theories or findings to the social phenomena.
- This course will be divided in 7 chapters as follows:
- (1) Sociological Perspective: Seeing the General in the Particular
 - (2) Academic Research and Academic Writing
 - (3) Culture, Socialization and Deviance
 - (4) Gender and Inequality
 - (5) Class and Social Stratification
 - (6) Race and Ethnicity
 - (7) Religion and Social Change

BSP500R1

レポートライティング

菅野 雅子

科目分類：導入科目（選択） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、論文作成に必要な①事前準備の諸要素 ②論文の骨格・構成 ③細部のチェックポイント についての理解を深めることを目的としている。

【到達目標】

学術論文の形式に関する知識をもとに、自ら設定したテーマに関する論文を書く力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回とも講義と小レポートの併用により進める。講義については論文執筆に必要な知識を主に扱い、小レポートにより実際に活用することを励行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の進め方及び参考書の紹介 ・研究対象と問題意識を整理してみよう
2	論文の基礎事項	・論文の構成 ・先行研究の収集と整理 ・ロジカルシンキング ・クリティカルリーディングを身につけよう
3	序論の記述	・論文における序論の役割 ・問題提起と背景の説明 ・先行研究の記述 ・リサーチクエスションを考えてみよう
4	本論の記述	・序論から本論へ ・本論の役割 ・様々な研究手法 ・調査結果の記述方法
5	結論の記述	・結論の役割 ・結果と結論の違い ・研究の限界と課題について
6	レポートの文章	・論理展開 ・パラグラフ構成 ・読みやすい文章とは
7	まとめ	・全体の振り返り ・授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

小レポート及び最終レポートを作成し提出する。

【テキスト（教科書）】

授業時に毎回配布する。

【参考書】

吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第2版）』ナカニシヤ出版 2017 年

木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 1994 年

ダン・レメニイほか著・小樽商科大学ビジネス創造センター訳『社会科学系大学院生のための研究の進め方 修士・博士論文を書く前に』同文館出版 2003 年

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

①平常点（授業への参加、グループ活動、小レポート）50 %

②最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

新規科目／担当につき該当なし

【学生が準備すべき機器他】

受講者に常時の PC 機器の使用を求めることはないが、授業メモのために PC を使うことは構わない。

【その他の重要事項】

小レポート及び最終レポートは手書きでなくマイクロソフトワード（互換ソフト含む）により作成し、メールによる提出を求める。

オフィスアワーは授業後に設ける。

【Outline and objectives】

This class is intended to understand elements of the preinclination necessary for article making, the constitution of the article and a checkpoint for the article completion.

SOS500R1

英語論文文献講読

梅溪 健児

科目分類：導入科目（選択） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語文献収集や先行研究把握に必要な英文読解力を習得することが目的である。

【到達目標】

英字新聞・英語論文等から、筆者の問題設定と結論を効率的に把握するための慣れを身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各講義の前半は英字新聞または英語評論、後半に専門論文または海外公的機関が発行した報告書を読解する。経済社会雇用分野の教材が中心になる。毎回教材の読解ポイントを整理したチェックシートを配布するので、受講生はそれに即して短時間で教材内容を把握するトレーニングを積み重ねる。英単語や分析手法の細部にはこだわらず、読解力をつけることを優先する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：英語文献を読む	英語のレベルチェックを行い、各回の進め方と受講生が行うべき準備を共有する。英字新聞と専門論文の構成を理解する。
2	専門論文を読む（1）	前半に英字新聞（Financial Times の予定）または評論を読み（以下同じ）、後半はアンケート調査（テーマパーク）による論文を速読する。
3	専門論文を読む（2）	事例研究（日本の首長）に基づく査読論文を速読する。
4	専門論文を読む（3）	日本の雇用の二極化に関する歴史分析査読論文（英語ネイティブ執筆）を速読する。
5	専門論文を読む（4）	日本の家族政策（育休、保育）に関する経済分析査読論文を速読する。
6	公的機関の報告書を読む	公的機関（米国大統領経済諮問委員会 の予定）の報告書を速読する。
7	復習テスト レポート発表	これまでの理解度をテストにより確認する。受講生が選択する論文をもとにレポートを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究に関係する英語論文、国際機関のレポート、関心分野の英語記事（新聞・雑誌等）を検索し、目を通す習慣を身につける。各自の修士論文の参考文献となるものを見つける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回取り上げる論文を事前に配布する。

【参考書】

中村澄子（2013）『1 日 1 分！ やさしく読めるフィナンシャルタイムズ&エコノミスト』祥伝社黄金文庫

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの理解度チェック（第 2～6 回）（50%）、復習試験（20%）、レポート（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

英文の情報処理能力を高め、論文の概要と重要ポイントを迅速に把握する力を養成することを引き続き目指す。意見を踏まえ、予習に役立つようにチェックシートは事前に配布する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（書籍、電子機器どちらでも可）。

【その他の重要事項】

レポートは、各自が英語論文を事前に選択し、本研究科の論文スタイル（修士中間発表会様式を参照）に即して発表する。

【Outline and objectives】

This course aims to enhance the English proficiency to find references and grasp existing literature in an efficient manner. In class students are encouraged to fast read papers that are selected in principle from quality journals with referees.

OTR600R1

プログラム演習

梅溪 健児

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第 1 段階として、修士論文作成のための基礎的な事項（論文の書き方、データの扱い、分析手法など）をマスターする。

第 2 段階として、各自の修士論文作成のための参考文献の読み込み、データの収集と分析などを行う。

そして第 3 段階として、最終的な修士論文の完成を目指す。

【到達目標】

修士論文の完成が目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ方式で、各自が研究テーマに沿って順次発表し、全員で議論を繰り返すことにより、各自がより広い視野から分析を深める。エクセルによるクロスセクション・データの分析、量的分析事例を内容とする書籍の輪読についてもゼミで行う。

授業計画に記した内容は、ゼミで取り上げる代表的な事項を整理したものであり、必ずしもこの順でゼミが進むわけではない。また、在籍年次によっても進度は異なる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	今後の進め方、年間スケジュールを確認し、各自の研究関心事項を共有する。各自が 1 年間の目標を立て、その達成に向けた研究計画を発表する。
2	年間予定	各自の研究テーマを発表し、議論する。M2 はデータ収集の状況を報告する。論文における先行研究の役割、論文検索を学ぶ。
3	各自の研究テーマについて	研究科修士生の修士論文を参考にしながら、主として量的な分析手法を学ぶ。分析結果からまとめへの展開を学ぶ。執筆作法、論文構成、論理展開などの全体像を学ぶ。
4	先行研究	研究科修士生の修士論文を輪読し、目指すべきゴールを理解する。
5	データと分析手法	クロスセクション・データに即して、エクセルの基本を学ぶ。
6	結論と政策提言	統計入門として、データ分布、可視化、仮説検定を学ぶ。
7	論文執筆	回帰分析の考え方と手法を学ぶ。M2 は中間発表会に向けた準備を報告する。重回帰分析を学ぶ。
8	修士論文の輪読	量的分析を復習する。
9	量的データ実習：その 1	年前半の学修、M2 中間発表会などを踏まえて、研究状況の点検を行う。
10	同上：その 2	
11	同上：その 3	
12	同上：その 4	
13	同上：その 5	
14	期末報告	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに即した準備について個別に相談する。データの読み方、因果関係の推論は注意深く考える習慣を身につける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各自の研究テーマや輪読に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の討論への参加 50 %、研究計画の達成度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

論文作法や経済学的分析のポイントについては講師が説明する。夏休みを有効に活用する。

【学生が準備すべき機器他】

データ収集と分析に必要な計量分析ソフト。

【その他の重要事項】

【Outline and objectives】

The first step of this course focuses on acquiring the basic skills of writing a master's paper such as paper drafting, data collection and estimating methods.

The second step encourages to read relevant papers and analyze collected data.

The third step seeks for the completion of a master's paper.

OTR600R1

プログラム演習

梅溪 健児

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1段階として、修士論文作成のための基礎的な事項（論文の書き方、データの扱い、分析手法など）をマスターする。

第2段階として、各自の修士論文作成のための参考文献の読み込み、データの収集と分析などを行う。

そして第3段階として、最終的な修士論文の完成を目指す。

【到達目標】

修士論文の完成が目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ方式で、各自が研究テーマに沿って順次発表し、全員で議論を繰り返すことにより、各自がより広い視野から分析を深める。エクセルによる個票データの分析、量的分析事例を内容とする書籍の輪読についてもゼミで行う。分析手法に関して外部講師の招へいも可能である。

授業計画に記した内容は、ゼミで取り上げる代表的な事項を整理したものであり、必ずしもこの順でゼミが進むわけではない。また、在籍年次によっても進度は異なる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究計画の見直し	各自の進捗状況に応じて、年後半の研究計画を発表する。M2はデータ収集と分析の進捗を点検し、論文執筆計画を報告する。
2	各自の研究テーマ	研究の進展を踏まえて、年後半に各自が重点を置くべき課題を整理する。
3	査読論文の輪読：その1	アンケート調査を用いた査読論文の輪読を行う。
4	同上：その2	数量データを用いた査読論文の輪読を行う。
5	分析手法実習：その1	個票データに慣れ、さまざまな分析手法を学ぶ。
6	同上：その2	個票データを用いて重回帰分析を行い、仮説検定を学ぶ。
7	中間レビュー	研究計画に即して、進捗状況を確認する。M1は中間発表会に向けた取組み、M2は論文執筆状況を報告する。
8	研究発表：その1	M2の分析報告と討議に重点を置く。
9	同上：その2	M1の先行研究報告とリサーチ・クエスション設定に重点を置く。
10	同上：その3	M2の結論導出に重点を置く。
11	同上：その4	M1の中間発表準備に重点を置く。
12	同上：その5	M2の論文執筆全般を確認する。
13	同上：その6	各自の研究に関して直面する問題点を共有し克服する。
14	総括	M1は中間発表会で学んだことを整理し、年間研究計画の達成度合いを点検する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに即した準備について個別に相談する。データの読み方、因果関係の推論は注意深く考える習慣を身につける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各自の研究テーマや輪読に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の討論への参加 50 %、研究計画の達成度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

論文作法や経済学的分析のポイントについては、講師が説明する。春休みを有効に活用する。

【学生が準備すべき機器他】

データ収集と分析に必要な計量分析ソフト。

【その他の重要事項】

【Outline and objectives】

The first step of this course focuses on acquiring the basic skills of writing a master's paper such as paper drafting, data collection and estimating methods.

The second step encourages to read relevant papers and analyze collected data.

The third step seeks for the completion of a master's paper.

OTR600R1

プログラム演習

石山 恒貴

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究のできるようにする。そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。現状に鑑み、当面、オンライン（zoom）で行います。

【到達目標】

雇用だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業が可能になるまで、zoom でリアルタイムのオンライン授業を行います。PC またはスマホでの ZOOM 参加をお願いします。

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。現状に鑑み、当面、オンライン（zoom）で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3	研究テーマの調査方法（その1）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その1）
4	研究テーマの調査方法（その2）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その2）
5	研究テーマの調査方法（その3）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その3）
6	調査結果の分析方法（その1）	調査結果の分析手法の検討（その1）
7	調査結果の分析方法（その2）	調査結果の分析手法の検討（その2）
8	調査結果の分析方法（その3）	調査結果の分析手法の検討（その3）
9	調査結果から考察する方法（その1）	調査結果から考察する手法の検討（その1）
10	調査結果から考察する方法（その2）	調査結果から考察する手法の検討（その2）
11	調査結果から考察する方法（その3）	調査結果から考察する手法の検討（その3）
12	提言の検証方法（その1）	提言を検証する方法の検討（その1）
13	提言の検証方法（その2）	提言を検証する方法の検討（その2）
14	知識創造の意味の再確認	知識創造についての検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

- 自身の調査研究テーマの推進
- ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
- 各人に与えられた課題の処理
- 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

zoom でリアルタイムのオンライン授業を行います。

PC またはスマホでの ZOOM 参加をお願いします。

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

OTR600R1

プログラム演習

石山 恒貴

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。現状に鑑み、当面、オンライン（zoom）で行います。

【到達目標】

雇用だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。現状に鑑み、当面、オンライン（zoom）で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3	研究テーマの調査方法（その1）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その1）
4	研究テーマの調査方法（その2）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その2）
5	研究テーマの調査方法（その3）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その3）
6	調査結果の分析方法（その1）	調査結果の分析手法の検討（その1）
7	調査結果の分析方法（その2）	調査結果の分析手法の検討（その2）
8	調査結果の分析方法（その3）	調査結果の分析手法の検討（その3）
9	調査結果から考察する方法（その1）	調査結果から考察する手法の検討（その1）
10	調査結果から考察する方法（その2）	調査結果から考察する手法の検討（その2）
11	調査結果から考察する方法（その3）	調査結果から考察をする手法の検討（その3）
12	提言の検証方法（その1）	提言を検証する方法の検討（その1）
13	提言の検証方法（その2）	提言を検証する方法の検討（その2）
14	知識創造の意味の再確認	知識創造についての検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

1. 自身の調査研究テーマの推進
2. ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
3. 各人に与えられた課題の処理
4. 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

OTR600R1

プログラム演習

高尾 真紀子

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

【到達目標】

修士論文の作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、現場視察、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて調整する
第 2～3 回	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
第 4 回	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
第 5～6 回	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関連する先行研究の発表と討議を行う。
第 7 回	リサーチクエスションの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスションを設定する
第 8～9 回	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
第 10 回	質的調査の方法	質的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する。
第 11 回	量的調査の方法	量的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する
第 12 回	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。各自の研究計画について発表し、討議する。
第 13～4 回	研究発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017 年、中公新書
 伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』2011 年、東京大学出版会
 上野千鶴子『情報生産者になる』2018 年、ちくま新書
 岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTA によるキャリア研究』2017 年、見洋書房
 佐藤郁哉『社会調査の考え方 (上下)』2015 年、東京大学出版会
 その他についてはその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加による。

【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようにディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC を接続して画面をスクリーンに表示できる設備を使用。受講生がネットに接続して情報検索できる環境。

【その他の重要事項】

※講義概要は変更が起こりうる場合があります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

高尾 真紀子

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】

修士論文の作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、現場視察、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	質的調査の方法	半構造化インタビュー、参与観察など質的調査の方法を学ぶ。
第 2～3 回	フィールドワーク	フィールドワークにより質的調査の方法を実践的に習得する。
第 4～5 回	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
第 6 回	フィールドワークの発表	フィールドワークの研究結果を発表する。
第 7 回	量的調査の方法	質問票の作り方等、量的調査の方法を学ぶ。
第 8～9 回	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
第 10～11 回	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
第 12 回	論文作成の方法	論文作成の方法について学ぶ。
第 13～4 回	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017 年、中公新書
伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』2011 年、東京大学出版会
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTA によるキャリア研究』2017 年、晃洋書房

【成績評価の方法と基準】

演習への参加による。

【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、P C を接続して画面をスクリーンに表示できる設備を使用。受講生がネットに接続して情報検索できる環境。

【その他の重要事項】

※講義概要は変更が起りうる場合があります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

増淵 敏之

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士 1 年次の学生には専門性の高い教育に慣れってもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。

【到達目標】

学生が 2 年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献購読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-2	ガイダンス	授業の進め方について説明を行う。
3-4	研究計画書の発表	研究計画の発表
5-6	研究計画書の発表	研究計画の発表
7-8	文献購読	文献購読による発表、議論
9-10	文献購読	文献購読による発表、議論
11-12	研究発表	研究発表
13-14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたい。

【テキスト（教科書）】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎週金曜日 16 - 18 時

【Outline and objectives】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

OTR600R1

プログラム演習

増淵 敏之

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士 1 年次の学生には専門性の高い教育に慣れってもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。

修士 2 年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標にする。

【到達目標】

修士 1 年次の学生は 2 年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

修士 2 年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献購読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士 2 年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明を行う。
2	研究計画書の発表	研究計画の発表
3	研究計画書の発表	研究計画の発表
4	論文の書き方	論文執筆の手順と方法
5	形式要件及び参考文献	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法
6	研究発表	研究発表
7	研究発表	研究発表
8	文献購読	文献購読
9	文献購読	文献購読
10	研究発表	研究発表
11	研究発表	研究発表
12	研究発表	研究発表
13	ゲスト講師による授業	ゲスト講師による授業
14	まとめ	本年度の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に留意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業後に設ける。

【Outline and objectives】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600R1

プログラム演習

上山 肇

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成に向けた演習

【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
11	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けた準備。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や討論を含めた演習への参加状況に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline and objectives】

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

OTR600R1

プログラム演習

上山 肇

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成に向けた演習

【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
11	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けた準備。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や討論を含めた演習への参加状況に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline and objectives】

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

OTR600R1

プログラム演習

須藤 廣

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。地域における産業、地域福祉・介護、コミュニティ等についての包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光である。

【到達目標】

論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義、受講者の研究発表・プレゼン、ディスカッションなどにより進める。また、個人の進度に応じた個別指導を行う。初回授業は4月25日である。zoomを用い遠隔授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
2 回目	論文作成に向けた演習	個人発表とディスカッション、研究スキルの学習
3 回目	観光社会学についての書籍・論文の輪読①	それぞれが発表
4 回目	観光社会学についての書籍・論文の輪読②	それぞれが発表
5 回目	観光社会学についての書籍・論文の輪読③	それぞれが発表
6 回目	各々の研究テーマ	各々の研究テーマについて発表する
7 回目	夏休みの研究の準備	各々が夏休み中にどのような調査研究を行うのかを検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

各自の研究テーマにそって指示する。

【成績評価の方法と基準】

観光学、観光社会学の視点と調査方法をどの程度身につけたのかを評価する。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン、タブレット等）を使用することがある。

【その他の重要事項】

ゼミへの積極的な参加を望む。

【Outline and objectives】

In this seminar, students master the knowledge and research skills for paper creation which deal with the tourism industries and culture.

OTR600R1

プログラム演習

須藤 廣

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成のための知識と研究スキルを習得する。地域における産業、地域福祉・介護、コミュニティ等についての包括的な知識を学習する。このゼミナールのテーマは観光である。

【到達目標】

論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義、受講者の研究発表・プレゼン、ディスカッションなどにより進める。また、個人の進度に応じた個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
2 回目	論文作成に向けた演習	夏休み中の研究についての結果発表 受講生各々が研究発表を行う
3 回目	書籍・論文の輪読①	受講生の個人発表とディスカッション、研究スキルの学習
4 回目	書籍・論文の輪読②	書籍・論文の内容を受講生がまとめて発表
5 回目	修士論文構想	書籍・論文の内容を受講生がまとめて発表
6 回目	修士論文の進捗状況	修士論文の構想を受講生各々が発表
7 回目	修士論文内容発表	修士論文に向けた研究の進捗状況について各々が報告する。
		修士論文執筆者が修士論文の内容を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

各自の研究テーマにそって指示する。

【成績評価の方法と基準】

観光学、観光社会学の視点、その調査方法をどの程度身につけたのかを評価の基準とする。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン、タブレット等）を使用することがある。

【その他の重要事項】

ゼミへの積極的な参加を望む。

【Outline and objectives】

In this seminar, students master the knowledge and research skills for paper creation which deal with the tourism industries and culture.

OTR600R1

プログラム演習

真壁 昭夫

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

【到達目標】

- ①論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究計画書の作成方法	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究計画書の発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	先行研究レビューの方法	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	定性的調査の方法	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを目指す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

【参考書】

各回の演習テーマごとに適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

【Outline and objectives】

The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

OTR600R1

プログラム演習

真壁 昭夫

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

【到達目標】

- ①論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究計画書の作成方法	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究計画書の発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	先行研究レビューの方法	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	定性的調査の方法	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを目指す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

【参考書】

各回の演習テーマごとに適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

【Outline and objectives】

The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

OTR600R1

プログラム演習

井上 善海

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行います。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得していただきます。

【到達目標】

- ①論文作成のための基礎的な知識を習得できている。
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得できている。
- ③調査分析結果の考察方法を習得できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等をしていただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各回の演習テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目/担当につき該当なし

【Outline and objectives】

We will conduct research guidance for preparing master thesis and policy research papers in a seminar (seminar) format. Students should acquire knowledge and research skills for preparing papers such as preparation of research plan, selection of research theme, review of prior research, survey analytical method (qualitative / quantitative), examination of survey results.

OTR600R1

プログラム演習

井上 善海

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文・政策研究論文の完成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行います。各自の論文執筆状況を報告してもらい、それを皆で討議することで、論文の完成度を高めていきます。

【到達目標】

- ①研究の方法論を理解したうえで、論文を完成させている。
- ②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を踏まえたうえで論文を完成させている。
- ③調査分析結果を考察した論文を完成させている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が論文執筆状況を順次報告し、全員で議論することで研究内容を充実させていきます。また、論文執筆のための個別指導を授業以外でも随時行っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2	論文執筆状況の報告と討議①	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
3	論文執筆状況の報告と討議②	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
4	論文執筆状況の報告と討議③	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
5	論文執筆状況の報告と討議④	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
6	論文執筆状況の報告と討議⑤	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
7	論文執筆状況の中間報告	各自の論文執筆状況の中間報告を行う。
8	論文の見直し、修正①	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
9	論文の見直し、修正②	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
10	論文の見直し、修正③	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
11	完成論文の最終チェック①	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
12	完成論文の最終チェック②	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
13	完成論文の最終チェック③	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
14	まとめ	論文提出の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目/担当につき該当なし

【Outline and objectives】

We will conduct research guidance to complete master's thesis / policy research paper in a seminar (seminar) form. We will report the status of writing their own papers and discuss them with everyone to improve the completeness of the thesis.

OTR600R1

プログラム演習

小方 信幸

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の完成を目的とし、そのための指導を演習（ゼミ）形式で行う。ゼミは学生による発表を中心に行い、全員が意見を述べ討論することを基本とする。具体的には、文献調査の方法、論文の引用・研究倫理、先行研究レビュー、分析の対象、データ、方法（定性分析・定量分析）など論文作成の方法論を学ぶ。また、学生は定期的に自らの研究成果を発表することが求められる。

【到達目標】

- (1) 研究の方法論を理解することができる。
- (2) 修士論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回プログラム演習は4月25日（土）4・5時限に行う。当演習はZoomを使用したオンラインで行う。「学習支援システム」には授業資料に加え、オンライン演習への参加方法を掲載する。「学習支援システム」の事前確認を励行して頂きたい。

授業内容は、学生による発表を中心としたゼミ形式で行う。発表者に対し全員が意見を述べ討論を行うことを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文を書くことの意義
2	論文の書き方 個人研究発表	(1) 研究の進め方 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
3	論文の書き方 個人研究発表	(1) 論文の構成 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
4	論文の書き方 個人研究発表	(1) 論文の引用、研究倫理 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
5	論文の書き方 個人研究発表	(1) 先行研究レビュー (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
6	論文の書き方 個人研究発表	(1) 分析対象、データ、方法 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
7	論文の書き方 個人研究発表	(1) 定性的方法論 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
8	論文の書き方 個人研究発表	(1) 定量的方法論 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
9	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
10	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
11	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
12	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
13	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況
14	文献講読 個人研究発表	(1) 学生の研究テーマに沿った論文 (2) 研究計画、修士論文の進捗状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 配布資料、指定する文献、論文等を事前に読み、ゼミで発言ができるよう準備する。
- (2) ゼミを振り返り論点を整理する。
- (3) 常に自分の研究テーマに沿った文献、論文を読む時間を確保してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業貢献 50%、個人研究発表 50%、

【学生の意見等からの気づき】

学期初めからゼミで研究法を学んだことにより、学術論文に対する理解が深まったとの意見があった。今年度も学期初めから研究方法について学ぶ。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。その際は、授業計画を変更することがある。授業外での合宿、企業訪問などを検討する。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students complete master thesis. Students are required to understand the method of the literature survey, citation, research ethics, previous research reviewing, method of both qualitative of quantitative analysis. Students are also required to make presentations on their research results. Students are also required to make presentations on their research results, regularly.

OTR600R1

プログラム演習

小方 信幸

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の完成を目的とし、そのための指導を演習（ゼミ）形式で行う。ゼミは学生による発表を中心に行い、全員が意見を述べ討論することを基本とする。具体的には、文献調査の方法、論文の引用・研究倫理、先行研究レビュー、分析の対象、データ、方法（定性分析・定量分析）など論文作成の方法論を学ぶ。また、学生は定期的に自らの研究成果を発表することが求められる。

【到達目標】

- （１）研究の方法論を理解することができる。
- （２）修士論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の発表を中心にゼミを行う。発表者に対し全員が意見を述べ討論を行うことを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	（１）教員による授業の進め方（２）研究計画、修士論文の進捗状況
2	個人研究発表	修士論文の進捗状況
3	個人研究発表	修士論文の進捗状況
4	個人研究発表	修士論文の進捗状況
5	個人研究発表	修士論文の進捗状況
6	個人研究発表	修士論文の進捗状況
7	個人研究発表	修士論文の進捗状況
8	個人研究発表	修士論文の進捗状況
9	個人研究発表	修士論文の進捗状況
10	個人研究発表	修士論文の進捗状況
11	個人研究発表	修士論文の進捗状況
12	個人研究発表	修士論文の進捗状況
13	個人研究発表	修士論文の進捗状況
14	個人研究発表	修士論文の進捗状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- （１）配布資料、指定文献・論文等を事前に読み、ゼミで発言できるよう準備する。
- （２）ゼミを振り返り、論点を整理する。
- （３）常に自分の研究テーマに沿った文献、論文を読む時間を確保する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業貢献 50%、個人研究発表 50%

【学生の意見等からの気づき】

ゲストスピーカー招聘の希望があるので、ゼミ生の研究に参考となる専門性の高い方の招聘を検討する。

【その他の重要事項】

ゲスト・スピーカー招聘を検討する。その際は授業計画を変更することがある。合宿、横断ゼミなどを検討する。ゼミ合宿、企業訪問などを検討する。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students complete master thesis. Students are required to understand the method of the literature survey, citation, research ethics, previous research reviewing, method of both qualitative and quantitative analysis. Students are also required to make presentations on their research results. Students are also required to make presentations on their research results, regularly.

BSP580R1

研究法

石山 恒貴、増淵 敏之、真壁 昭夫、上山 肇、井上 善海、高尾 真紀子、梅溪 健児

科目分類：博士後期（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を執筆するために社会科学的研究及び政策研究の基礎について学習する。より円滑かつ的確に博士論文を執筆できるように博士論文の執筆過程をイメージしながら基礎的な事項を確認していく。

【到達目標】

・政策を研究する際或いは社会科学分野の研究を行う際に必要な知識、技術、勘所等について、基本的な水準に到達すること。
・各自の博士論文について、今後の作成計画や構想を具体的にイメージできるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

必要事項の講義、講義に基づく討論・グループ討論、課題についてのペーパーワーク等により進める。また、博士論文を執筆した先輩の経験談を聞く。オンライン授業を実施します。各回の受講方法は学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究のプロセスおよびリサーチデザイン（石山）	博士論文を書くうえで、自身の研究領域および存在論・認識論の観点で、どのようなリサーチデザイン、分析を行うべきかを考える。また、研究のプロセスのあり方について考える。
第 2 回	博士論文における文献サーベイ（増淵） 博士論文の構成（須藤）	博士論文には独創性が求められる。先行研究のサーベイを通じてのテーマ設定及び着眼点について議論していく。典型的な博士論文を読み、その構成について考える。
第 3 回	質的調査（事例調査）の方法（井上）	過去の博士論文を参照しながら、特に事例調査の実施にあたっての留意点や分析手法について講義し、各自の問題意識に沿って議論する
第 4 回	計量経済学的手法の活用（梅溪）	計量経済学的手法を用いた査読論文を教材とし、査読プロセスを踏まえた上で、データ・分析手法・結論の導出などの特徴について議論する。
第 5 回	「研究方法」「論文執筆」等に関する再確認（上山）	この時期だからこそ再度、研究の基本に立ち返る。「研究とは」「論文執筆の注意点」「査読論文」等について考える。
第 6 回	量的調査（質問紙調査）の方法（高尾）	過去の博士論文を参照しながら、特に質問紙調査の実施にあたっての留意点や分析手法について講義し、各自の問題意識に沿って議論する
第 7 回	実務経験と論文執筆の関係（真壁）	実務（金融市場におけるトレーディング、シンクタンクでのエコノミスト、企業経営への関与）などを通して得られた問題意識を、どのように研究に結びつけてきたかなど自身の経験などを紹介したい。また、受講者とのディスカッションなどを通して、個々人の問題意識を深掘りし、論文執筆に有益な機会とすることを目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 授業と並行して自分の博士論文の作成計画及び構想を練る。
2 論文作成法などの本を読む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。毎回ごとに参考文献を挙げる。

【参考書】

野村康『社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法』2017 年、名古屋大学出版会

自分の研究領域の優れたモノグラフが一番の参考文献となる。一般的には社会科学系の論文作成法の本は参考となる。研究法については、その都度、本や文献等を指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回のレポート、授業への貢献等の総合点を合計して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

博士号取得者の経験は役に立つとの声が多いため、講義にも取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンによる提出物作成は必須。

オンライン授業を実施しますので、Wifi 接続など通信環境の整備をお願いします。

【その他の重要事項】

一般的な研究法の知識等を概説するにとどまるので、実際の展開は各人が指導教員と相談しながら進めていただきたい。

授業後に質問等を受け付ける。

【Outline and objectives】

This course introduce the basics of social science research and policy research to write a doctoral thesis. Students are required to confirm fundamental skills while imagining the writing process of doctoral thesis.

SOS580R1

外国語文献講読

須藤 廣

科目分類：博士後期（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では英語論文の構成について学び、与えられた論文をそれぞれが読み理解し発表できるようにする。

【到達目標】

- (1) 英語論文の構成の仕方を理解する。
- (2) できる限り、英語でプレゼンテーションを行ったり、論文を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は与えられた英語論文を輪読し、担当者が内容を報告し発表をする。それぞれが、英語でプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	教員が授業の進め方、英語論文の読み方などについて解説する。
2 回目	英語論文輪読	学生による報告およびクラス全体での討論
3 回目	英語論文輪読	学生による報告およびクラス全体での討論
4 回目	英語論文輪読	学生による報告およびクラス全体での討論
5 回目	英語論文輪読	学生による報告およびクラス全体での討論
6 回目	英語によるプレゼンテーション	学生によるプレゼンテーション、およびクラス全体での討論
7 回目	全体のまとめ	学んだことの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者が用意する英語論文とレジュメを事前に読み、クラスで発言できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

報告者が用意する英語論文とレジュメを使用します。

【参考書】

都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

英語論文の内容理解度 50 %、授業貢献 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目につき該当事項はありません。ただし、学生の要望には柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The aims to this course is to understand the structure of English papers. Each students read English papers given previously and report the contents in class.

OTR580R1

合同ゼミ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、学生全員での議論の場を設けたい。とくに他領域での学生の発言が研究の奥行きと広がりにつながることを期待している。学会での発表に結び付けることを到達目標としたい。

【到達目標】

投稿論文の掲載を到達目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1 回につき 1 名の学生の発表とする。ひとりにつき発表時間は 40 分、議論 60 分とする。レジュメは当日、配布、書式は基本的に自由だが、P・P は使用しないことを基本とする。発表の順番、司会進行は学生が行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発表の順番決め、進行についての調整作業	ガイダンス、発表の順番決め、進行についての調整作業
2-5	発表、議論、講評	発表、議論、講評
6-7	ゲスト講師の講義	博士論文の執筆について
8	中間取り纏め	意見交換、進捗状況確認
9-12	発表、議論、講評	発表、議論、講評
13	ゲスト講師の講義	博士論文の執筆について
14	纏め	意見交換、進捗状況確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

都度学生と相談して進め方を決めていく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

学生の人数によって授業の実施方法を工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

自分の発表の回には配布用資料を用意のこと。

【Outline and objectives】

As doctoral students will increase their expertise, we want to set up a forum for discussion among all students. In particular, I hope that the remarks of the students in other areas will lead to the depth and spread of the research. I would like to make my goal to be connected with presentations at academic societies.

MAN710R1

雇用政策特殊研究Ⅱ

石山 恒貴

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

博士後期課程の中間の年度となることから、博士論文に着手できる条件をすべて整えるための内容を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士論文に着手できる条件を整えるために、特に査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を重視する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をおとして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-28	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

MAN720R1

雇用政策特殊研究Ⅲ

石山 恒貴

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

特に博士後期課程の集大成として、博士論文の完成に関連する内容を重点的に実施する。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

本授業は博士後期課程の集大成となることから、博士論文そのものの完成に該当するレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をととして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-28 回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

ARSI700R1

文化政策特殊研究Ⅰ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

1 年次はテーマ設定、修士論文の再検討から学会発表、投稿論文執筆へと進めていき、投稿、掲載に結びつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-28 回	研究に関しての個別指導	研究に関しての個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた文献及び関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【Outline and objectives】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSI710R1

文化政策特殊研究Ⅱ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

2 年次では学会発表、論文投稿をメインにするが、調査を積極的に行わなければならないので、フィールドワークの手法を会得することに力点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-28	研究についての個別指導	研究についての個別指導
20	同上	同上
21	同上	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた文献及び関連文献の購読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【Outline and objectives】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSI720R1

文化政策特殊研究Ⅲ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

2 年次では学会発表、論文投稿をメインにするが、調査を積極的に行わなければならないので、フィールドワークの手法を会得することに力点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-28	研究についての個別指導	研究についての個別指導
20	同上	同上
21	同上	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた文献及び関連文献の購読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【Outline and objectives】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

MAN710R1

産業政策特殊研究Ⅱ

真壁 昭夫

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。受講生の要望に応じて、行動経済、行動ファイナンス、マクロ・ミクロ経済学、金融工学、モダンポートフォリオセオリー、マーケティング、産業・経済政策などの観点から、どのように研究を進めるか、指導を行う。

【到達目標】

- ①博士論文作成のための基礎的な知識を習得する
- ②研究に必要な理論、先行研究レビューや調査分析手法を習得する
- ③調査分析結果の考察方法（定量・定性分析など）を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論すること、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。特に、博士課程で研究対象とする分野、テーマなどの確認を行う。
2	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
7	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
8	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
9	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文献研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
10	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14	まとめ	これまでのゼミでの議論、報告などを基に疑問点、必要な分析手法の確認などを行い、博士論文執筆に向けたサポートを行う。
15-28	学会発表、論文の執筆など	これまでの講義を基に、博士論文執筆に向けた学会発表、査読付き論文の執筆を進める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ収集、国内外の先行研究の把握など。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

個人発表、論文の執筆状況など総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline and objectives】

The seminar will be run in order to accomplish doctoral thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

MAN700R1

企業経営特殊研究Ⅰ

井上 善海

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次は、博士論文執筆に必要な知識・スキルの習得を目指します。具体的には、博士論文の全体構成を組み立て、先行研究レビューを行い、その限界と批判を示していただきます。また、修士論文をベースとした学会発表、投稿論文執筆に取り組んでいただきます。

【到達目標】

- ①博士論文執筆に必要な知識・スキルの習得できている。
- ②博士論文の全体構成を組み立て、先行研究レビューを行い、その限界と批判を示すことができている。
- ③修士論文をベースとした学会発表、論文投稿ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前半演習ガイダンス	前半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2	博士論文全体構成① 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
3	博士論文全体構成② 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自が関心を持つ研究内容に関する発表と討議を行う。
4	博士論文全体構成③ 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自が関心を持つ研究内容に関する発表と討議を行う。
5	博士論文全体構成④ 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自が関心を持つ研究内容に関する発表と討議を行う。
6	研究テーマの設定① 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7	研究テーマの設定② 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8	研究テーマの設定③ 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9	研究テーマの設定④ 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10	先行研究レビュー① 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
11	先行研究レビュー② 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
12	先行研究レビュー③ 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
13	先行研究レビュー④ 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
14	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15	後半演習ガイダンス	後半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
16	先行研究の限界と批判① 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
17	先行研究の限界と批判② 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。

18	先行研究の限界と批判③ 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
19	先行研究の限界と批判④ 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
20	学会研究報告準備① 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
21	学会研究報告準備② 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
22	学会研究報告準備③ 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
23	学会研究報告準備④ 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
24	投稿論文準備① 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
25	投稿論文準備② 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
26	投稿論文準備③ 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
27	投稿論文準備④ 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
28	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行い、2 年次への準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目/担当につき該当なし

【Outline and objectives】

The first year aims to acquire knowledge and skills necessary for writing a doctoral thesis. Specifically, we will assemble the overall composition of the doctoral dissertation, conduct a prior research review, and show its limitations and criticism. In addition, we will work on writing conference presentations based on master's thesis and writing submitted manuscripts.

MAN710R1

企業経営特殊研究Ⅱ

井上 善海

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年次は、博士論文執筆に本格的に取り組んでいただきます。具体的には、博士論文の仮説の設定、定量調査、定性調査、フィールドワークなどを行います。また、学会発表、投稿論文も積み重ねていきます。

【到達目標】

- ①博士論文の仮説設定、定量調査、定性調査、フィールドワークなどができている。
- ②複数の学会での発表、投稿論文ができている。
- ③博士論文の草稿ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前半演習ガイダンス	前半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2	仮説の設定① 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
3	仮説の設定② 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
4	仮説の設定③ 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
5	仮説の設定④ 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
6	定量調査① 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
7	定量調査② 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
8	定量調査③ 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
9	定量調査④ 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
10	定性調査① 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
11	定性調査② 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
12	定性調査③ 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
13	定性調査④ 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
14	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15	後半演習ガイダンス	後半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
16	フィールドワーク① 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
17	フィールドワーク② 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
18	フィールドワーク③ 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。

19	フィールドワーク④ 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
20	調査分析① 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
21	調査分析② 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
22	調査分析③ 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
23	調査分析④ 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
24	考察① 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
25	考察② 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
26	考察③ 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
27	考察④ 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
28	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行い、3 年次への準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目/担当につき該当なし

【Outline and objectives】

In the second year, you will be making full efforts to write the doctoral dissertation. Specifically, we set up hypotheses of doctor thesis, quantitative survey, qualitative survey, field work etc. We will also hold congress presentations and contributed papers.

MAN720R1

企業経営特殊研究Ⅲ

井上 善海

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次は、博士論文の完成を目指します。具体的には、博士論文の完成度を高めるため、学会発表、投稿論文を積み重ねていきます。

【到達目標】

- ①博士論文の全体構成のバランスがとれている。
- ②複数の学会での発表、論文投稿ができている。
- ③博士論文が完成している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前半演習ガイダンス	前半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2	博士論文執筆指導① 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
3	博士論文執筆指導② 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
4	博士論文執筆指導③ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
5	博士論文執筆指導④ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
6	博士論文執筆指導⑤ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
7	博士論文執筆指導⑥ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
8	博士論文執筆指導⑦ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
9	博士論文執筆指導⑧ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
10	博士論文執筆指導⑨ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
11	博士論文執筆指導⑩ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
12	博士論文執筆指導⑪ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
13	博士論文執筆指導⑫ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
14	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15	後半演習ガイダンス	後半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
16	博士論文完成度向上① 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
17	博士論文完成度向上② 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
18	博士論文完成度向上③ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。

19	博士論文完成度向上④ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
20	博士論文完成度向上⑤ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
21	博士論文完成度向上⑥ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
22	博士論文完成度向上⑦ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
23	博士論文完成度向上⑧ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
24	博士論文完成度向上⑨ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
25	博士論文完成度向上⑩ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
26	博士論文完成度向上⑪ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
27	博士論文完成度向上⑫ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
28	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】

各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（50%）、研究発表内容（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目/担当につき該当なし

【Outline and objectives】

The third year aims to complete the doctoral thesis. Specifically, in order to raise the degree of completion of the doctoral thesis, I will accumulate academic presentations and submitted papers.

MAN700R1

CSR 特殊研究 I

小方 信幸

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目の目的は博士論文執筆に必要な知識とスキルを身に付けることである。その知識とスキルは、研究方法に関する文献からの学びと、先行研究を批判的にレビューすることにより習得が可能となる。また、先行研究レビューを通じ、博士論文の全体構成（リサーチ・デザイン）を構築し、学会発表と投稿論文の準備を開始することが求められる。

【到達目標】

- （１）博論執筆に必要な知識とスキルを習得することができる。
- （２）先行研究を批判的にレビューすることができる。
- （３）リサーチ・デザインを構築することができる。
- （４）学会発表および学術誌への投稿の準備を開始することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心とする。また、博士課程在籍者との情報共有を行うよう指導する。さらに、修士課程在籍者の指導を通じて、自らの研究テーマの理解を深め、研究の質を高めることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究指導	（１）博士論文の全体像 （２）先行研究レビューの進め方
1 - 14	研究指導 個人研究発表	（１）博士論文の構成 （２）先行研究レビュー
15 - 28	研究指導 個人研究発表	（１）学会発表、投稿論文の準備 （２）先行研究レビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究に必要な資料を毎回配布する。

【参考書】

個人別に研究内容にあったものを都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標（１）から（４）を基準に進捗状況をみて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目/担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help doctoral students acquire the knowledge and skills necessary for writing a doctoral dissertation. Those knowledge and skills could be acquired by learning from the literature on research methods and critically reviewing previous research. Students are also required to establish the research design of the doctoral dissertation and start preparations for presentation at the conference and for submission papers to academic journals.

MAN710R1

CSR 特殊研究 II

小方 信幸

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では、学生が研究計画に沿って調査・分析を行い、学会発表と学術誌への投稿を行うことを目的とする。また、論文執筆と並行して先行研究の批判的なレビューも求められる。

【到達目標】

- （１）学会発表および学術誌への投稿ができる。
- （２）先行研究を批判的にレビューすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心とする。また、博士課程在籍者との情報共有を行うよう指導する。さらに、修士課程在籍者の指導を通じて、自らの研究テーマの理解を深め、研究の質を高めることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 - 14	個人発表および研究指導	（１）研究テーマの調査・分析 （２）学会発表の準備 （３）先行研究レビュー
15 - 28	個人発表および研究指導	（１）研究テーマの調査・分析 （２）学会発表および投稿論文の準備 （３）先行研究レビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究に必要な資料を毎回配布する。

【参考書】

個人別に研究内容にあったものを都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標（１）および（２）を基準に進捗状況をみて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目/担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help doctoral students to conduct surveys and analyzes according to the research plan, to make presentations at academic conferences and to submit papers to academic journals. Critical review of prior research is also required in parallel with writing the submission papers.

MAN720R1

CSR 特殊研究Ⅲ

小方 信幸

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目の目的は学生が博士論文を完成することである。

【到達目標】

- (1) 学術誌に査読付きで採用される論文を書くことができる。
- (2) 先行研究を批判的にレビューすることができる。
- (3) 博士論文を完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人指導を中心とする。また、博士課程在籍者との情報共有を行うよう指導する。さらに、修士課程在籍者の指導を通じて、自らの研究テーマの理解を深め、研究の質を高めることを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 - 14	個人発表および研究指導	(1) 博士論文の進捗状況 (2) 学会発表および投稿論文 (3) 先行研究レビュー
15 - 28	個人発表および研究指導	(1) 博士論文の進捗状況 (2) 先行研究レビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究に必要な資料を毎回配布する。

【参考書】

個人別に研究内容にあったものを都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標 (1) ～ (3) を基準に進捗状況をみて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目/担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help doctoral students submit their doctoral dissertation.

ARSI700R1

地域社会政策特殊研究Ⅰ

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（必修） | 単位：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、査読論文の作成を目指す。

【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、論文執筆のスキルを習得する。修士論文の再検討と査読論文の執筆を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
第 2 回以降	論文作成に向けた個別指導	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各自の研究テーマに合わせて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ECN590R1

経済政策特殊講義（日本経済論）

梅溪 健児

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、平成 30 年間の経済社会動向と政策論議を振り返り、今後の日本経済の行方を考えるうえで重要な論点を体系的に理解できるようにすることを目的とする。論点は、人口動向、雇用、格差、社会保障、生産性、金融などから選択する。

【到達目標】

現代日本経済の現状と直面する課題について歴史的な位置づけを把握し、政策課題について論理的に発言できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、平成の 30 年を 4 つに区分し、それぞれに最も特徴的な経済社会の論点に関して政府の報告書や識者の評論から議論を整理する。また、講義で配布する教材に関して受講生が評論を作成することにより、書く力の養成を支援すると同時に討議を行う。経済学の予備知識、数学的素養は問わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代日本経済における平成 30 年の位置付け	バブル経済から失われた 20 年に至った平成時代を概観し主要な論点を理解する。
2	第 1 期：バブル経済の崩壊と縮小均衡へ	バブルの発生と経済の高揚を理解し、それへの政策対応とバブル崩壊の影響を学ぶ。
3	第 2 期：長期停滞と経済社会の変化	三つの過剰に対処する中で長期停滞が進行した要因を考察し、顕在化した金融システムの危機について学ぶ。
4	第 3 期：成長に向けた経済改革：分配と成長	失われた 20 年と呼ばれる長期停滞はどのような状況だったのかを理解し、景気回復とデフレ脱却に向けた政策を学ぶ。
5	第 4 期：規制改革の進展と政権交代	雇用の流動化、リーマンショック、国民生活重視、災害の頻発などを背景に取り組みされた政策体系を学ぶ。
6	少子化と人口減少の日本経済	グローバル化の中で深刻化する労働力不足の現状を理解し、人口構造の変化に対応する政府支出の負担のあり方を考える。
7	レポート発表と討議	自作の図表を持参し、レポートの発表と討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞、ニュース報道などを通じて日本経済の動きに注意し、エビデンスと政策のポイントを整理しておくことが望ましい。さらに、自身で経済社会データを検索し、図表化することを心がけてほしい。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義用及び小エッセイ作成用の教材を配布する。

【参考書】

小峰隆夫・村田啓子（2016）『最新日本経済入門（第 5 版）』日本評論社

小峰隆夫（2019）『平成の経済』日本経済新聞出版社

鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子（2019）『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

小エッセイ（3 回）45 %、レポート作成と発表 55 %

【学生の意見等からの気づき】

経済社会のデータに接し、それを議論に活用する習慣を身につけ、各自の研究を深める踏み台となることを期待する。トピックは幅広くなるが、自身の研究テーマの歴史的展開を考察していけば今後役立つと思われる。

昨年度の講義材料は受講生の関心事に即していたとのことなので、授業計画に変更はない。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成・発表は、図表（パワポ等で自身が作成したもの）を持参すること。

【Outline and objectives】

This course aims to build historical perspective on important matters that have shaped development of Japan by reviewing Japanese economy and policy management for three decades since late 1980s. Topics will be chosen from empirical researches on population trend, employment, rising income differentials in households, social security, productivity, and monetary issues.

ECN590R1

経済政策特殊講義（実証分析入門）

梅溪 健児

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを素早く把握するための読解力を養成することが目的である。人口、雇用、社会保障、貧困などの分野から論文を選択するので、受講生は研究の視野を広げていただきたい。

【到達目標】

1. 実証研究論文の構成と作法を理解し、数式や数量分析が出てきても抵抗感なく論文を読みこなす実践力を身につけること、2. 計量経済学の手法による分析に慣れ、勘どころを理解すると同時に、分析結果から結論導出へのプロセスを体得すること（論文において自ら計量経済学の手法を用いることがなくても、先行研究の分析結果の読み方を習得すること）、3. より長期的には、各自が今後執筆する論文のイメージや調査分析の展望を形成すること、以上の3つが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

雑誌論文を事前に配布するので、受講生は目を通してから講義に臨む。授業においては、講師が用意するチェックシートの質問に受講生が答を記入し、論文ポイントの理解を確実にする。分析結果の読み方については、計量経済学の基礎的知識とあわせて講師が説明する。各講義の最後は、教材論文から受講生が学んだ内容を総括する。受講生が記入したシートは、次回講義において返却する。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに 人口移動と居住地選択	査読論文の意義を学ぶ。若年者の東京移動並びに外国人の居住地選択に関する研究を理解する。
2	出生率の低下	出生率の低下に関する最近の分析と約30年前の研究を比較し差異を理解する。
3	雇用の量的分析	非正社員から正社員への移行に関する分析と、仕事と介護の両立支援に関する研究を理解する。
4	医療に関する量的分析	医療費における医師の影響に関する分析と、患者の受診抑制に関する研究を理解する。
5	貧困の研究	失業と教育、子どもの貧困に関して都道府県データや個票データ（パネル）を用いた分析を理解する。
6	転勤・異動・定年に関する研究	転勤が従業員のパフォーマンスに与える効果分析、転勤や定年に伴う仕事満足度の研究を理解する。
7	復習テスト レポート発表と討議	講義の理解度を復習テストにより確認する。先行研究の整理に関する実践レポートを事前に作成し講義で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する論文を読んでから講義に出席するのが前提です。各自の研究分野に関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなく、教材を毎回配布する。

教材は、太田聰一氏、是川夕氏、中里透氏、玄田有史氏、武石恵美子氏、中川雅之氏、水落正明氏、小川一夫氏、鶴光太郎氏などの学術論文を予定している（昨年度の実例、今後の論文の公表状況に応じて追加変更がありえる）。

【参考書】

大湾秀雄（2017）『日本の人事を科学する』日本経済新聞出版社
中室牧子、津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社
森田果（2014）『実証分析入門』日本評論社
山口慎太郎（2019）『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%（毎回チェックシートの記入と提出）
復習テスト 30%
レポート 10%（査読論文の読解）

【学生の意見等からの気づき】

査読論文がいかに有益なものであるかを是非とも体得してもらえるように工夫する。毎回2本の論文を読解するのが難しいとの意見があるので、受講準備の効率化と講義の重点化を行う予定。なるだけ多くの論文に接してもらいたいとの気持ちは変わらない。

【学生が準備すべき機器他】

学術雑誌にアクセスし論文検索ができるパソコン。

【その他の重要事項】

教材で取り上げる論文には、アンケート集計を行っているものがあるが、回帰分析、個票分析、プロビット分析などの量的分析手法を用いる場合が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline and objectives】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical researches on demographic changes, employment, social securities and poverty issues.

MAN590R1

雇用政策特殊講義（雇用政策研究（マクロ））

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般（マクロ）について検討する。少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化のなかで、雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または、これらに興味のある人を念頭に、雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する。ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも、雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

zoom でリアルタイムのオンライン授業を行います。

雇用の歴史的背景、職業能力開発、キャリア形成支援、日本の雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義を進めたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。必要なコメントも最後に与える。なお、ゲストを招いての議論も検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	雇用の定義、論点および雇用の歴史	ーそもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前だと思っている雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探索。
2	日本型雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか？
3	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？さらに、労働市場の基本構造を考える
4	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となにが違うのか？環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。

1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しないが、以下に掲げる 5 冊から 1 冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）。このほか別途に挙げる主な参考書、授業でその都度、必要に応じて紹介する文献などを参照していただく。また、毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定。

1. ビーター・キャベリ（若山由美訳）、2001 年、『雇用の未来』、日本経済新聞社
2. 清家篤、2013 年、『雇用再生』NHK 出版
3. 石山恒貴、2018 年、『越境的学習のメカニズム』、福村出版
4. 山田久、2016 年、『失業なき雇用流動化』慶應義塾大学出版会
5. 玄田有史、2018 年、『30 代の働く地図』岩波書店

【参考書】

1. 石山恒貴、2015 年、『パラレルキャリアを始めよう』ダイヤモンド社
2. 菅山真次、2011 年、『「就社」社会の誕生』、名古屋大学出版会
3. 菅野和夫、2004 年、『新・雇用社会の法』、有斐閣
4. 労働経済白書
5. 『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、② 2500 字以上の長さの科目レポートの得点（65 点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する。ただし、これ以外に、必須の小レポートとして、書評レポートを課す。終了時に提出を求める科目レポートは、授業内容を自分なりに消化し、できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を示すことがある。

【学生が準備すべき機器他】

zoom でリアルタイムのオンライン授業を行います。

PC またはスマホでの ZOOM 参加をお願いします。

授業ではパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.

MAN590R1

雇用政策特殊講義（人的資源管理論）

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本の雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本の雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態を理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
第 2 回	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
第 3 回	日本の雇用と職務	変化しつつある日本の雇用の状況进行分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。
第 4 回	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。
第 5 回	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
第 6 回	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
第 7 回	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけでなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的に読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

石山恒貴 『組織内専門人材のキャリアと学習』 生産性労働情報センター 2013 年
上林憲雄・三輪卓己編著『ケーススタディ 優良・成長企業の人事戦略』税務経理協会
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版,2018 年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回あたり 5 点満点で計 35 点満点）、②受講者による事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にさせていただくべく、豊富な事例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなど PC を使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

MAN590R1

雇用政策特殊講義（人材育成論）

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ、日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
7	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】

労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016 年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018 年
石山恒貴『パラレルキャリアを始めよう』ダイヤモンド社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が分担する事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

MAN590R1

雇用政策特殊講義（地域雇用政策事例研究）

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJ ターンを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3	地域のサードプレイスと関係人口	地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その 3） 地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べる（その成果を授業中に発表していただく）
2. 地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

1. 松永桂子 『創造的地域社会』 新評論 2012 年
2. 伊藤実ほか 『地域における雇用創造』 雇用開発センター 2008 年
3. 玉沖仁美 『地域をプロデュースする仕事』 英治出版 2012 年
4. 石山恒貴 『パラレルキャリアを始めよう』 ダイアモンド社 2015 年
5. 石山恒貴編 『地域とゆるくつながろうーサードプレイスと関係人口の時代』 静岡新聞社 2019 年

【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65 点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.

ARSI590R1

地域社会政策特殊講義（少子高齢化と社会保障）**高尾 真紀子**

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を得る。

【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、課題解決の方法について討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。
第 2 回	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
第 3 回	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。
第 4 回	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
第 5 回	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
第 6 回	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいか、議論する。
第 7 回	アジアの高齢化と日本の役割／課題発表	アジア各国で急速に進む高齢化に着目し、日本の経験をどのように生かせるか、議論する。各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

○政府の白書等
内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」
○その他
エスピン＝アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』岩波新書
池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫
大竹文雄・平井啓(編著)『医療現場の行動経済学 すれちがう医者と患者』東洋経済新報社
大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
河野稠果『人口学への招待』中公新書
小峰隆夫『人口負荷社会』日経プレミアシリーズ
柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房
友原章典『移民の経済学』中公新書
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書
山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』中公新書

吉川洋『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

【Outline and objectives】

This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ARSI590R1

地域社会政策特殊講義（地域活性化システム論）**高尾 真紀子**

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師（内閣府をはじめとした関係省庁の政策担当者、民間専門家）が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカッションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム（RESAS）を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している（2016 年：地域の“つながり”、2017 年度：多様な人材の活躍、2018 年度：世界とつながる、2019 年度：人を育てる）。2020 年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。

参考までに、以下に 2019 年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義 受講生によるディスカッション 1	「地方創生の推進について」 内閣府地方創生推進室 参事官補佐 野村雅之氏
2	講義 受講生によるディスカッション 2	「地方創生と RESAS（地域経済分析システム）」株式会社価値総合研究所 パブリックコンサルティング第一事業 部部长 主席研究員 鴨志田武史氏
3	講義 受講生によるディスカッション 3	「農業の魅力化と人づくり」 イオンアグリ創造株式会社 代表取締役 役社長 福永庸明氏
4	講義 受講生によるディスカッション 4	「地域の食文化の継承」 大正大学表現学部 客員教授 写真 家・ジャーナリスト 森枝卓士氏
5	講義 受講生によるディスカッション 5	「『農福連携』と『ユニバーサル農業』」 明治大学客員教授 農業ジャーナリス ト 榊田みどり氏
6	講義 受講生によるディスカッション 6	「日本ワインと地域の力」 信州大学特任教授 フード＆ワイン ジャーナリスト 鹿取みゆき氏
7	講義 受講生による発表	「学校魅力化による地域づくり」 鳥根県教育魅力化特命官/一般社団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 共同代表 岩本悠氏

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

前野隆司編著『システム × デザイン思考で世界を変える』日経 BP 社
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点（1/3）、授業への貢献（1/3）、発表の内容（1/3）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が少なかったため、早い段階で各界で活躍する講師とディスカッションできる講義の魅力を伝えるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

P C を接続して画面をスクリーンに表示できる設備

D V D の動画番組をスクリーンに表示できる設備

【その他の重要事項】

※講義概要は講師の都合等により変更が起これる場合がある。

【Outline and objectives】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

ARSI590R1

地域社会政策特殊講義（生活政策論）

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、人々の生活に大きな影響を及ぼす諸政策を「生活政策」と位置づけ、社会政策等の生活に深く関係する諸政策について、その背景及び現状を把握し、課題解決の方法を議論する。

【到達目標】

社会政策等の生活に関する諸政策についての経済学的視点からのデータに基づく分析や議論を通じて、課題やメカニズムを理解し、政策立案・遂行等に必要視点を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生活に関する諸政策についてテーマごとに背景、現状、現状の課題について経済学的な観点から分析を行う。講義に加え、受講生によるディスカッションによって課題解決の方法を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業で取り扱う政策の範囲及び政策の背景となる経済社会情勢、生活政策が重要度を増している背景について議論する。
第 2 回	幸福度と格差	近年注目されている格差や幸福度の観点から、生活の質、格差、貧困等の社会の問題について議論する。
第 3 回	子育て支援・教育政策	少子化の現状と背景、経済社会への影響を把握するとともに、子育て支援策、教育政策について議論する。
第 4 回	社会保障・再分配	社会保障の考え方、日本の社会保障制度の特徴、特に年金制度について諸外国の制度と比較しつつ、議論する。
第 5 回	医療・介護	高齢社会において重要度を増している医療・介護の問題について、その背景及び制度、財政状況を検討し、技術及び地域コミュニティでの解決方法等について議論する。
第 6 回	男女共同参画	男女共同参画とワークライフバランス、男性・女性の働き方について、諸外国と比較しつつ議論する。
第 7 回	持続可能な社会 課題発表	経済と環境がトレードオフでなく、経済、社会、環境が統合的に向上する持続可能な社会に向けての政策について議論する。 各自が関心を持つテーマについて発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

「生活に関する政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し、発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

○政府の白書等
内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」「青少年白書」「男女共同参画白書」「経済財政白書」厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」OECD「幸福度白書」
○その他
エスピン＝アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』岩波新書
池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂『社会政策 福祉と労働の経済学』有斐閣
柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房
橘木俊詔『日本の経済格差』岩波新書
筒井淳也『仕事と家族』中公新書

中野円佳『「育休世代」のジレンマ 女性活用はなぜ失敗するのか?』光文社新書

中室牧子『学力』の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン

濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書

広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書

宮本太郎『生活保障 排除しない社会へ』岩波新書

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加度 (30 %)、各回の宿題 (20%)、最終レポート (50 %) を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のディスカッションの時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

P C を接続して画面をスクリーンに表示できる設備

【Outline and objectives】

This course deal with policies such as child care, education and welfare that affect our lives. Students learn the policies, their backgrounds and current situation, understand the mechanisms of current problems and discuss ways to solve problems.

ARSx590R1

都市政策特殊講義（地域社会論）

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

【到達目標】

地域社会を形成している諸要素（計画、ルール、コミュニティ、住民参加等）を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論（理論と方法）について話します。
2.	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における「混住地域」などをテーマに授業を進めます。事例研究 (1)
3.	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについて、「サステナブル・シティ」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (2)
4.	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から「地域社会とまちづくり」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (3)
5.	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究を行い、同時に「地方分権権」や「参加」、「ルール」等について考えます。事例研究 (4)
6.	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に「再開発」や「福祉のまちづくり」といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (5)
7.	土地と環境	論点幅広い「土地と環境」の中でも、特に「都市計画」や「景観」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (6)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、発言 20%、レポート 30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

【学生が準備すべき機器他】**【その他の重要事項】**

皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。また、受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces local community and community development to students taking this course.

ARSx590R1

都市政策特殊講義（都市空間論）

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】

都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	(1) 地域社会における都市空間 (2) 都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1) 「まちづくり」とは (2) 都市化と都市問題
2	(1) 都市空間の構成要素 (2) 都市空間を実現するための手段	(1) 建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2) 計画、ルール、事業 等
3	(1) 都市空間の形成プロセス (2) 都市空間の規制手法 1	(1) 市民参加と合意形成 等 (2) ゾーニングの歴史と理論
4	(1) 都市空間の規制手法 2 (2) 都市空間における景観	(1) ゾーニングと地区まちづくり (2) 景観コントロール
5	(1) 都市空間の開発手法 (2) 都市空間の再生	(1) 都市再開発の仕組み 等 (2) 中心市街地の活性化
6	(1) 都市空間の評価手法 (2) 事例研究 1（事業）	(1) 評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2) 土地区画整理事業、再開発事業、密集事業 等
7	(1) 事例研究 2（制度） (2) 事例研究 3（テーマ型）	(1) 地域地区、地区計画 等 (2) 水辺空間の再生（国内・海外事例） 等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料を読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、事例紹介が学生にとって有効であったため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】

受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces the condition for the urban space to be formed(components, plans, rules and processes, etc.) and the ability to form the urban space to students taking this course.

ARSx590R1

都市政策特殊講義（比較都市事例研究）

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の都市（地域、地区）を取り上げ、相互比較しながら都市の現状と都市が抱えるさまざまな課題等について考察します。

【到達目標】

都市分析の多角的な視点を獲得すると同時に、比較研究の基本を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回事例研究を行うとともに、学生による発表を行います。その後、特定テーマに関してディカッションを全員で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと講義	都市比較の要点
第 2 回	事例研究 1：事例紹介と作業（対象地域に関する資料収集）	事例紹介、質疑応答とディスカッション、対象地域に関する資料収集
第 3 回	事例研究 2：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品作成
第 4 回	中間発表	作成途中の作品について学生による中間発表、質疑応答、ディスカッション、作品作成
第 5 回	事例研究 3：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品作成
第 6 回	事例研究 4：事例紹介と作業（作品作成）	事例研究、質疑応答とディスカッション、作品作成
第 7 回	最終発表	学生による完成作品の発表、質疑応答、ディスカッション、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自発表に伴う準備と作品（あるいはレポート）の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%。授業への参加姿勢（発表・討議など）30%。作品・レポート等 20%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces the present condition and issues of cities by comparing cities (regions and districts).

ARSI590R1

文化政策特殊講義（都市文化論）

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】

都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では 1960 年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは 1980 年代以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテキスト分析型の都市論、そして 1990 年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンス/都市論の系譜	都市文化に関する基礎知識
3,4	近代においての都市形成/博覧会の果たした役割	都市形成とイベント
5,6	「考現学入門」解説/カフェ論	フィールドワークの事例紹介、都市文化装置としてのカフェ
7,8	百貨店論/東京への文化的装置の集中①	都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程
9,10	東京への文化的装置の集中②/①映画や小説の中の東京	文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容
11,12	アジアの諸都市①/アジアの諸都市②	アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ
13,14	都市と異文化受容/都市というメディア	異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用

【参考書】

授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

PC.DVD の使用もある。

【その他の重要事項】

多少、内容等が変わる可能性もある。

【Outline and objectives】

Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinarily, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

ARSI590R1

文化政策特殊講義（コンテンツツーリズム論）

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的に言えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンス/コンテンツ・ツーリズムとは何か？	ガイダンス/コンテンツツーリズムの説明
3,4	コンテンツ・ツーリズムの歴史/『北の国から』の魅力	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/テレビドラマによる観光創出の事例紹介
5,6	大河ドラマの魅力/韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力	テレビドラマによる観光創出の事例紹介/韓流ブーム
7,8	「水木しげるロード」ができた理由/『らき☆すた』現象	マンガ、アニメによる観光創出/アニメツーリズム
9,10	司馬遼太郎と藤沢周平/コンテンツがつくるイメー	歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介/イメージの形成について
11,12	ご当地ソング考/村上春樹を歩く	ご当地ソングによる観光創出/小説のツーリズム具体例
13,14	新海誠作品を巡る/長井龍雪作品を巡る	現在のアニメツーリズムの動向/インバウンド観光への影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之、彩流社
「物語を旅するひとびと 2」増淵敏之、彩流社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】

多少、内容が変わることもある。

【Outline and objectives】

Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be to be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

ARSI590R1

文化政策特殊講義（文化地理学）

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行っていく。

【到達目標】

到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的に進んでいる現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらしているのかを理解し、説明することができるまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主として進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1,2	人文地理学と現代社会/人文地理学と地域	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について
3,4	文化地理学入門 1/2	文化地理学のこれまでの流れを説明
5,6	食文化の地理学 1/2	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、パウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る
7,8	文化的地域差についての議論 1/2	テーマを設定し、学生間での議論を行う
9,10	ことばの地域性/景観の地域性	言語地理学について学び、その後、景観論に言及する
11,12	習慣の文化的差異/文化的差異を形成する要因	儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について
13,14	ポピュラーカルチャーの地理学 1/2	これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしていくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「文化地理学ガイダンス」中川 正、神田 孝治、森 正人、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことをこころがける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：金 16 - 18 時

【Outline and objectives】

When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSI590R1

文化政策特殊講義 (文化基盤形成論)

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要があるだろう。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひとつひとつのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

【到達目標】

学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1/2	文化基盤とは何か？ / 歴史地理学的なアプローチの検討	文化基盤の説明/時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成
3/4	文士村/芸術家村、学者村	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成について/池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について
5/6	サロンという場/ストリートという場	サロンの形成、その事例紹介/ストリートにおけるコミュニケーション
7/8	札幌における文化基盤形成のプロセス 1/2	札幌農学校を軸にした文化基盤形成/産業創出への展開
10/11	福岡における文化基盤形成のプロセス/大連における文化基盤形成のプロセス	ポップミュージックを軸にした文化基盤形成/戦前期大連における日本人の文化ネットワーク
11/12	海外での文化基盤形成の事例 1/2	ロンドン・チェルシー、ニューヨーク・グリニッジビレッジ、ミュンヘン・シュワビング等の紹介
13/14	履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表 1/2	履修学生の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。13/14 回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

今橋映子『異都憧憬 日本人のバリ』平凡社
増淵敏之『湘南の誕生 音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

【成績評価の方法と基準】

平常点（発表含む）30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味の持てる内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。

【Outline and objectives】

Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

TRS590R1

観光政策特殊講義（ニューツーリズム論）

須藤 廣

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における観光の形態、変動の方向について確かな視点を持つことを先ずこの授業の目標とする。そこから観光のあり方の変容の背後に存在する、国家のレジャー政策、観光産業、文化産業の戦略等を多方面から学修する。観光におけるマストツーリズムからニューツーリズムへの道筋を批判的に捉える力を身につける。

【到達目標】

先進国における観光のあり方はマストツーリズムからニューツーリズム（ポスト・マストツーリズム）へと変化したのであるが、戦後の歴史を見れば、このことはフォーディズム型観光からポストフォーディズム型観光への変化として捉えることができる。そのなかで現代観光の特徴は観光対象が「名所」「旧跡」「名勝」といった固定的なものから、観光客や地元住民が「参加」しつつ、創作するものへと変化してきたことである。また、現代における観光資源の創造は、近代化遺産のような歴史や文化の保護・保全といったものと、テーマパークやコンテンツ・ツーリズム等人工的なものの創造（捏造）の2つのタイプに分けられる。しかし、この2つは融合しつつ様々なパターンを形成しつつある。これらがどのような意味を持つものなのかを、現代における観光の様々な形態から解き明かしてゆく。また学生には、現代における国内外の「観光政策」の文脈を捉えつつ、それらが正負の価値を持つものとして「両義的」なものとして見る視座を創り上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各授業は1回目は講義のみ、2回目からは各講義の前半部分は講義型を中心に、後半においては学生の発表も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション マストツーリズムから ニューツーリズム（ポスト・マストツーリズム）へ の変化の背景	授業の全容の紹介及び、 フォーディズム体制における国家とレ ジャーについて、そしてポストフォー ディズム体制における観光の変容につ いて講義。
第2回	英国の近代とレジャーの 発生、及び観光政策、観 光産業発展史	観光のフォーディズムとポストフォー ディズム、前半：マストツーリズム、 ニューツーリズムの発生についての 講義 後半：老川慶喜『鉄道と観光の近現代 史』を読む。
第3回	戦前の日本における近代 観光の発展と国家の観光 政策	前半：明治から第2次大戦までの観光 政策と観光産業の歴史を講義。 後半：平山昇『鉄道が変えた社寺参詣 ―初詣は鉄道とともに生まれ育った』 を読む。
第4回	戦後の日本における大衆 消費型マストツーリズムの 形成	前半：東京オリンピック、大阪万博以 降、特に「ディズカバージャパン」政 策について講義 後半：森彰英『ディズカバージャパン の時代―新しい旅を創造した、史上最 大のキャンペーン』を読む。
第5回	リゾート（総合保養地域 整備）法と観光バブル 観光における虚構の進展	前半：1980年代～1990年代までリ ゾート法が作った観光バブルとその反 省について、及び全国総合開発計画 （全総）と観光との関係について講義。 後半：佐藤誠『リゾート列島』、能登 路雅子『ディズニールランドという聖 地』を読む。
第6回	ポストモダン社会におけ る観光が向かう方向につ いて	アートツーリズム、ダークツーリス ム、リアリティツーリズム、まんがア ニメツーリズムの可能性と限界について 考える
第7回	ポスト・マストツーリズム 時代における、観光文化 が社会に対して持つ変革 可能性とその限界につい て	映画「僕たちは世界を変えることがで きない」から、観光がどの程度コスモ ポリタンな連帯や自己変革に寄与でき るかを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず講義後半で扱う書籍、論文を読んで参加すること

【テキスト（教科書）】

イントロダクションで、受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

須藤廣（2012）『ツーリズムとポストモダン社会―後期近代における観光の両義性』明石書店

その他、授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・ディスカッションへ等平常点（50%）、レポート（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとした。

【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回授業で解説すると同時に、履修者の希望等をヒアリングする。そのため、初回授業は要出席。講義内容は、受講者の関心等に沿って変更することも可能とする。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is for the students to have a clear view point to the changing mode of contemporary tourism. Then students investigate the policies of leisure, tourism, and culture made by national and regional government. This lecture depicts the critical or alternative ways of the tourism which changes from mass-tourism to new-tourism or post mass-tourism.

TR590R1

観光政策特殊講義（観光開発論）

須藤 廣

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の観光化について考察する授業である。観光は生活文化主体の地域文化を、観光という視点から再構成する。その際、視覚的に目立たず分りにくい生活文化の多くは排除され、観光客が視覚的に受け入れやすく手短に理解できる部分のみ選別され、分かりやすいものに作りかえられる。文化とは社会的条件によって作りかえられるものであるが、観光文化は文化に特殊な枠付け方を施すことは否めない。以上のことから、観光化された地域は従来の生活文化と観光によってもたらされた観光文化との対立を孕むことになる。前半のテーマは観光地の対立の図式についてである。

しかしながら、観光を生業とせざるを得ない地域の人々においては、観光文化への適応が急務となる。この時間問題となるのが自立か依存かの問題である。この授業では経済的自立よりも社会的、文化的自立の問題、あるいはアイデンティティにおける自立の問題に焦点を当てる。さらにこの問題を最終的には政治的ヘゲモニーの問題と結びつけて考える

【到達目標】

この授業では、観光がもたらす社会問題に目を向け、それを観光地住民のヘゲモニーのもと、彼ら自身の文化を創り上げるなかで解決することについて考える。最終的には、観光文化の持つ人工性をネガティブなものからポジティブなものへと転換し、観光地住民の手で観光を創造するにはどのような方法があり得るのか、あるいはどのように支援することができるのかを学修し、観光開発に関する課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半の講義は、主にアジアの少数民族の観光化を例にとりて、観光のまなごしの両義性について進めて行く。後半は地域住民の社会的、文化的自立のために、観光のアイデンティティ創造力を「利用」する方法について考える。このために、講義が中心であるが、参加者が議論に参加するように促したい。また、都内の下町観光という「観光開発」について、簡単なフィールドを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと問題提起	簡単に授業を概説し、「観光の罫」について議論をした後、映画『ザ・ビーチ』を部分的に見て議論をする。
第 2 回	観光の文化と生活の文化、オリエンタリズム、観光のまなごし、観光の文脈と生活の文脈について	映画『ザ・ビーチ』を「生活文化と観光文化の対立」、欧米人のアジア観とオリエンタリズム（エドワード・W・サイード）、ロマン主義的まなごし（ジョン・アーリ）の理論を使って読み込み、そこからアジアにおける観光開発の是非について考える。
第 3 回	少数民族の観光化 1 + 2（タイのカヤン首長族 + 中国雲南省ナシ族、チベット族、ハニ族）	タイ、メーホンソーンに住む難民としてのカヤン首長族の観光化、及び中国雲南省の麗江、シャングリラ、元陽における少数民族観光地の問題点を探る。ここでは、観光文化が生活文化を駆逐してしまう例を見る。
第 4 回	少数民族の観光化 3 + 4（北部ベトナムの山岳民族、及びハワイのネイティブハワイアン）	ベトナム北部中国国境付近に住むモン族、ザオ族、ザイ族の観光化適応の是非について考える。観光化に反対しつつ、自らの観光を創造してゆくネイティブハワイアンの文化復興運動にも目を向ける。ここから、観光化に自ら乗るという戦略はどのような条件の下で可能か考える。
第 5 回	観光における鎖国か開国か（ブータン、ラオス、ミャンマーの観光戦略を比較する）及び日本におけるインバウンド観光政策の変遷	外国人の一般観光客の自由な往来を拒否するブータンと歓迎するラオス等を比較し、観光がもたらす弊害とはなにかを考え、それを軽減する方策と観光地住民の自立について考える。また、オリエンタリズムと日本の観光の歴史と今日の日本の自己オリエンタリズムについて考え、日本政府がインバウンド・ツーリズムに関連してどのような政策をもっていたのか歴史的に分析する。

第 6 回 日本における観光開発の問題点

リゾート法と湯沢温泉、由布院温泉、由布院の観光開発反対運動と観光化の問題点、門司港の観光開発における地元住民の不満について考察する。また、宮崎シーガイアの例、佐世保ハウステンボスの例、北九州スペースワールド等、リゾート法で生まれたテーマ観光地の問題点を分析する。日本における観光地住民のまちづくり参加を「自立」という側面から考える。住民参加による街歩きガイド、B1グランプリ等食によるまちづくり等、新しい「観光まちづくり運動」が住民の自立につながるのか議論する。また、グリーン・ツーリズム等サステイナブル・ツーリズムと自立の問題についても、実例から分析する。都内の町歩き観光についてのフィールドワークを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が観光地の社会・文化運動について、「観光の罫」（リスク）を心に留めながら、批判的にフィールドワークをしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

須藤廣『ツーリズムとポストモダン社会』明石書店、2012 年

【参考書】

佐藤誠『リゾート列島』岩波書店、1990 年

E・W・サイード、今沢紀子訳『オリエンタリズム上・下』平凡社、1993 年
ジョン・アーリ、加太宏邦訳『観光のまなごし—現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版、1995 年

須藤廣、遠藤英樹『観光社会学 2.0 — 拡がりゆくツーリズム研究』明石書店、2018 年

須藤廣『観光化する社会—観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版、2008 年
その他、授業にて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30 点、レポート 70 点

【学生の意見等からの気づき】

アンケート内容にもとづき改善してゆく。

【Outline and objectives】

This lecture considers the culture which is made by the tourism developments. Tourism reconstructs the local culture of the daily life from the viewpoint of tourists. In tourism, complexed objects difficult to understand in a short time are transformed into visually conspicuous objects easy to understand. This lecture depicts the identity changes and the social, cultural problems accompanied by tourism developments.

TRS590R1

観光政策特殊講義（観光社会学）

須藤 廣

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における観光のあり方、及び現代社会がいかに「観光的なるもの」によって成立しているのかを探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、観光が元来持っている文化の特徴と消費社会における現代文化の特徴の両者を把握しつつ、現代の「観光」について理解することを本講義では目的とする。

【到達目標】

現代社会における観光のあり方を、現代社会の特徴との関係において分析できる力を養う。現代社会において観光はサービス商品の一つであるとともに、それからはみ出す「余剰」としての「社会構築（連帯）的」部分を持っている。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者を養うことがこの授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義によって授業を進める。内容に区切りを設け、その都度学生に質問や意見を求め議論をする。2 回ほどリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、観光の基本構造	先ず、授業を概説し、その後で観光社会学の基本理論について概説する。近代社会と観光的なるものの変容について、ダニエル・ブーアスティン、ディーン・マッキヤーネル、ジョン・アーリ、ジョージ・リッツァーの理論を紹介し議論する。
第 2 回	起源としての巡礼と観光の近代化	最初に宗教的側面について、実例として、伊勢参りを取り上げる。日本以外の巡礼についてもビデオ等を見ながらその特徴を考える。また、ヨーロッパのグランツァーについても解説し議論する。
第 3 回	戦後の日本の観光（戦後から 1970 年代まで）	戦後、特に東京オリンピック以降、日本人の観光のあり方がどのように変わったかを見てゆく。観光は視覚化され、イメージ化され、さらに次第に人工的なものになってゆく。1970 年代の「ディスカバー・ジャパン」キャンペーンまでの日本の観光についても考える。
第 4 回	メディア消費化する観光（1980 年代以降）	1970 年代から急激に成長した日本人のハワイ観光について考える。また、1980 年代以降の日本人の観光客の個人化と観光消費の記号消費化について考える。特に 1983 年の東京ディズニーランドの開園は日本の観光のあり方を大きく変えた。ディズニーランドの意味についても議論する。
第 5 回	記号消費とポストモダンズム、そして観光消費	ポストモダンズムの文化と観光消費の親和性について考える。成長と平等という「大きな物語」が消失した後、観光地住民にとっても、観光者にとっても、観光がアイデンティティ創出の重要な手段となってきた。下町散策等、生活圏の観光化も一つの潮流になりつつある。ノスタルジーやエキゾティシズムも含めた、日本の記号消費と観光のあり方について考える。

第 6 回 ポストモダン社会における観光と参加する観光地住民

1990 年以降、観光による社会的アイデンティティづくりを重要な手段とするまちづくり運動が各地で行われるようになった。このような運動は 1987 年に施行された「リゾート法」以降の日本の観光のあり方への批判とセットとなっている。こういった「観光まちづくり運動」とは何だったのかを問う。由布院の例を解説する。また、まんがアニメツーリズム、アートツーリズム、ダークツーリズムと観光地の表象について考える。

第 7 回 観光は人々を統合するの
か、それとも分断する
のか？ 現代観光の両義的側面について

これまでの講義の結論部分である。受講生と共に社会における観光の「可能性」や「限界」について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

観光地、観光的なるものについて、観光しているときに、あるいは街を歩いているときに批判的（批評的）に考える習慣を身につけて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

須藤廣『観光社会学 2.0』福村出版、2018 年

【参考書】

須藤廣、遠藤英樹『観光社会学—ツーリズム研究の冒険的試み』明石書店、2005 年
須藤廣『ツーリズムとポスト・モダン社会』明石書店、2012 年
D. マッキヤーネル（安村克己、須藤廣他訳）『ツーリスト—高度近代社会の構造分析』学文社、2012 年
その他、授業にて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 30 点、レポート 70 点。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート内容をよく見て改善する。

【Outline and objectives】

Tourism is an important resource of modern society. Sociology of Tourism is a part of sociology which considers the formation of modern society by investigating the role of tourism in modern society. This lecture depicts both the positive and the negative sides of tourism culture in modern or postmodern societies

TRS590R1

観光政策特殊講義（フィールドワーク論）

須藤 廣

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、フィールドワーク（現地調査）の考え方と基本技術を身に付けることを目的とする。基本的に質的調査に軸足を置く。

【到達目標】

フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれをどう生かすかについて学んでもらう。前半は講師のこれまでの研究実績を基にして、座学にて行い、後半は各自の研究テーマに沿った形で実際にフィールドワークを行ってもらい報告してもらう。また合同でフィールドワークも実践する。初回授業は4月24日である。zoom を使い遠隔授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンスフィールドワークの基本	授業の目的 フィールドワークを資料を用いて理解してもらう
2 回目	質的調査と量的調査の考え方と方法	社会調査の事例をみながら、質的と量的調査の基礎的な考え方と位置づけ、それぞれの分析手法を理解する。その上で、調査の全体構成の中で、量的と質的をどのように位置づけていくかについて学ぶ
3 回目	質的調査の実際	質的調査の手順と手法
4 回目	参与観察とは何か 調査の事前準備	参与観察の実例から学ぶ 各自調査の事前準備状況を報告
5 回目	調査論文の実例から学ぶ	調査論文、報告書の書き方を身につける 特に、観光関係の書籍、論文から、調査の実際について学ぶ
6 回目	各自調査の発表	それぞれが調査結果についてプレゼンテーションを行う
7 回目	振り返り	調査の困難な点、問題点について討議をし、解決法を見いだす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者に座学及び実践を通じてフィールドワークの考え方及び技術を習得してもらうことを目的にするため、事前準備の重要性が極めて重要であることから、授業時間以外に様々な知識や情報を得る努力をしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜紹介する。

【参考書】

佐藤郁也（2008）『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社
須藤廣（2008）『観光化する社会—観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、レポート 70%

【学生の意見等からの気づき】

担当者変更につき、本年度は学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【学生が準備すべき機器他】

タブレットやノート PC などでインターネットに接続できるものを持っていることが望ましい

【その他の重要事項】

とくになし。

【Outline and objectives】

In this lecture, we aim to acquire the concept and basic skills of field work (field survey). Basically we focus on qualitative research.

MAN590R1

産業政策特殊講義（地域産業論）

真壁 昭夫

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを目的するために、どのような政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深めることを目指す。具体的には、ケーススタディなどのプレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、あるべき地域産業政策内容などを議論する。

【到達目標】

わが国地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

外部講師のほか、受講者からのプレゼンテーション報告を行う。報告内容を基に、グループディスカッションを行い、討議から得られた内容を発表する。講義に関しては、受講者の能動的かつ積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	受講者の関心、問題意識などを確認し、講義の進め方などを確認する。
第 2 回	日本経済の状況	受講者からのプレゼンテーションを基に、マクロの観点からわが国経済、産業動向などがどうなっているか、どのような政策が重視されているかを理解する。
第 3 回	地域経済の状況①	受講者からのプレゼンテーションを基に、各地域の経済動向、産業上の強みなどを理解する。その上で、政策の効果などを評価する。
第 4 回	地域経済の状況②	第 3 回の講義内容を基に、地域における産業育成、その強化に必要な取り組みに関するプレゼンテーション、およびグループディスカッションを行う。
第 5 回	地域産業に関する政策	受講者からのプレゼンテーションにより、政府、地方自治体が進める政策内容を確認する。どのような政策が必要と考えられるか、グループディスカッションを行う。
第 6 回	地域産業の動向	受講者からのプレゼンテーションにより、地域での企業の経営状況、業績動向などを把握する。地域における企業の育成、競争力向上などのためにどのような取り組みが必要か、グループディスカッションを行う。
第 7 回	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントを抑える。また、受講者からの発表などを通して、疑問点などを確認し、更なる理解を深める機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の発表・ディスカッションへの参加等) (50%)、プレゼンテーション (50%) とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【Outline and objectives】

"Lectures on Regional Industry" is designed to understand business activities in regions of Japan. Based on the discussions in the class (mainly, group discussion), students will be required to present policy proposals to economic development in the region.

MAN590R1

産業政策特殊講義（地域経営戦略論）

真壁 昭夫

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方経済再生に必要な取り組みを経済政策、企業経営などの側面から多面的に考え、その内容を実務（政策立案・運営、企業戦略など）に活かすことを目指す。

【到達目標】

具体的に、わが国経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地方経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は、実際の経済活動の中で関心のある事象を選び、地方経済再生との関係に基づいて分析を行い、発表を行う。また、グループディスカッションを行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。実際の内容については、受講者の人数や希望に応じてフレキシブルに対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	受講者の関心などを確認し、どのような観点か地方創生などに関する取り組みを議論すべきか、ディスカッションを行う。
第 2 回	地方経営と政策	受講者からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）を確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解を深めるために、グループディスカッションを行う。
第 3 回	地方経営のケーススタディ①	プレゼンテーションを基に、比較的成功していると考えられる地方創生のケーススタディを行う。その上で、グループディスカッションを行い、企業経営や地方自治体の采井に必要な取り組みなどを議論する。
第 4 回	地方経営のケーススタディ②	プレゼンテーションを通して、企業経営に焦点を当て、地方に本拠地を置く企業がどのような状況にあるか、その中でどのような産業、企業が競争力を発揮していると考えられるかを確認する。また、グループディスカッションを行う。
第 5 回	地方経営と観光	プレゼンテーションより、近年わが国の地方経済に無視できない影響を与えている観光ビジネスの動向を理解する。さらに、グループディスカッションを行い、どのような取り組みが必要か、理解を深める。
第 6 回	政策提言	経済政策の視点から、どのような政策プログラムが地方経営に必要と考えられるか、プレゼンテーションとグループディスカッションを行う。
第 7 回	まとめ	一連の講義を通して、地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地方経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の発表・ディスカッションへの参加等) (50%)、プレゼンテーション (50%) とする。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション、グループディスカッションへの積極的参加が重要

【その他の重要事項】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【Outline and objectives】

"Regional Management and Strategy" focuses on the analysis on economic policies and management strategies for enterprises in the regions of Japan. Then, aims to design effective policy or management strategies for the economic development.

ECN590R1

産業政策特殊講義 (行動経済学)

真壁 昭夫

科目分類：博士後期 (選択必修) | 単位：2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座は、世界的に注目を集めている心理学をツールとした新しい経済学である行動経済学の基礎について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

具体的目標としては、行動経済学の概要を理解すること、そして実際の経済活動を行動経済学の考え方に基づき解析し、自分なりのロジックを構築することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

行動経済学に関する文献、論文等を講読する。受講者は、実際の経済活動の中で関心のある事象を選んで、行動経済学的な見地からの分析を行い、発表することによって新しい経済学のフレームワークへの理解を深める。また、グループディスカッションを行うことで、より深い知識の習得を目指す。

実際の内容については、受講者の人数や希望に応じてフレキシブルに対応する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参考図書や文献等によって行動経済学の概要を学ぶ。
第 2 回	行動経済学の主要理論	参考図書等によって行動経済学の主要理論を学ぶ。
第 3 回	伝統的経済学の理論と行動経済学の理論の比較	新古典派などの伝統的な経済学に比べ、行動経済学にはどのような特徴があるかを参考文献などをもとにして、発表、議論する。
第 4 回	行動経済学の最新理論とその応用①プロスペクト理論	行動経済学の中核的理論であるプロスペクト理論を紹介する。実際に、その理論が日常生活の中で応用できるケースなどをグループワークなどを通して確認する。
第 5 回	行動経済学の最新理論とその応用②ヒューリスティック	ヒューリスティックに関する理論を確認する。また、生活の中でヒューリスティックに影響されているケースなどを受講者間で確認し、行動経済学が個人の行動様式を見直すことに役立つことなどを考える。
第 6 回	行動経済学と金融市場の動き	行動経済学の長所は、バブルの発生過程を客観的に説明可能なことである。バブルの歴史を受講者間で確認し、行動経済学の理論を用いてどのように金融市場を分析するかを議論する。
第 7 回	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、行動経済学のポイントを抑える。また、受講者からの発表などを通して、疑問点などを確認し、更なる理解を深める機会とする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それを行動経済学的な知見に基づいてより深く検討すること。すべての履修者は、そうした検討に基づいてディスカッションを展開する準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

イントロダクションで、受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。拙著「行動経済学入門」(ダイヤモンド社) は有効な選択肢と考える。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の発表・ディスカッションへの参加等) (50%)、プレゼンテーション (50%) とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回授業で解説すると同時に、履修者の希望等をヒアリングする。そのため、初回授業は要出席。講義内容は、受講者の関心等に沿って変更することも可能とする。

【Outline and objectives】

This lecture aims to understand the basic theories of behavioral economics.

ECN590R1

産業政策特殊講義（応用行動経済学）

真壁 昭夫

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、心理学を基礎的ツールとした新しい分野の経済学である行動経済学を用いて、経済、政策運営等に関する施行方法、その政策効果について分析力を習得することを目的とする。

【到達目標】

具体的目標としては、行動経済学の概要を理解したうえで、実際の経済活動（金融市場の動向や企業の経営戦略など）を行動経済学の考え方にに基づき解析し、自分なりのロジックを構築することを重視する。特に、行動経済学理論を応用し、実際に各国で運営されている政策を行動経済学の観点から分析することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

行動経済学に関する文献、論文等を講読する。受講者は、実際の経済活動の中で関心のある事象を選んで、行動経済学的な見地からの分析を行い、発表することによって新しい経済学のフレームワークへの理解を深め、それをもとに実際に起きている経済現象や政策運営の在り方を考察する。また、グループディスカッション等を行うことで、より深い知識の習得を目指す。

実際の内容については、受講者の人数や希望に応じてフレキシブルに対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参考図書や文献等によって行動経済学の概要を学ぶ。
第 2 回	行動経済学の主要理論の確認	参考図書等によって行動経済学の主要理論を学ぶ。
第 3 回	行動経済学を用いた経済・政策分析	受講者各自の関心に基づいて、日常の経済事象、各種政策に関する分析を行い、発表・討議する
第 4 回	行動経済学を用いた政策分析	第 3 回目の講義をベースに、近年、世界的に関心を集めているナッジの理論に関する理解を深める。受講者によるナッジの理論を応用した政策分析などの発表を行う。
第 5 回	行動経済学を用いた政策分析②	2017 年ノーベル経済学賞を受賞したリチャード・セイラー教授の論文などを参考にしつつ、ナッジの理論を用いた最先端の研究内容についてグループワークなどを行う。
第 6 回	行動経済学を用いた地方創生の検証	地方の創意工夫を引き出しつつ、持続的かつ各地方が独立した形で産業振興などを進めるためにはどのような発想が必要か。行動経済学の理論をもとにグループディスカッションなどを行う。
第 7 回	総括	一連の講義を通して、行動経済学の理論を用いた政策立案、その評価等の可能性を受講者間で議論する。また、行動経済学に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際の経済現象（景気動向、金融市場の動向、経済環境と企業の経営戦略など）や、金融・財政政策をはじめとする各種政策の運営について各人の関心を高め、それを行動経済学的な知見に基づいてより深く検討すること。すべての履修者は、そうした検討に基づいてディスカッションを展開する準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

イントロダクションで、受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。拙著「最新 行動経済学入門」（朝日新書）は有効な選択肢と考える。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発表・ディスカッションへの参加等）（50％）、プレゼンテーション（50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回授業で解説すると同時に、履修者の希望等をヒアリングする。そのため、初回授業は要出席。講義内容は、受講者の関心等に沿って変更することも可能とする。

【Outline and objectives】

This class focuses on the advanced studies of the behavioral economics, especially empirical studies on the economic activities and policy design and management using the latest research and related articles.

MAN590R1

企業経営特殊講義（中小企業論）

井上 善海

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

【到達目標】

- ①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
- ②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。
4	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上善海編著（2014）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300 円）

【参考書】

井上善海編（2009）『中小企業の戦略』同友館（2,800 円）

中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50％）、講義内で課すミニレポート（50％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN590R1

企業経営特殊講義（経営戦略論）

井上 善海

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経営戦略に関するこれまでの論点と研究成果を体系的に提示するとともに、その理論的枠組みを考察していくことをねらいとしています。このため、経営戦略の中でも事業戦略に焦点を当て、その策定・実行・評価のプロセスに従い、戦略の基礎理論とケーススタディを組み合わせ講義を進めます。これにより、伝統的理論からどのようにして現代の新しい戦略論が抽出・形成されてきたのかを理解していただきます。

【到達目標】

- ①経営戦略論の史変遷を説明できる。
- ②経営戦略の策定・実行・評価のプロセスを説明できる。
- ③経営戦略の理論を実践（ケーススタディ）で検証できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経営戦略とは ミッション	企業経営における経営戦略の役割と企業活動レベルごとの戦略の広がりと深さについて。 ミッションの明確化が戦略策定の最初の段階に位置付けられ、最も重要な戦略要素となることについて。
2	ドメイン 環境・資源分析	ドメインにコア・コンピタンスの考え方が深くかかわっていることについて。 経営環境と経営資源をマトリックスで分析することについて。
3	成長ベクトル 多角化	製品と市場の組み合わせにより、企業の成長戦略を4つに分類できることについて。 成長戦略のなかでもリスクの高い多角化について。
4	製品ポートフォリオ・マネジメント	2次元マトリックスによる複数の事業や製品に対する資源配分決定について。
5	成長戦略の展開 業界の構造分析 競争の基本戦略	グローバル戦略、戦略提携について。 5つの競争要因分析について。 競争の基本戦略の役割と競争地位ごとに採用する戦略の違いについて。
6	バリューチェーン 競争戦略の展開	バリューチェーンの構成とコーペティション戦略について。 タイムベース戦略、デifactスタンダード戦略、ブルーオーシャン戦略について。
7	経営戦略の実行と評価	戦略は計画的に策定され、創発的に形成されなければならないことについて。 戦略評価について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上・大杉・森（2015）『経営戦略入門』中央経済社（2,200 円）

【参考書】

井上善海・佐久間信夫編（2008）『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房（2,500 円）
その他、各回の講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50％）、講義内で課すミニレポート（50％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

This lecture aims to systematically present past issues and research results on management strategy and to examine its theoretical framework. For this reason, we will focus on business strategy among management strategies, and pursue a lecture that combines the basic theory of strategy and case study according to the process of formulation, execution and evaluation. By doing this, you understand how the modern new strategy theory has been extracted and formed from traditional theory.

MAN590R1

企業経営特殊講義（新産業創出論）

井上 善海

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第4次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。第4次産業革命は、大企業だけでなく中小企業や地域経済へも大きな影響を与えています。

本講義では、第4次産業革命に対応した地域経済の発展と中小企業に焦点を当て、地域の産業資源を最大限に活用した新産業創出のあり方やそれを支援する政策について考察を行います。

【到達目標】

- ①第4次産業革命の地域経済や中小企業への影響について説明できる。
- ②新産業創出の外発的、内発的な政策について説明できる。
- ③新産業創出のための支援機関や自治体の独自政策の必要性について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第4次産業革命と地域経済、中小企業	第4次産業革命が地域経済や中小企業に及ぼす影響について。
2	国際競争力を高める中小企業によるイノベーション	イノベーションを加速化するためのオープンイノベーションシステムについて。
3	外発的な誘致企業による新産業創出政策	企業誘致の促進と誘致企業の流出防止について。
4	内発的な地元企業による新産業創出政策	地域の産業資源を最大限に活用した地元企業による新産業創出について。
5	産学連携による新産業創出政策	大学研究室と地域中小企業との連携による様々な製品開発や実用化研究について。
6	新産業創出支援機関の役割	成長分野における新規事業の開拓や新技術を活用した既存事業の高度化、新たなビジネスモデルによる事業展開等を支援する機関について。
7	自治体独自の新産業創出政策の必要性	迅速かつ柔軟な新産業創出を可能とする制度・環境整備について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50%）、講義内で課すミニレポート（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The 4th industrial revolution where new industries are born by IoT, big data, artificial intelligence (AI), technological innovation typified by robot is progressing with unexpected speed and impact. The Fourth Industrial Revolution has great influence not only on large enterprises but also on SMEs and regional economies. In this lecture, we focus on the development of regional economies that respond to the Fourth Industrial Revolution and focus on small and medium enterprises and consider how to create new industries that maximally utilize local industrial resources and policies that support them.

MAN590R1

企業経営特殊講義（商店街活性化論）

井上 善海

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人口減少、大型店の郊外進出、コンビニの出現・増加、ネット通販の拡大等、商店街を取り巻く経営環境は、それぞれの時代において大きく変化してきました。それに対し、政府は各種の中心市街地政策や商店街政策を講じてきましたが、これらの政策が目に見える効果を上げてきたかどうかは議論が分かれるところです。

本講義では、商店街が今後も地域コミュニティの担い手として期待される役割を発揮していくためには、どのような政策や取り組みが必要かについて考察していきます。

【到達目標】

- ①地域経済における商店街の役割について説明できる。
- ②ショッピングセンター等の商業集積とは異なった商店街の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、存続・成長を続けていくための商店街活性化策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	流通革命と中小小売業	消費者サイドが市場を定義する主役となる第三次流通革命の進展と中小小売業の対応について。
2	商店街の現状と歴史	小売立地の構造的変化と商店街の衰退、規制緩和と競争激化、業種から業態への変化、ネットワーク化への対応といった中小小売業の経営危機について。
3	商業集積としての商店街	自然発生的な日本の商店街と計画形成的な米国発祥のショッピングセンターとの経営特性の違いについて。
4	地域経済における商店街の役割	地域コミュニティの核となる商店街の果たすべき社会的、公共的役割の向上を通じて、商店街に賑わいを創出し活性化を図ることについて。
5	商店街活性化政策① 「商店街活性化計画」	商店街のもつ限られた経営資源を効率良く活用するための「商店街活性化計画」について。
6	商店街活性化政策② 「空き店舗対策・個店の魅力アップ」	商店街は個店の集積であり、魅力ある個店が増えることで商店街が活性化することについて。
7	商店街活性化政策③ 「後継者育成」	若手・後継者などの内部人材を商店街の新たな担い手として発掘・育成することについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の 3 つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50%）、講義内で課すミニレポート（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The business environment surrounding shopping districts has changed dramatically in each era, such as population decrease, the expansion of large stores in the suburbs, the appearance and increase of convenience stores, and the expansion of online mail order. On the other hand, the government has taken various central city policies and shopping street policies, but it is a matter of argument whether these policies have made visible effects. In this lecture, we will consider what policies and initiatives are necessary for the shopping district to continue to demonstrate the role expected as a carrier of the local community.

MAN590R1

CSR 特殊講義（CSR 論）

小方 信幸

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、CSR を本業を通じ社会価値と経済価値を実現する CSV (Creating shared Value, 共通価値の創造) と定義する。授業の前半では講義を行い、後半はグループディスカッションを行う。講義とグループディスカッションを通じ、企業が CSV を実現する経路を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

受講生は、企業が本業を通じて社会価値と経済価値を創造する「共通価値の創造」について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回授業は4月27日（月）6・7時限に行う。授業はすべて Zoom を使用したオンライン授業となる。「学習支援システム」には授業資料に加え、オンライン授業への参加方法を掲載する。毎回、「学習支援システム」の事前確認を励行して頂きたい。

毎回、原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループディスカッションを行う。CSV を実践している企業のケースを通じて、企業が本業を通じて社会価値と経済価値を創造する経路を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) 講義：歴史から学ぶ CSR の概念
2	国際的規範 (1)	(1) 講義：国際連合のグローバル・コンパクト、責任投資原則 (2) ケース：「脱炭素社会」を考える。
3	国際的規範 (2)	(1) 講義：国際連合の持続可能な開発目標 (SDGs) (2) わが国の企業の対応
4	共通価値の創造 (CSV)	(1) 講義：CSV (2) ケース：ネスレと味の素グループ
5	サステナビリティ経営を考える	(1) 講義：CSV とサステナビリティ経営の関係 (2) ケース：ユニリーバと花王
6	CSR の概念整理	(1) 講義：CSR, CSV, ESG, SDGs などの概念整理 (2) ケース：コマツ
7	共通価値の創造 (CSV) 中小企業の事例	(1) 講義：環境保全を通じた地域活性化について考える (2) ケース：石坂産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 配布資料を事前に読んで、授業で発言できるように準備する。
(2) 授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・授業貢献（40%）、期末レポート（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 学生発表の機会を今まで以上に増やすように努める。教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。
(2) 企業の CSR 部門の責任者をゲストスピーカーとして招聘したところ、受講生全員から CSR および CSV についての理解が深まったとの感想が寄せられた。2020 年度も授業の目的に合った方をゲストスピーカーとして招聘する考えである。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカーを招く場合は、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

In this course, CSR is defined as Creating Shared Value, CSV. The aim of this course is to help students acquire understanding of CSV. Students are expected to explain the essential concepts of CSV, discuss the specific subjects.

MAN590R1

CSR 特殊講義（企業活動と社会Ⅰ）

小方 信幸

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動において法令遵守は最低限の企業の社会的責任という。しかし、国内外を問わず非倫理的行為である企業不祥事は後を絶たない。そこで、当授業では、ケースメソッドを用い、企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき企業倫理のフレームワークを理解する。授業の前半は主に講義を行う。後半はケース・メソッドで授業を進め、さらにグループディスカッションを行う。

【到達目標】

- (1) 企業倫理のフレームワークを理解できる。
- (2) 現実のビジネスで企業が非倫理的行為を行う原因を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回授業は6月15日（月）6・7時限に行う。市ヶ谷キャンパス入構禁止が続くなどの場合は、オンラインで授業を行う。当科目では最初に規範倫理学の基礎理論を学ぶ。そのうえで、ケースメソッドを用い、企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき企業倫理のフレームワークを理解する。授業前半は主に講義を行い、後半はケース・メソッドで授業を進める。グループディスカッション、報告、全体討論を通じて、企業倫理についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 企業倫理の理論 功利主義と現代社会	(1) 講義：倫理的利己主義と功利主義 (2) ケース：フォード・ピントのケース
2	企業倫理の理論 カント「義務論」	(1) 講義：カント「義務論」 (2) ケース：プレント・スパーの処理を巡るケース
3	企業倫理の理論 ロールズ「正義論」	(1) 講義：ロールズ「正義論」 (2) ケース：貧富の差について考える
4	企業倫理の実践 顧客関連の倫理	(1) 講義 (2) ケース：シアーズ自動車センター
5	企業倫理の実践 国際経営の倫理	(1) 講義：児童労働 (2) ケース：バングラデシュにおけるリーヴァイス社のケース
6	企業倫理の支援制度 粉飾決算と内部統制	(1) 講義：不正防止のためのコーポレートガバナンス (2) ケース：オリンパスの「飛ばし」
7	企業倫理と企業利益のジレンマ	(1) 講義：企業倫理を改めて考える (2) ケース：技術者倫理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 配布資料を事前に読み、授業で発言できるように準備する。
- (2) 授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

梅津光弘（2002）『ビジネスの倫理学』丸善出版、1,900 円＋税
井上泉（2015）『企業不祥事の研究』文眞堂、2,200 円＋税
マイケル・サンデル（訳）鬼澤忍（2011）『これからの「正義」の話をしよう』早川書房（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）、900 円＋税 その他参考書は都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業貢献・討論40%、期末レポート60%を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生から企業のコンプライアンス担当者などのゲストスピーカー招聘の希望があった。当授業の目的に合致した方の招聘を検討する。

【その他の重要事項】

ゲスト・スピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を一部変更することもある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire understanding of business activity and ethics. Participants are expected to explain the essential concepts of business and ethics, and to discuss the specific subjects.

MAN590R1

CSR 特殊講義 (ESG 投資と企業経営)

小方 信幸

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、長期投資家である ESG 投資家と企業経営者が建設的対話を行うことにより、持続可能な社会が実現する仕組みを理解する。

【到達目標】

- (1) 投資の意思決定の際に、環境 (Environment, E)、社会 (Social, S)、ガバナンス (Governance, G) の 3 つの非財務要因 (ESG 要因) を考慮する ESG 投資と、ESG 投資市場について理解できる。
- (2) ESG 投資が生まれた歴史的背景を理解できる。
- (3) ESG 投資家と企業経営者が ESG 要因について建設的な対話を行うことにより、持続可能な社会を実現できる論理を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では理論と事例についての講義を行い、後半では講義の内容に沿った内容でグループディスカッションを行う。講義とグループディスカッションを通じ、ESG 投資と企業経営の関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) 講義の進め方 (2) 講義：ESG 投資の概要と歴史
2	ESG 投資市場の参加者	(1) 講義：ESG 投資市場の参加者 (2) ケース：わが国の年金基金の問題点
3	ESG 投資を支援する制度	(1) 講義：ステュワードシップ・コードとコーポレートガバナンス・コード (2) 討論：2 つのコードの目的
4	ESG 投資における投資の意思決定とリターン	(1) 講義：財務要因と非財務要因の評価 (2) ESG 投資のリターンは高いか？～先行研究からの示唆～
5	環境 (Environment, E) 要因とサステナビリティ	(1) 講義：企業を取り巻く環境問題 (2) ケース：JAL と ANA
6	社会 (Social, S) 要因とサステナビリティ経営	(1) 講義：ダイバーシティ経営 (2) ケース：ロレアルと資生堂
7	インパクト投資	(1) 講義：インパクト投資の概要 (2) 米国の成功事例とわが国における普及の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 配布資料を事前に読んで、授業で発言できるよう準備する。
- (2) 授業を振り返り、論点を整理する。

本授業の準備学習および復習の時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

小方信幸 (2016) 『社会的責任投資の投資哲学とパフォーマンスー ESG 投資の本質を歴史からたどるー』同文館出版
 アムンディ・ジャパン (2018) 『社会を変える投資 ESG 入門』日本経済新聞出版
 その他の参考書は都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業貢献 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目につき該当事項なし。ただし、学生の要望には柔軟に対応する。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。その際、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students to understand the engagement by ESG investors with corporate managers, which could realize a sustainable society.

MAN590R1

CSR 特殊講義 (SDGs と企業経営)

小方 信幸

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、国連が持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals, SDGs) を制定した歴史的背景を理解することを最初の目的とする。つぎに、SDGs の 17 目標について理解し、さらに、SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解することを目的とする。

【到達目標】

- (1) 国連が持続可能な開発目標 (SDGs) を制定した歴史的背景を理解できる。
- (2) SDGs の 17 の目標を理解できる。
- (3) SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループディスカッションを行う。講義とグループディスカッションを通じて、SDGs と企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(1) SDGs 誕生の歴史的背景 (2) 17 目標の全体像
2	SDGs の概念整理	(1) SDGs を 5 つの P で理解する。 (2) SDGs と CSV, CSR, ESG 投資との関係。
3	SDGs の人々 (People) に関する目標 (1)	貧困、飢餓、健康と福祉に関する目標 (SDGs Goal 1,2,3) と企業経営。
4	SDGs の人々 (People) に関する目標 (2)	教育、ジェンダー平等、安全な水とトイレに関する目標 (SDGs Goal 4,5,6) と企業経営。
5	SDGs の繁栄 (Prosperity) に関する目標 (1)	クリーンエネルギー、働きがい、技術革新に関する目標 (SDGs Goal 7,8,9) と企業経営
6	SDGs の繁栄 (Prosperity) に関する目標 (2)	人や国の不平等、街づくりに関する目標 (SDGs Goal 10,11) と企業経営
7	SDGs の地球 (Planet) に関する目標	つくる責任つかう責任、気候変動、海の豊かさ、陸の豊かさに関する目標 (SDGs Goal 12,13,14,15) と企業経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業貢献 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のため該当事項なし。ただし、学生からの要望には柔軟に対応する。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を変更することもある。

【Outline and objectives】

The aim of this course, at first, is to help students acquire understanding the historical background of the United Nations' Sustainable Development Goals (SDGs). The second is to understand the 17 goals of the SDGs. Third is to understand the relationship between the SDGs and corporate sustainability.

